

「次世代起点でありたい未来をつくる。
傾聴と対話で、多様な個をつむぎ、共
にあらたな価値をつむいでいく。」

2026 若者意識調査

サステナビリティ・SDGs、
キャリア、社会参加に関す
る意識



■ はじめに

「2026 若者意識調査 ―サステナビリティ、SDGs、キャリア観、平和、社会参加に関する意識―」（以下、本調査）は、2020 年、2022 年（注 1）に続き、国内の中学生、高校生、大学生を対象に、サステナビリティ、金融経済教育、キャリア等に関する意識についてウェブアンケート調査を実施したものである。

本調査の目的は、サステナビリティや金融経済教育など、社会のトレンドとなっているキーワードについて、将来社会を担う若者がどのような意識を持っているかを知ること、企業や団体などが政策提言、経営戦略、人材育成等の検討に活用することである。また、そうした若者の意識がキャリアや結婚観等に与える影響等についての示唆を得ることを期待している。

■ 調査の実施方法

- 調査期間および実施方法：2026 年 1 月 16 日から 2026 年 1 月 19 日にかけてウェブ調査により実施
- 調査対象：国内の中学生、高校生、大学生を対象とした。株式会社ネオマーケティングの調査パネル 1,000 人から回答を受領
- レポート集計対象：中学生 300 人（男子 150 人、女子 150 人）、高校生 300 人（男子 150 人、女子 150 人）、大学生 400 人（男子 200 人、女子 200 人）
* 中学生については、保護者を通じてアンケート調査を実施。

（注 1）

2020 年「若者の意識調査（報告） ― ESG および SDGs、キャリア等に対する意識 ―」
<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=36941>

2022 年「若者意識調査 ―サステナビリティ、金融経済教育、キャリア等に関する意識―」
<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=105899>

2026 年 9 月 15 日

調査担当チーム一同

瀬名波、橋爪、小島、青山、木下

<本調査に関する問い合わせ先>

メールアドレス：100860-SAKI[at]ml.jri.co.jp

・ エグゼクティブ・サマリー	4
・ 回答者の属性と傾向	7
1. サステナビリティ・SDGs	12
1.1. 国内や海外の環境問題や社会課題への関心	12
1.2. 関心のある環境問題や社会課題	14
1.3. 地域や社会をよくするための意欲	16
1.4. 環境問題や社会課題に対して自分にできることがあるか	17
1.4.1. 環境問題や社会課題に対し、「できることがある」と思う理由	18
1.4.2. 環境問題や社会課題に対し、「できない」と思う理由	20
1.4.3. 社会や地域に貢献する新たな活動を始めようとするときに必要なこと	22
1.5. 日頃行っている社会貢献活動	24
1.5.1. 社会貢献活動の実施場所	25
1.5.2. 寄付経験	27
1.5.2.1. 寄付をしたことがない理由	28
1.6. SDGs（持続可能な開発目標）の認知	30
1.7. 関心のある SDGs の 17 の目標	31
1.8. SDGs に対する考え	34
1.8.1. 「ポスト SDGs（次の時代の目標）」を考える際の重要な視点	35
1.8.2. 「ポスト SDGs（次の時代の目標）」を考える際の重要な視点を選択した理由	36
1.9. 商品購入時の、環境問題や社会課題に取り組む企業の商品かどうかの意識	37
1.10. 環境問題や社会課題に取り組む企業の認知経路	38
2. 金融・経済教育	40
2.1. 金融や経済への関心	40
2.2. 金融や経済に関して学ぶ機会	42
2.3. 金融や経済についての理解度	45
2.4. ESG 投資やサステナブル・ファイナンスの認知	48
2.5. 投資の意欲	49
2.6. 環境問題や社会課題に取り組む企業への投資の意欲	51
（参考）環境問題や社会課題に取り組む企業への投資に意欲がない理由	53
2.7. 環境問題や社会課題に関心をより深めるきっかけ	54
3. キャリア意識	56
3.1. 現在のキャリア意識	56
3.2. 結婚後に希望する働き方	61
3.2.1. 結婚後に希望する働き方_子どもがいない場合	61
3.2.2. 結婚後に希望する働き方_子どもがいる場合	63
3.3. 将来の働き方	65
3.4. 就職したい企業や団体の条件	69
3.5. 協同労働の認知	71
3.6. 環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲	72
4. 平和について	74
4.1. 平和に対する意識	74
4.1.1. 現在の日本の平和に対する意識	75
4.1.2. 将来の日本の平和に対する意識	76
4.1.3. 憲法 9 条の改正に対する考え	77
4.1.4. 憲法 9 条改正の議論の是非に対する考え	78
4.2. 日本の平和を守るために大事なこと	79

5. 多様性について	85
5.1. 多様な背景を持つ人と接する機会	85
5.2. 異なる価値観や文化に触れることの意味	86
5.3. 身近な環境が、さまざまな違いを尊重していると感じるか	88
6. 社会参加について	89
6.1. 在学中の社会参加の機会	89
6.1.1. 地域の企業や地域で働く人に社会や経済、仕事について教えてもらう機会	90
6.1.2. 地域の企業などでの職場体験・インターンシップの機会	92
6.1.3. 地域の企業や住民といっしょになって、地域課題の解決に取り組む機会	93
6.1.4. 多様な背景（国籍・文化・性別・障害など）をもつ人を理解する機会	94
6.1.5. 地域や国をまたぎ、人と交流する機会	95
7. 次世代からのメッセージ	96

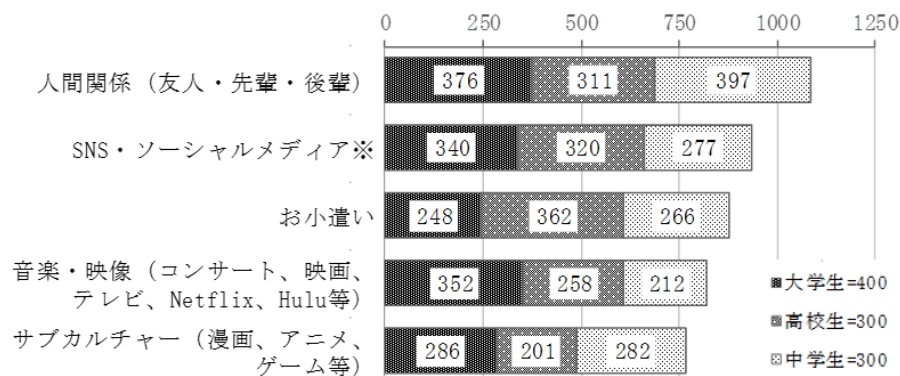
■ エグゼクティブ・サマリー

■ 回答者の属性と傾向

前々回調査（2020 年）、前回調査（2022 年）と同様に、日本国内に住む中学生 300 人（男子 150 人、女子 150 人）、高校生 300 人（男子 150 人、女子 150 人）、大学生 400 人（男子 200 人、女子 200 人）から有効な回答を得た。中学生については、保護者を通じてアンケート調査の依頼を行った。調査対象の関心は、高い順に「人間関係（友人・先輩・後輩）」、「SNS・ソーシャルメディア※」、「お小遣い」、「音楽・映像（コンサート、映画、テレビ、Netflix、Hulu 等）」と続く。

Ex 1：若者が関心を持っていることの上位

（＊合計10点を持ち点として、関心の高さに合わせて採点した点数）



※ YouTube、Twitter、TikTok、LINE、Facebook、Instagram 等

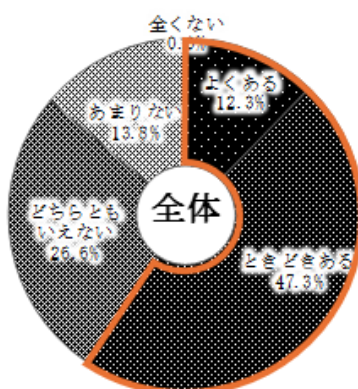
■ サステナビリティに対する関心

・国内外の環境問題や社会課題への関心を持つ若者は全体の 40.0%であった。学齢別では、中学生 28.0%、高校生 41.6%、大学生 47.8%となり、学齢が上がるにつれて関心が高まる傾向がみられた。

・「地域や社会をよくするための意欲がある」と回答した若者は 59.6%、「地域や社会をよくするために自分ができることはあると思う」という回答は 46.7%であった一方、そうした活動を日頃実施している若者の割合は 25.7%にとどまった。依然として意欲と行動との間にギャップはみられるが、行動の割合は3回の調査の中で最も高い水準となった。

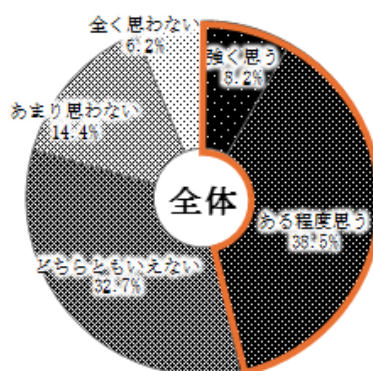
Ex 2：社会課題解決意欲と行動のギャップ

地域や社会をよくするための
意欲があるか



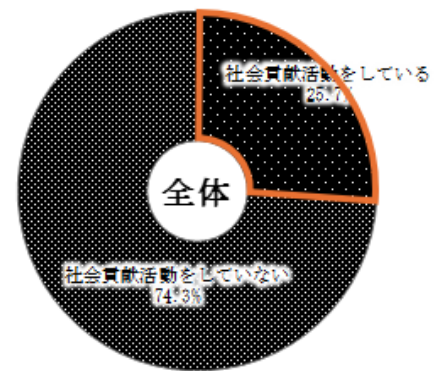
全体=1000

地域や社会をよくするために
自分ができることはあると思うか



全体= 1000

日頃社会貢献活動を行っているか



全体= 1000

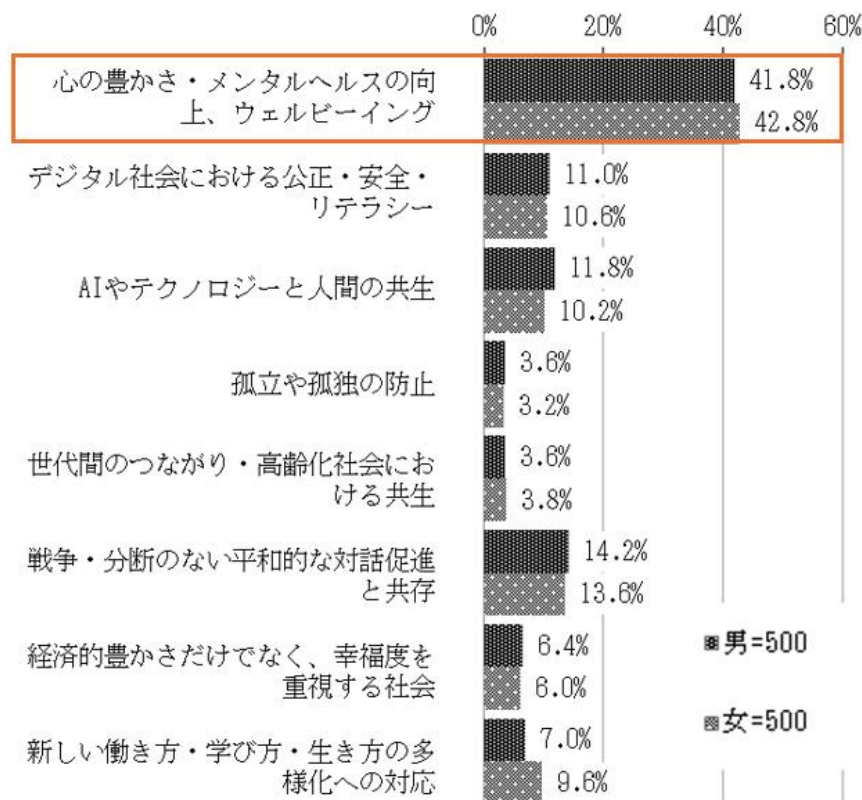
■ SDGs に対する関心

・SDGs について「よく知っている」「多少は知っている」と回答した若者の割合は、全体の 70.8%。その割合は、前回調査（73.4%）からおおむね横ばいである。

・SDGs を「世界で達成すべき重要な目標」と考える若者は 55.1%、「目標としている 2030 年に達成できそう」と考える若者は 23.4%であった。

・SDGs 以降の社会において重視すべき視点を尋ねたところ、男女ともに「心の豊かさ・メンタルヘルスの向上、ウェルビーイング」が最も高かった（男子 41.8%、女子 42.8%）。2 位以下に 25pt 以上の大きな差をつける結果となり、若者の間でウェルビーイングへの関心が突出していることが示された。

Ex 3：「ポストSDGs（次の時代の目標）」を考える際の重要な視点



■ キャリア意識や結婚観

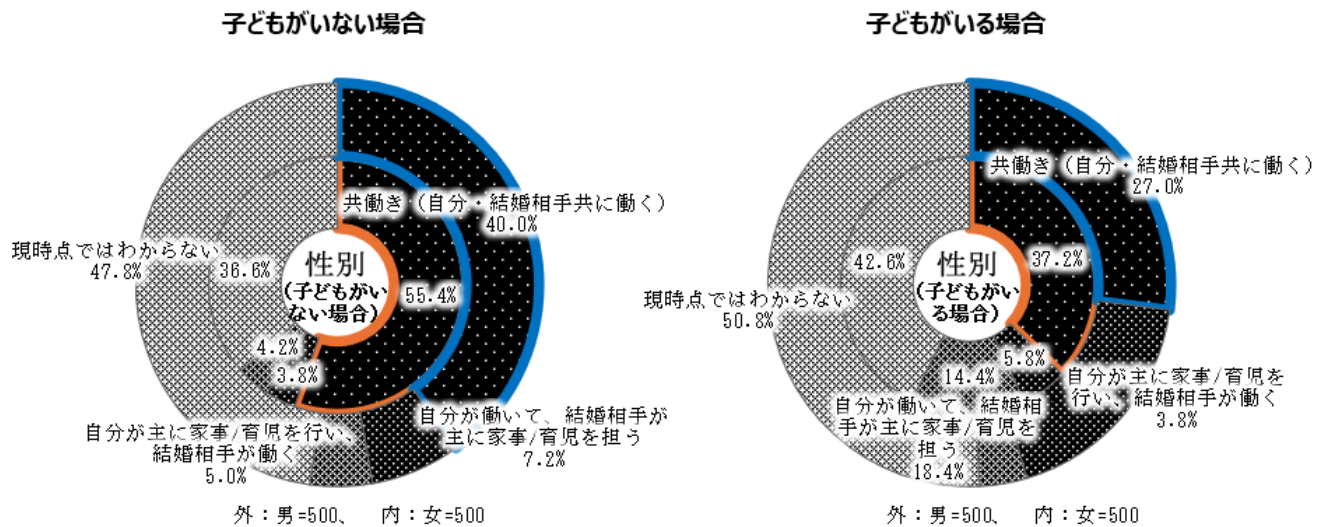
・現在のキャリア意識（働くうえで重要だと思うこと）では、「自分の能力やスキルを活かすために働くこと」（58.8%）「興味・好奇心を追求して働くこと」（57.6%）「喜びや充足感を得るために働くこと」（56.9%）「他の人と協力して楽しく働くこと」（55.8%）について、肯定的回答がいずれも 5 割を超えた。

・将来希望する働き方では、「仲間をつくって協力しながら働く」が 44.9%で最も多かった。就職先に求める条件では、前回調査と同様「人間関係が良い」「やりがいを感じられる仕事ができる」が上位となった。

・結婚後、子どもがいない場合に希望する働き方として、「共働き（自分・結婚相手共に働く）」（47.7%）を選んだ若者が最も多かった。また、男子（40.0%）より多くの女子（55.4%）が「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を選んでおり、女子の共働きへの意欲が高い状況がうかがえる。

・子どもがいる場合に希望する働き方でも「共働き（自分・結婚相手共に働く）」（32.1%）が最も多かったが、男子（27.0%）、女子（37.2%）と、子どもがいない場合と比較すると約 3 割低下した。

Ex 4:結婚後希望する働き方



■ 次世代からのメッセージ

「次世代からのメッセージ」として、企業に向けたもの、大人たちに向けたものの2種類を自由記述で設定し、回答を得た。企業に対しては、働く人を大切にする企業経営や社会課題への真摯な取り組みを求める声が多くみられた。一方、大人たちに対しては、子どもや若者の未来を見据えた行動や、教育・平和・社会のあり方について責任ある対応を求める意見が寄せられた。

Ex 5:次世代からのメッセージ（ハイライト版）

企業に向けたメッセージ	大人に向けたメッセージ
・働く人を大切にしてほしい	・子どもや若者の未来を考えてほしい
・給料や待遇を改善してほしい	・次世代に負担を押し付けないでほしい
・安心して働ける職場を増やしてほしい	・子どもの声や意見をもっと社会に反映してほしい
・環境問題や社会課題に真剣に取り組んでほしい	・教育をより良くしてほしい
・社会に役立つ商品やサービスを提供してほしい	・将来を見据えた政策や社会づくりを進めてほしい
・日本の技術力や競争力を高めてほしい	・平和な社会を維持してほしい
・若者の挑戦を応援してほしい	・若者と一緒に社会課題に向き合ってほしい
・長期的な視点で経営してほしい	・自分たちの世代だけでなく次世代のことも考えてほしい
・次世代が希望を持てる社会をつくってほしい	・大人自身が手本となる行動をしてほしい
・日本の未来のために行動してほしい	・若者の可能性を信じてほしい

※自由記述回答を生成 AI により要約・分類し、主な意見を抜粋して掲載。

■ 回答者の属性と傾向

1. 性別・学齢

- 中学生 300 人（男子 150 人、女子 150 人）、高校生 300 人（男子 150 人、女子 150 人）、大学生 400 人（男子 200 人、女子 200 人）から有効な回答を得た。なお、中学生については、保護者を通じてアンケート調査の依頼を行った。本調査においては、ウェイトバック集計は実施していない。

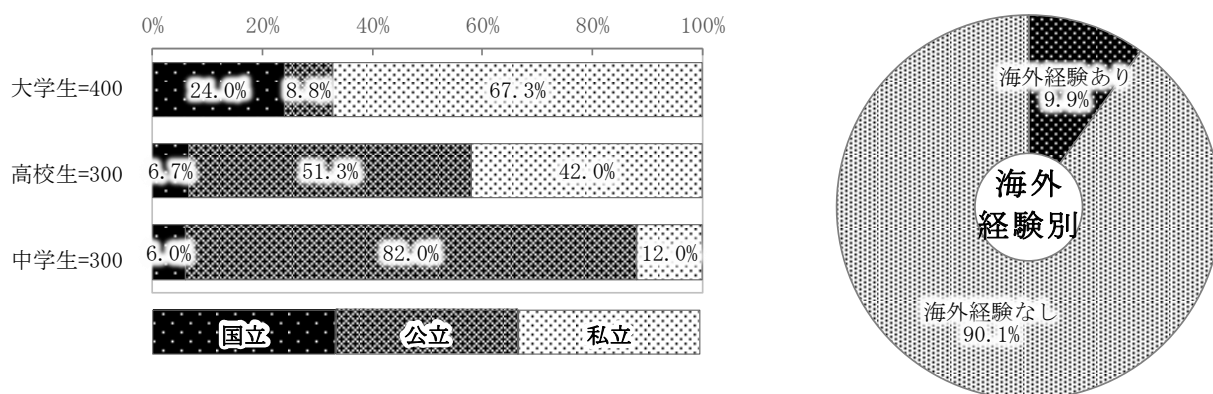
図表 A. 1. 性別・学齢

	中学生	高校生	大学生
全体	300	300	400
男	150	150	200
女	150	150	200

2. 学校種別・海外経験・居住地

- 大学・高校・中学の属性別にみた国立・公立・私立の割合は図表の通りである。
- 全体のうち海外で教育を受けた経験があるのは9.9%である。
- 回答者全体の居住地は、1都3県（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）で33.1%を占める。

図表 A. 2. 学校種別・海外経験・居住地（単一選択）

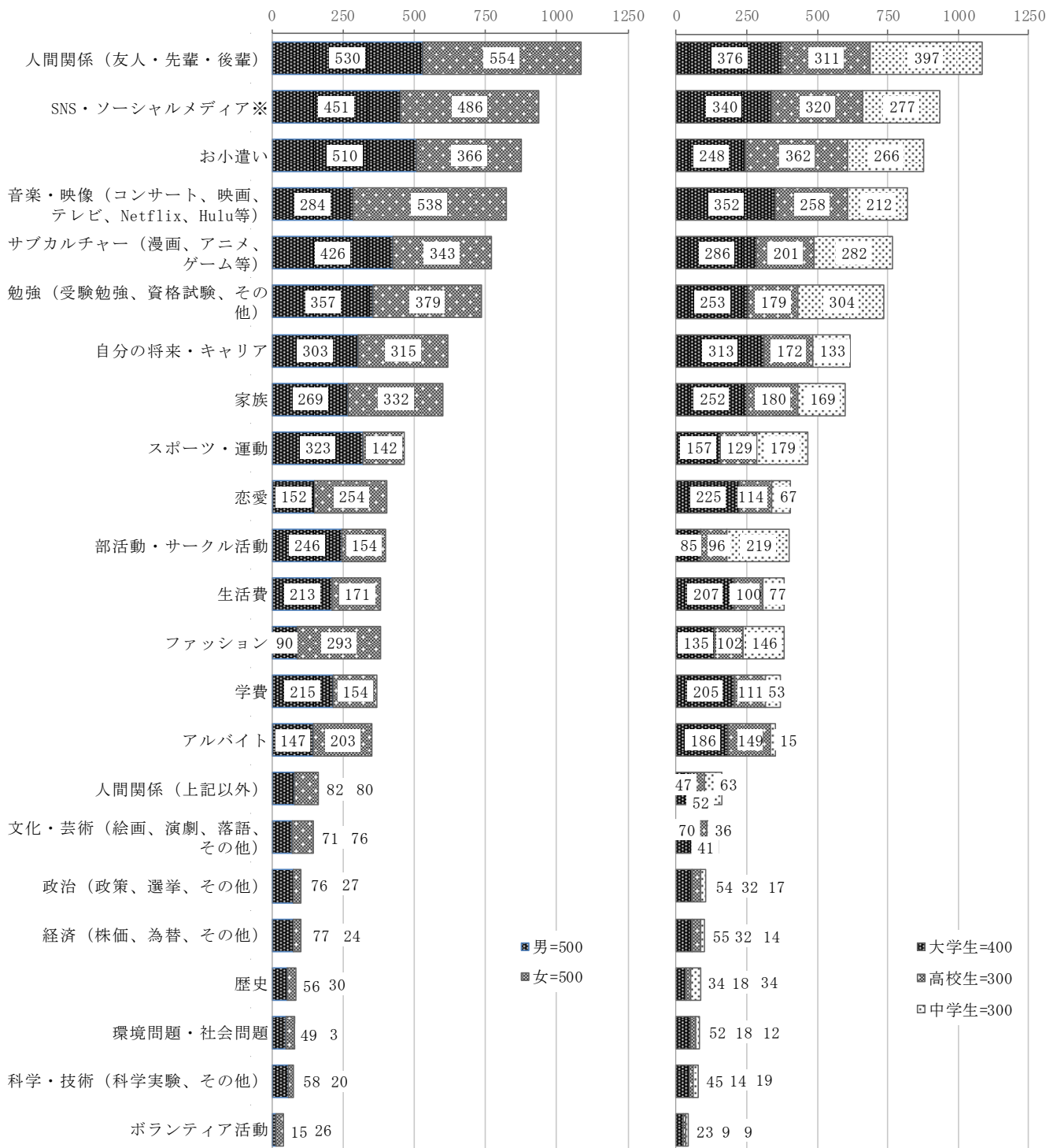


東京圏 33.1%		他地域 66.9%			
埼玉県	83	北海道	41	富山県	8
千葉県	46	青森県	6	石川県	13
東京都	125	岩手県	2	福井県	6
神奈川県	77	宮城県	22	山梨県	3
		秋田県	6	長野県	14
		山形県	7	岐阜県	18
		福島県	11	静岡県	19
		茨城県	19	愛知県	55
		栃木県	16	三重県	17
		群馬県	14	滋賀県	9
		新潟県	24	京都府	32
				香川県	3
				大阪府	73
				兵庫県	59
				奈良県	15
				和歌山県	5
				佐賀県	3
				長崎県	8
				熊本県	5
				大分県	5
				宮崎県	6
				鹿児島県	6
				沖縄県	8
				愛媛県	5
				高知県	3
				福岡県	41

3. 関心を持っていること

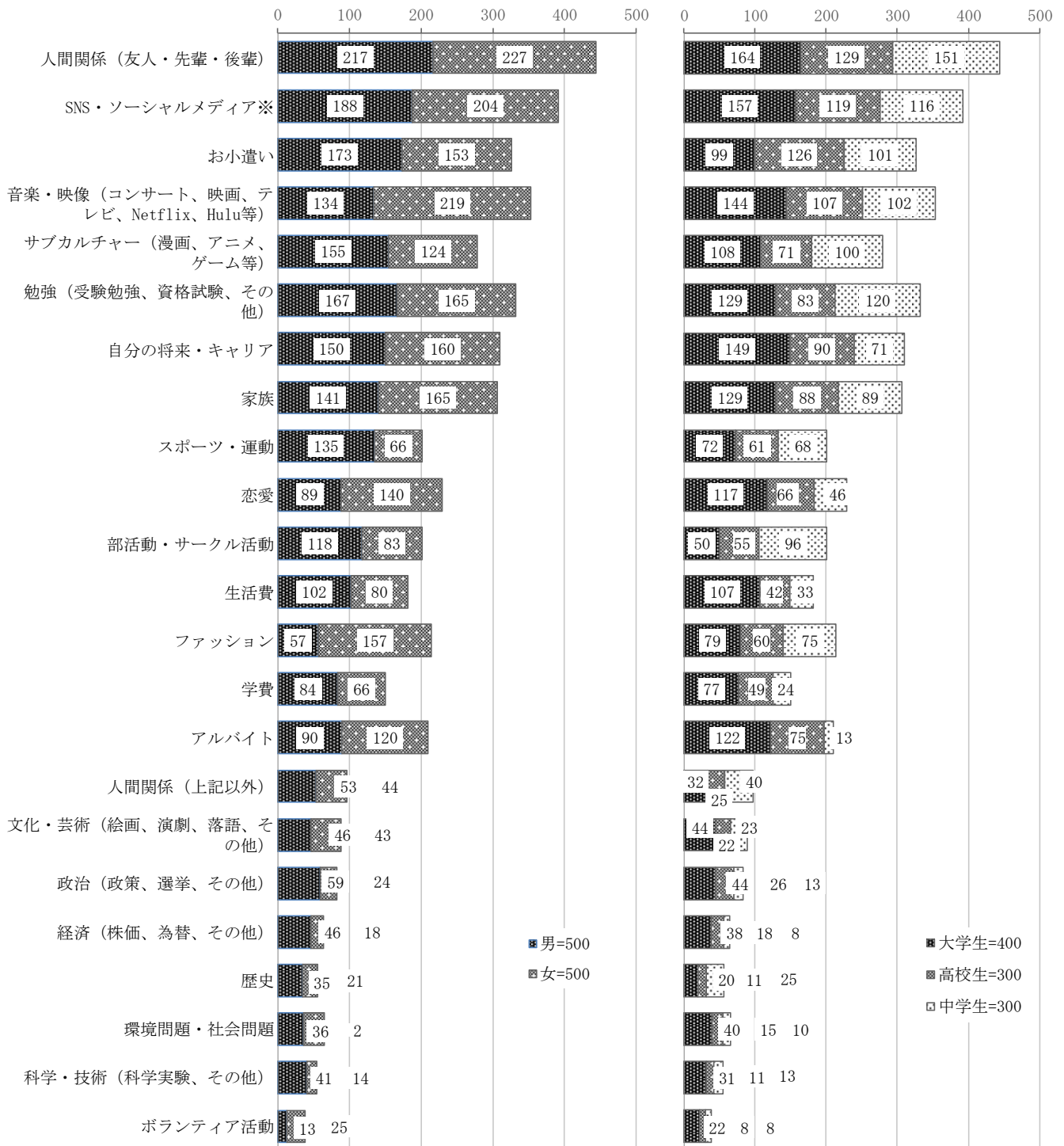
- 全体としては、「人間関係（友人・先輩・後輩）」、「SNS・ソーシャルメディア」に対する関心が高く、その次に「お小遣い」が続いた。
- 男女間で関心の差が大きい項目として、「ファッション」では女子の関心が男子の約3倍、「音楽・映像」では女子の関心が男子の約2倍、「政治・経済」では男子の関心が女子の約3倍であった。

図表 A. 3. 関心を持っていること（合計10点を持ち点として、関心の高さにあわせて採点した点数）



※ YouTube、Twitter、TikTok、LINE、Facebook、Instagram 等

(参考) 図表 A. 3. 1. 関心を持っていること (点数を入れた人数)

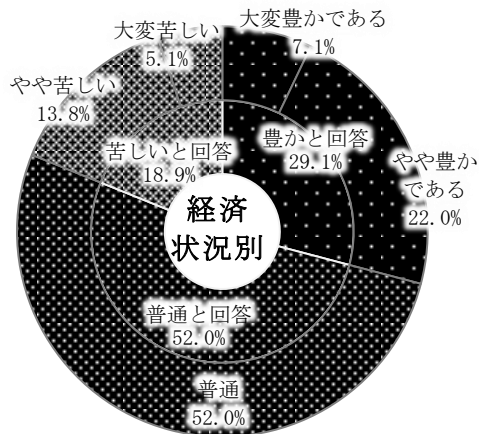


※ YouTube、Twitter、TikTok、LINE、Facebook、Instagram 等

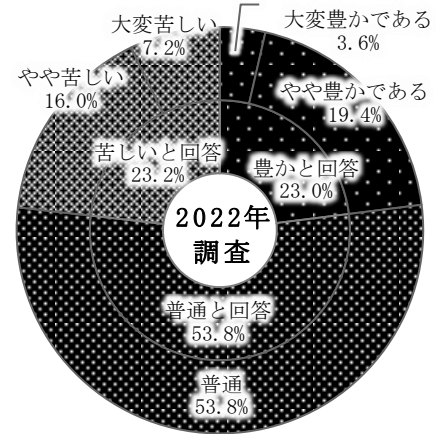
4. 経済状態に対する意識

- 現在の経済状態として、普通（52.0%）と回答した若者が最も多く、続いて豊か（「大変豊かである」、「やや豊かである」と回答した若者（29.1%）、苦しい（「大変苦しい」、「やや苦しい」と回答した若者（18.9%）が存在する。
- なお、本設問はあくまで回答者本人の意識を問うものであるため、実際の家庭の経済状態を表すものではない。回答者の経済状態に対する意識の差が、サステナビリティ、金融経済、キャリア等に対する意識の差に影響を与えているのではないかという仮説を確認することを目的としたものである。

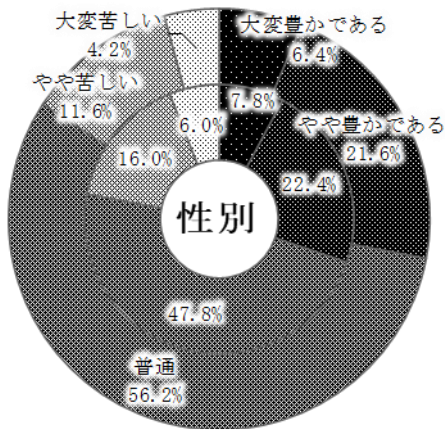
図表 A. 4. 経済状態（単一選択）



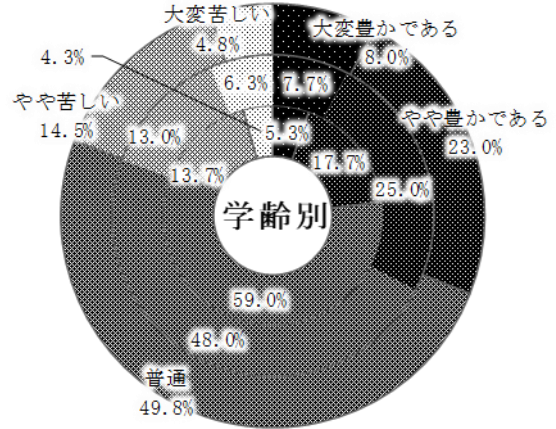
豊かと回答=291、普通と回答=520、
苦しいと回答=189



豊かと回答=230、普通と回答=538、
苦しいと回答=232



外：男=500、内：女=500



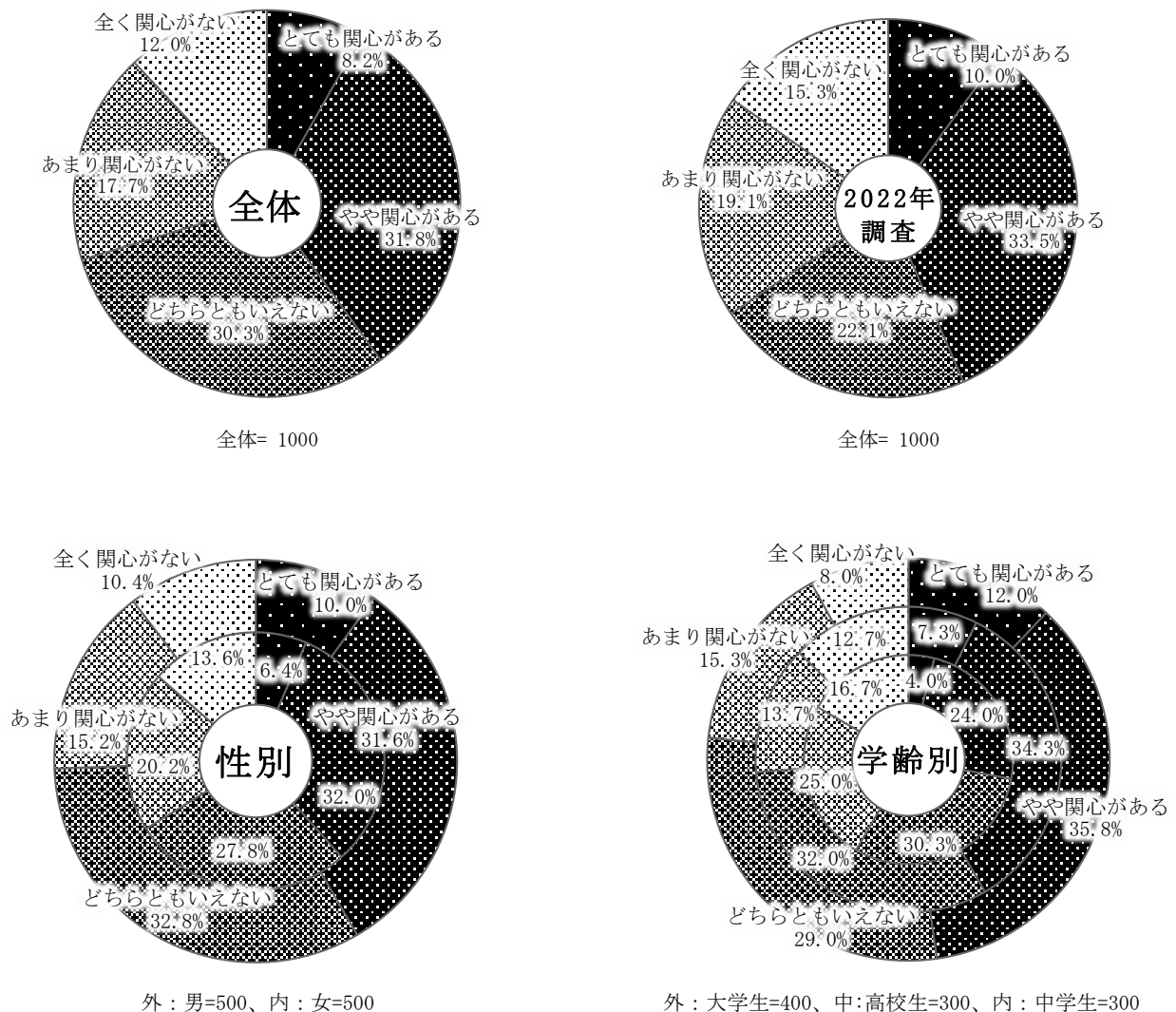
外：大学生=400、中：高校生=300、内：中学生=300

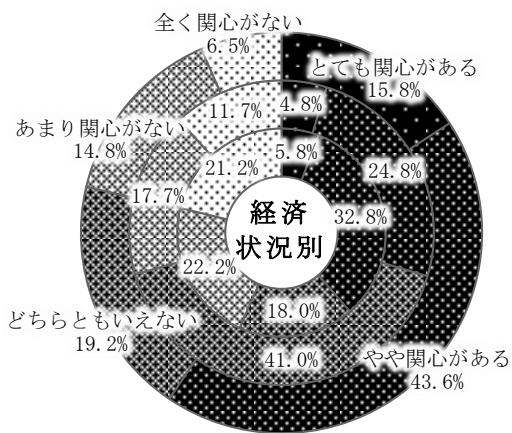
1. サステナビリティ・SDGs

1.1. 国内や海外の環境問題や社会課題への関心

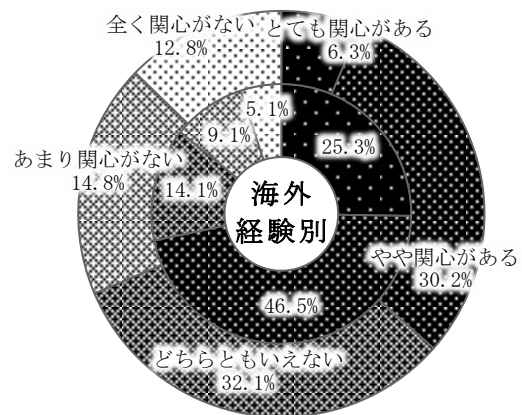
- 国内や海外の環境問題や社会課題への関心を持つ（「とても関心がある」、「やや関心がある」、以下同様）若者は、全体の 40.0%である。
- 学齢別では、中学生（28.0%）の関心はさほど高くないが、高校生（41.6%）になると環境問題や社会課題に関心を持つ若者が増えている。大学生（47.8%）は、高校生とさほど変わらない。
- 経済状態別では、豊かと回答した若者のうち、環境問題・社会課題に関心を持つ回答者は 59.4%である。一方、苦しいは 38.6%・普通は 29.6%であり、豊かと回答した若者と比べるとそのギャップは大きい。

図表 1.1. 国内や海外の環境問題や社会課題への関心（単一選択）





外：豊かと回答=291、中：普通と回答=520、
内：苦しいと回答=189

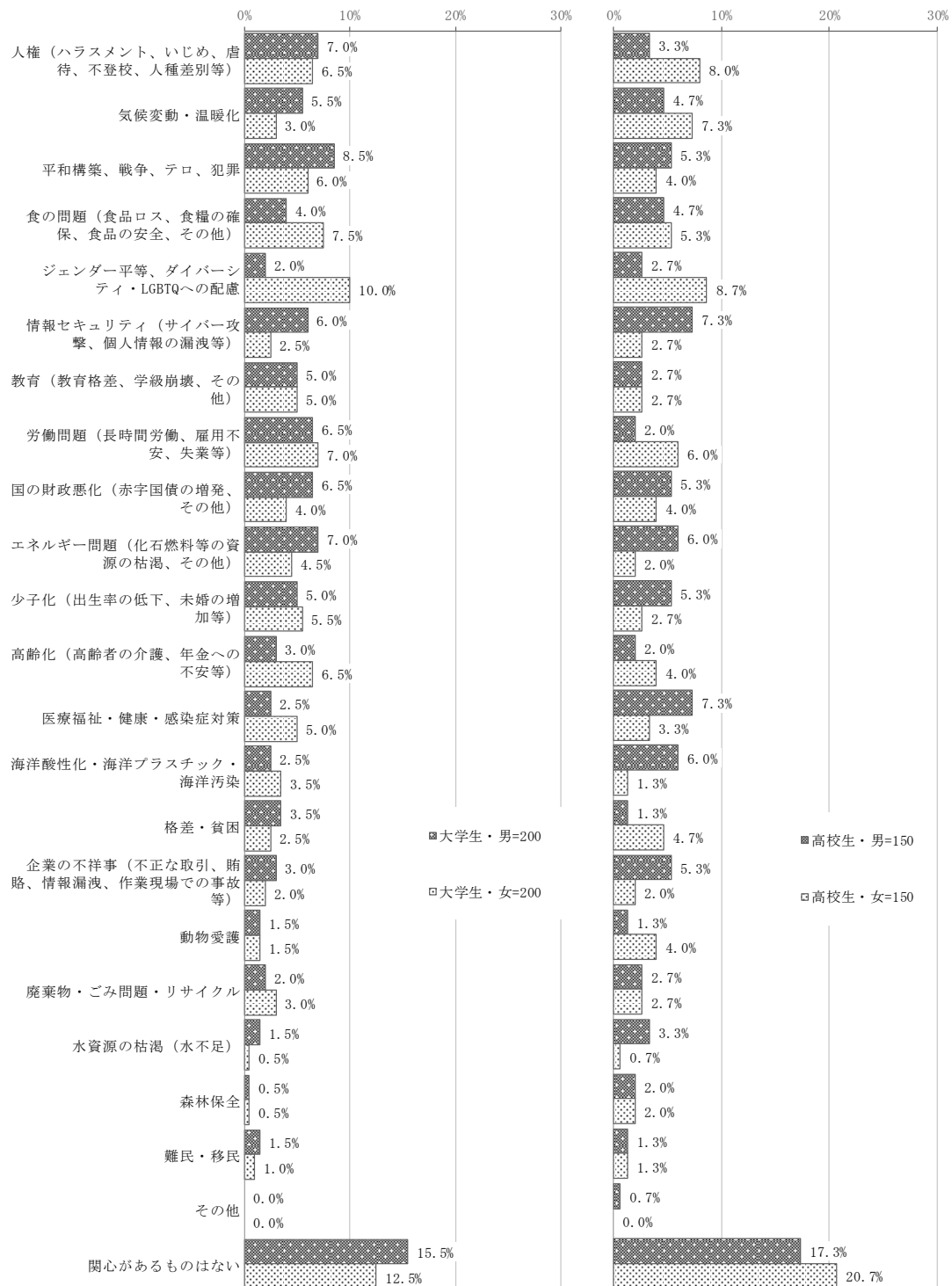


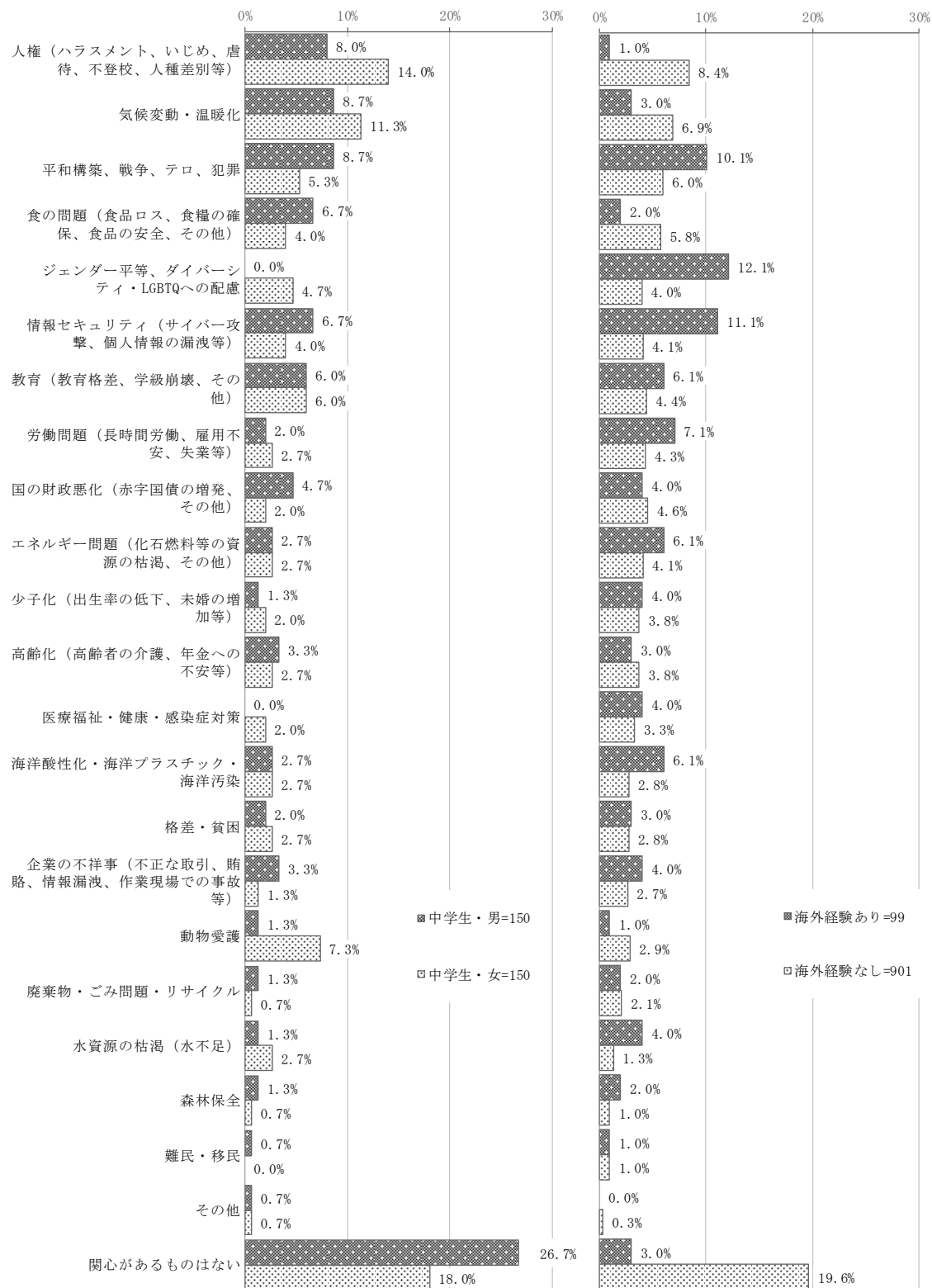
外：海外経験あり=99、内：海外経験なし=901

1.2. 関心のある環境問題や社会課題

- 前回調査に引き続き「人権」や「ジェンダー平等、ダイバーシティ・LGBTQ への配慮」への関心が高い。
- 女子は「ジェンダー平等、ダイバーシティ・LGBTQ への配慮」等への関心が同世代の男子に比べて高い。
- 海外経験別でみると、海外経験ありの方が「ジェンダー平等、ダイバーシティ・LGBTQ への配慮」「情報セキュリティ」等への関心が海外経験なしよりも高い。

図表 1.2. 関心のある環境問題や社会課題（1 位）

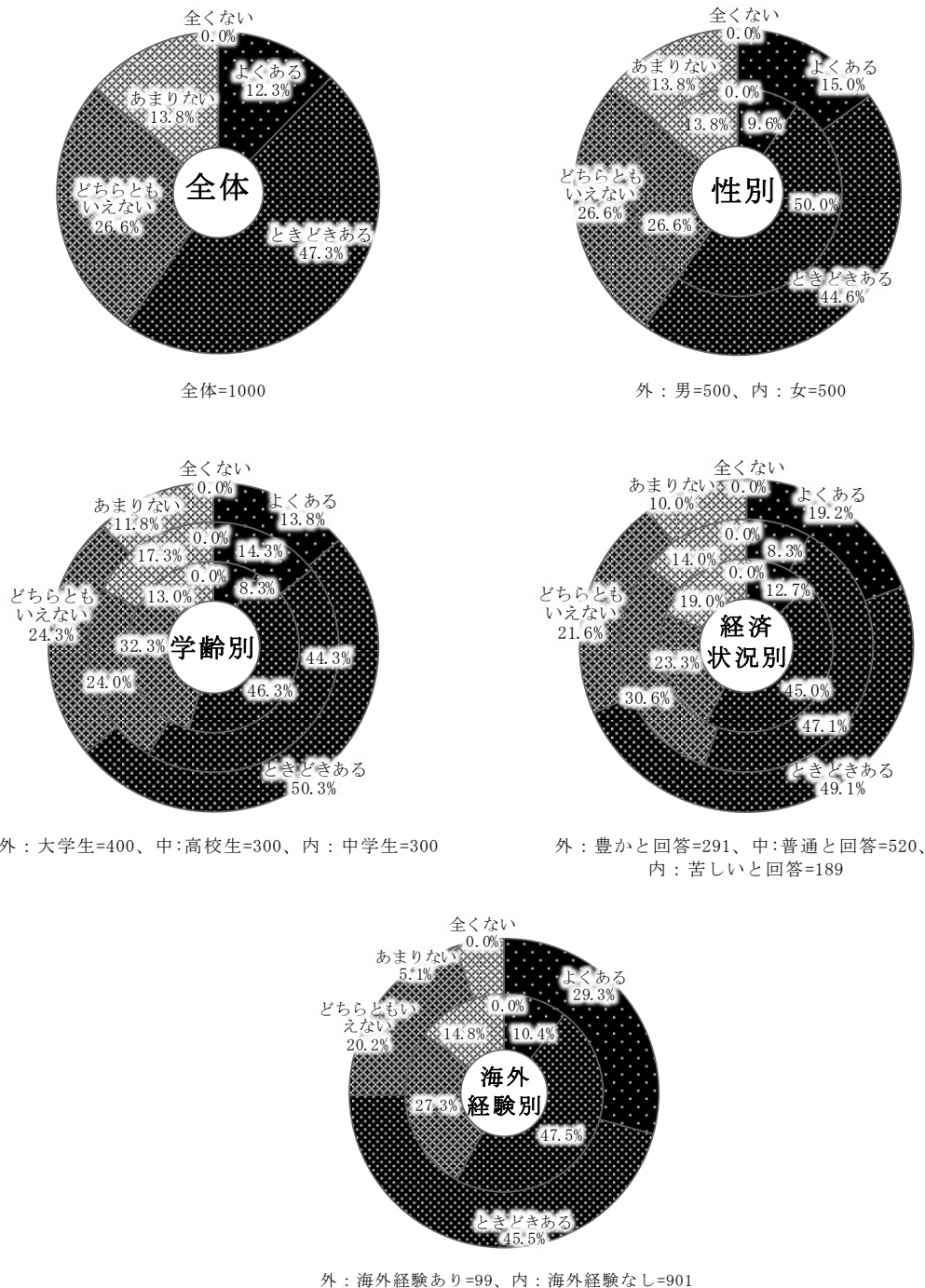




1.3. 地域や社会をよくするための意欲

- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う割合（「よくある」、「ときどきある」の合計、以下同じ）は、全体の半分以上（59.6%）である。
- 経済状況別にみると、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う割合は、豊かと回答した若者（68.3%）が、普通・苦しいと回答した若者（普通：57.7%、苦しい：55.4%）に比べて10pt 以上高い。
- 海外経験別にみると、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う割合は、海外経験ありと回答した若者（74.8%）が、海外経験なしと回答した若者（57.6%）に比べて15pt 以上高い。

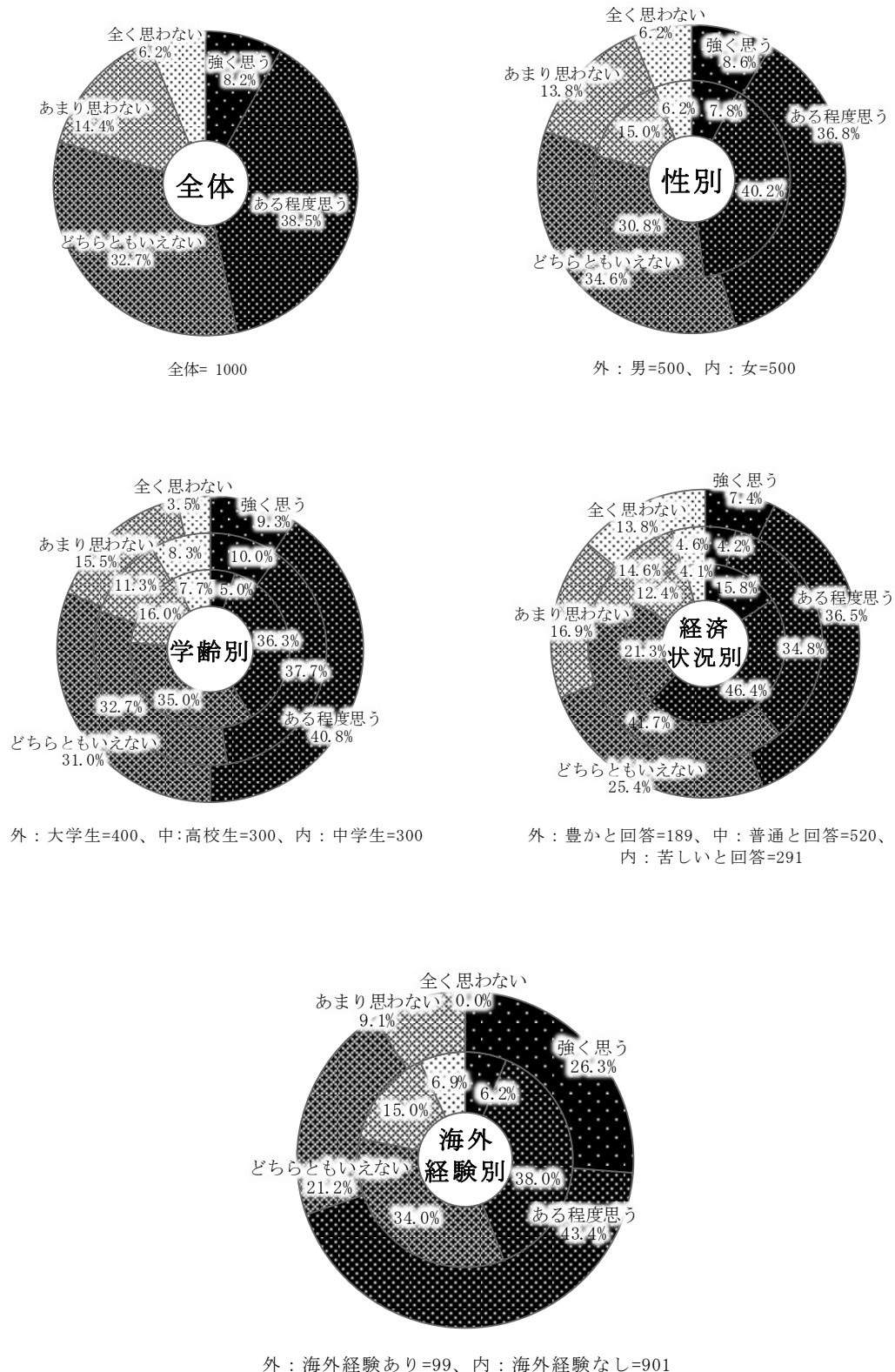
図表 1.3. 地域や社会をよくするための意欲（単一選択）



1. 4. 環境問題や社会課題に対して自分にできることがあるか

- 環境問題や社会課題に対して自分にできることがあると思うか尋ねたところ、「強く思う」「ある程度思う」と回答した若者は46.7%である。
- 海外経験の有無別では、海外経験ありの若者は、海外経験なしの若者に比べて、「強く思う」「ある程度思う」と肯定的な回答が多い。(海外経験あり(69.7%)、海外経験なし(44.2%))

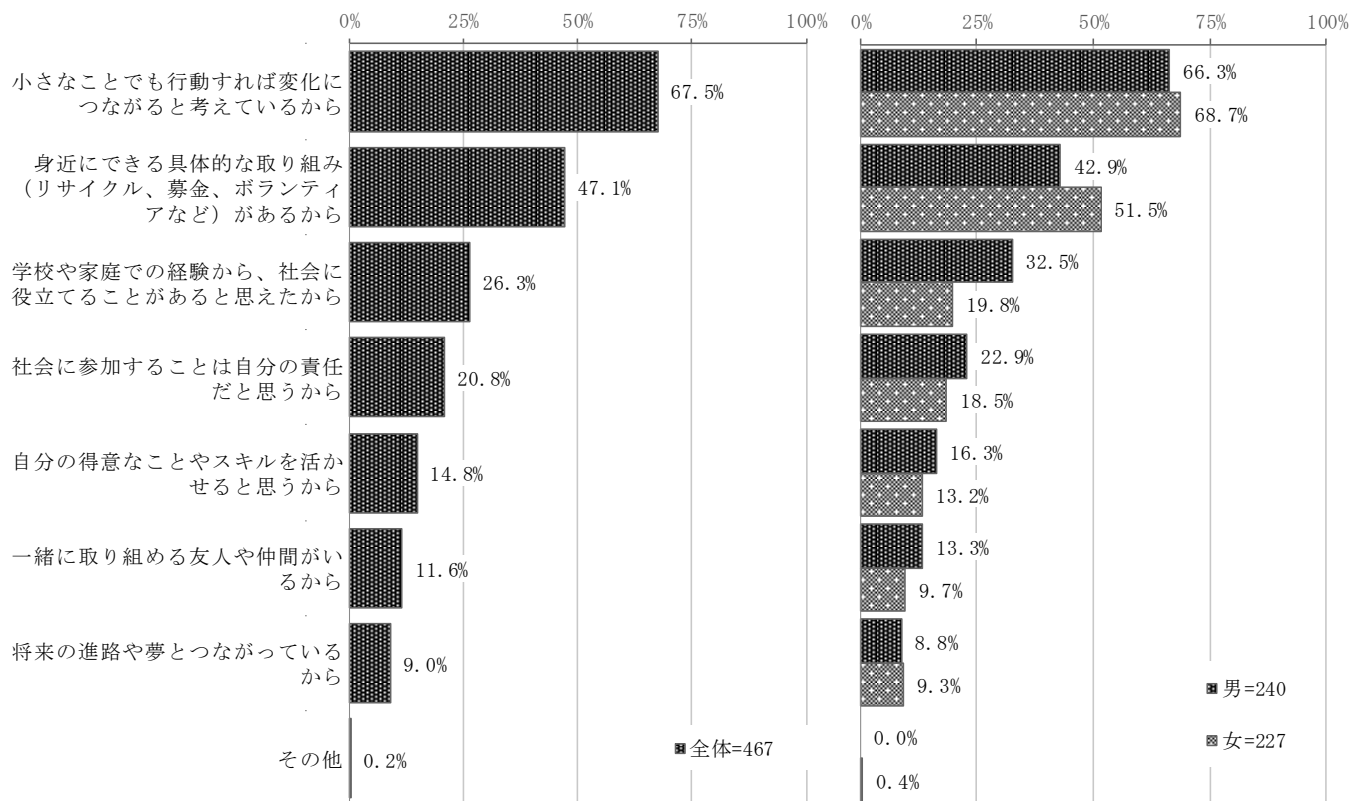
図表 1. 4. 環境問題や社会課題に対して自分ができることがあるか (単一選択)

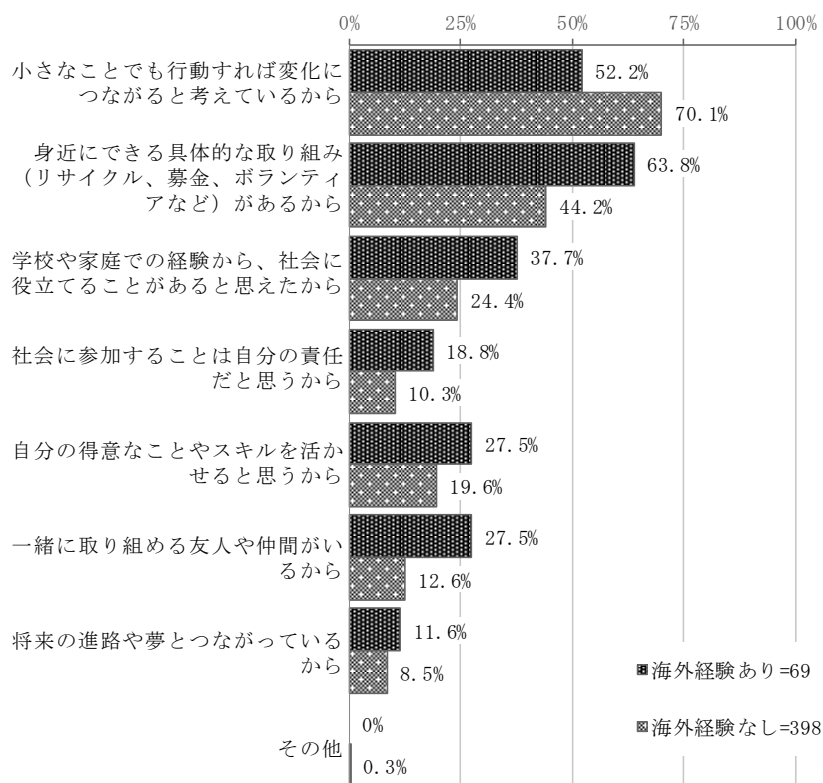
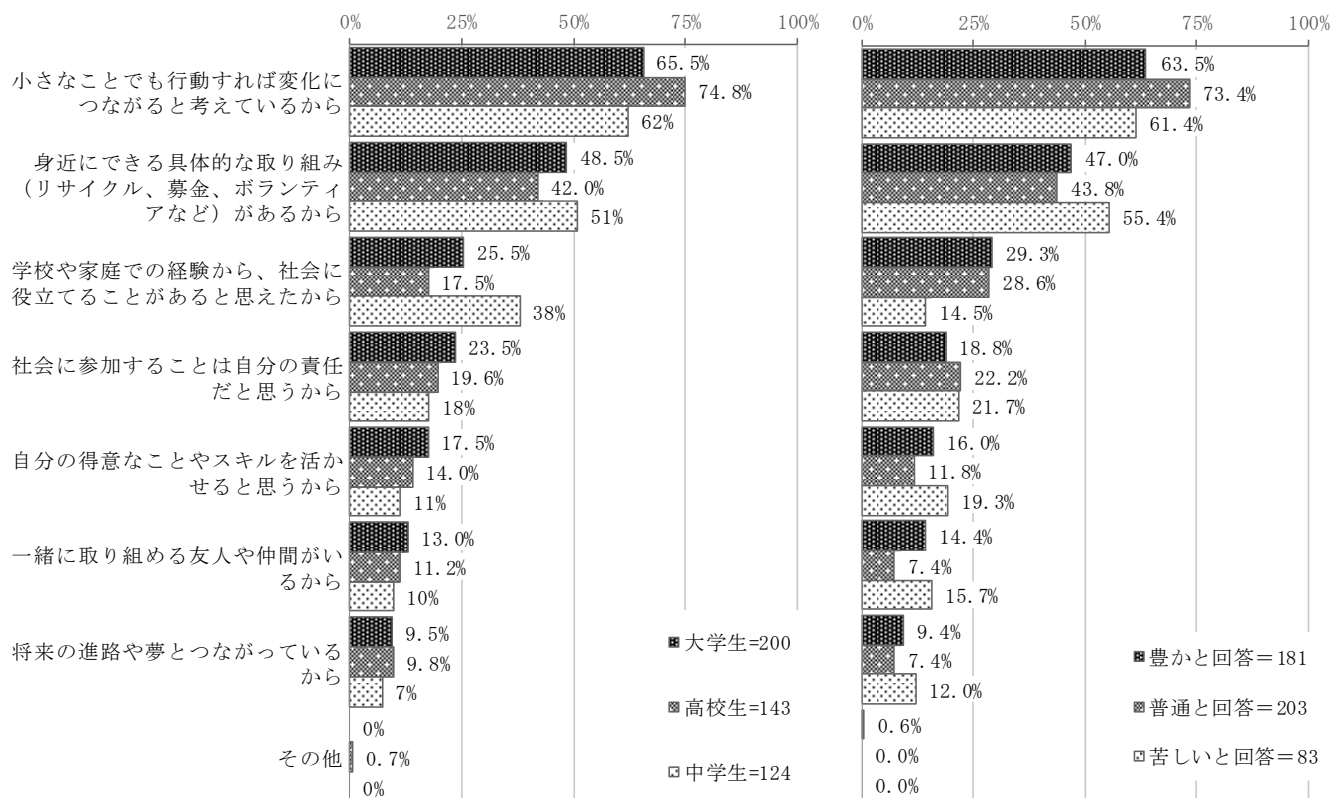


1.4.1. 環境問題や社会課題に対し、「できることがある」と思う理由

- 前の設問で「強く思う」「ある程度思う」と回答した若者のうち（n=467）、その理由として最も多いのが「小さなことでも行動すれば変化につながると考えているから」（67.5%）であり、次に「身近にできる具体的な取り組み（リサイクル、募金、ボランティアなど）があるから」（47.1%）である。

図表 1.4.1. 環境問題や社会課題の解決意欲がある理由（複数選択）

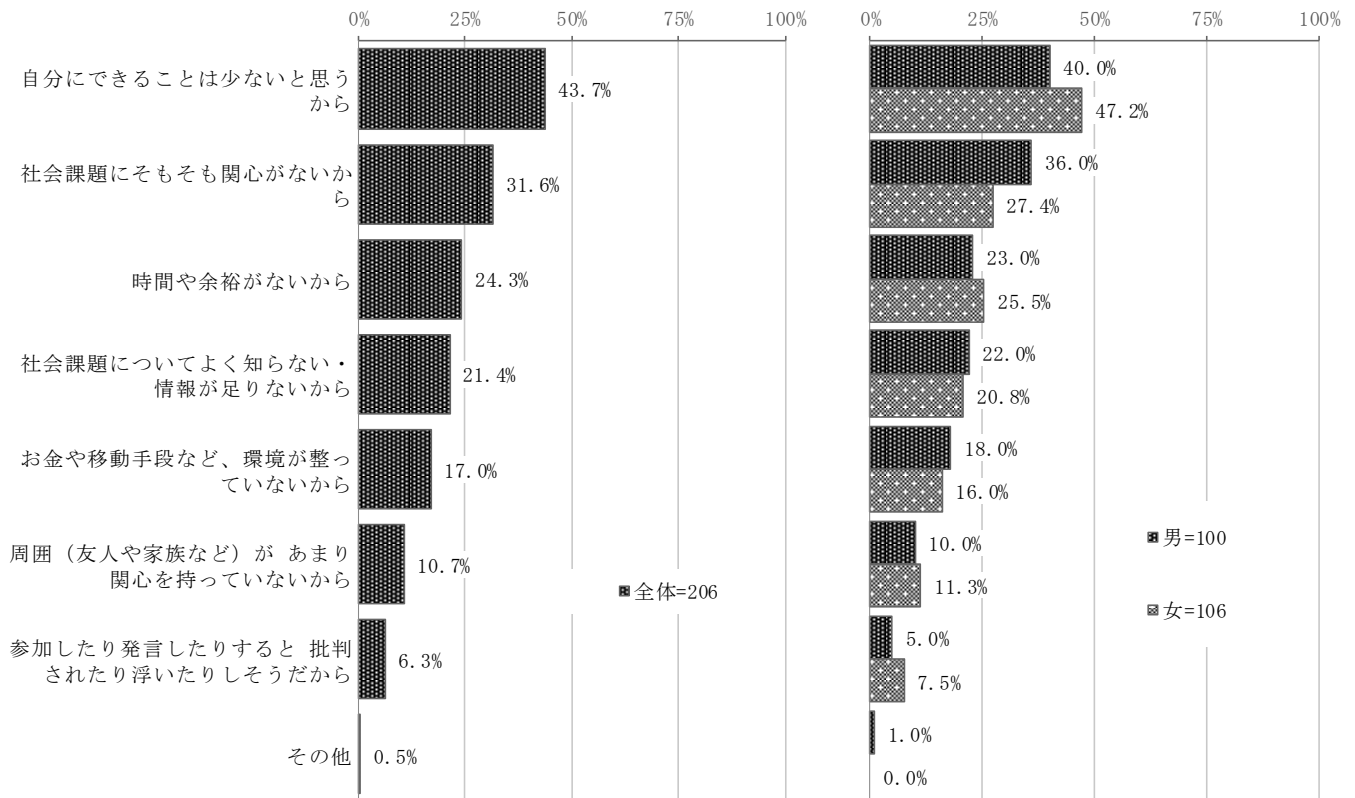


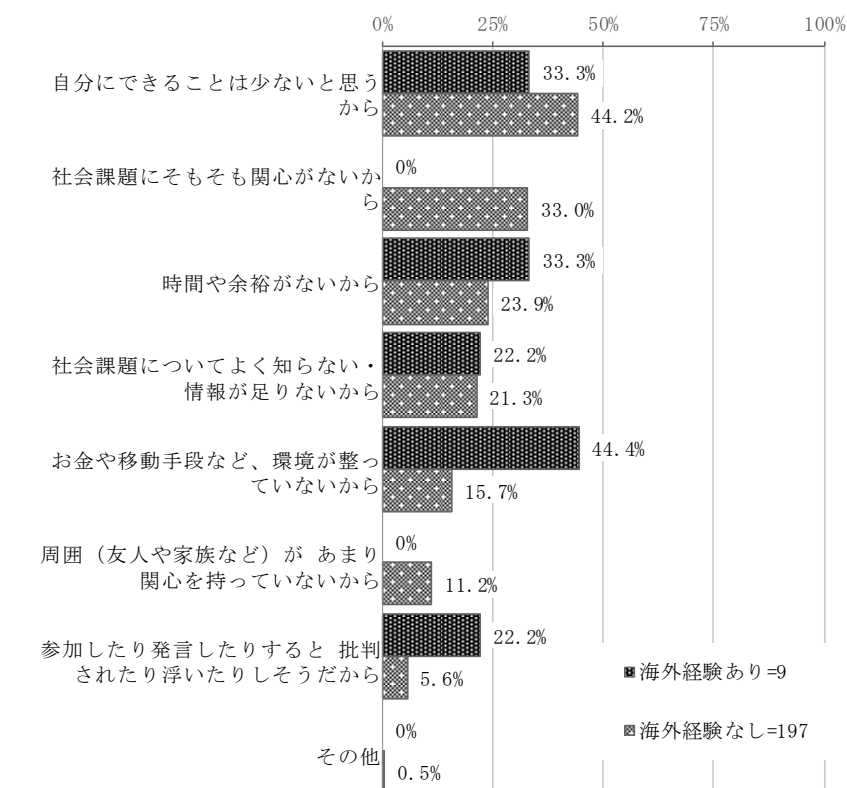
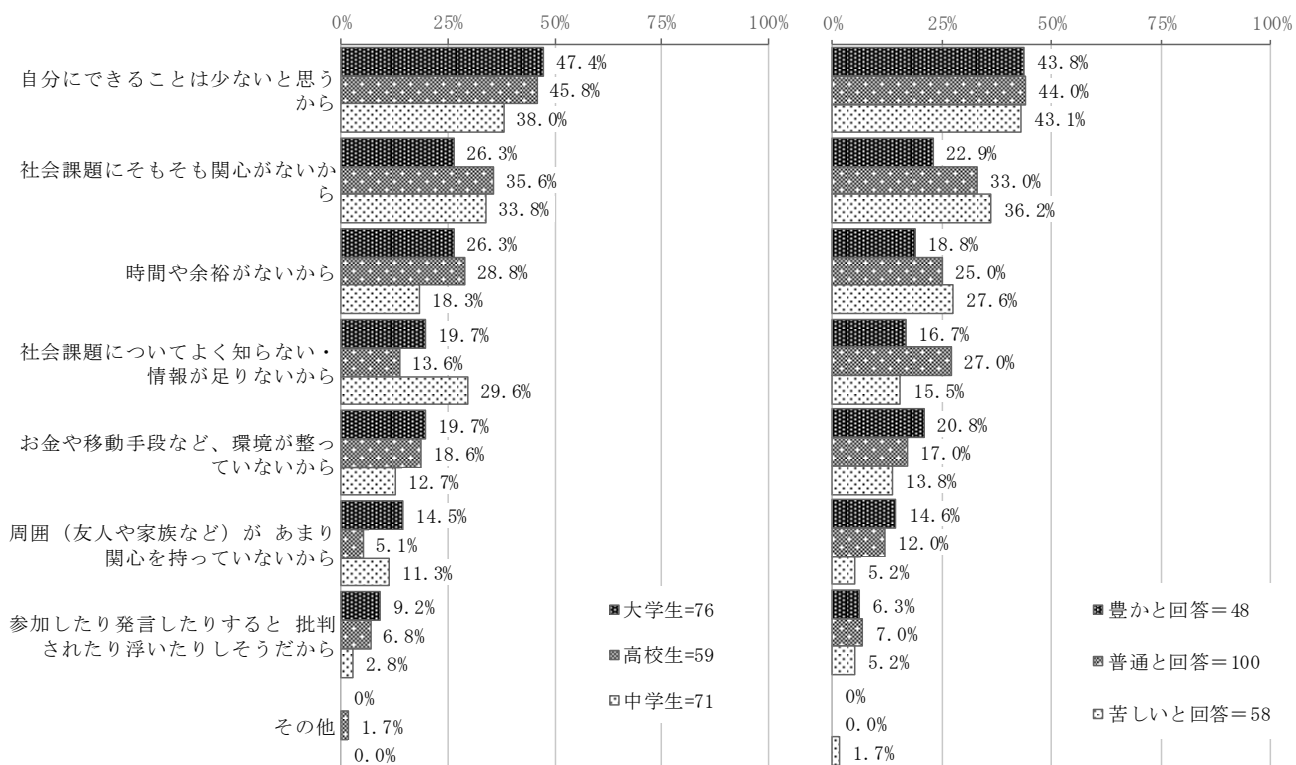


1.4.2. 環境問題や社会課題に対し、「できない」と思う理由

- 前の設問で「あまり思わない」「全く思わない」と回答した若者のうち（n=206）、その理由として最も多いのが「自分にできることは少ないと思うから」（43.7%）であり、次に「社会課題にそもそも関心がないから」（31.6%）である。
- 学齢別でみると、「社会課題についてよく知らない・情報が足りないから」と回答した割合は、中学生（29.6%）が高校生（13.6%）、大学生（19.7%）を上回り、項目の中で最も学齢による差が大きかった。

図表 1.4.2. 環境問題や社会課題の解決意欲がない理由（複数選択）

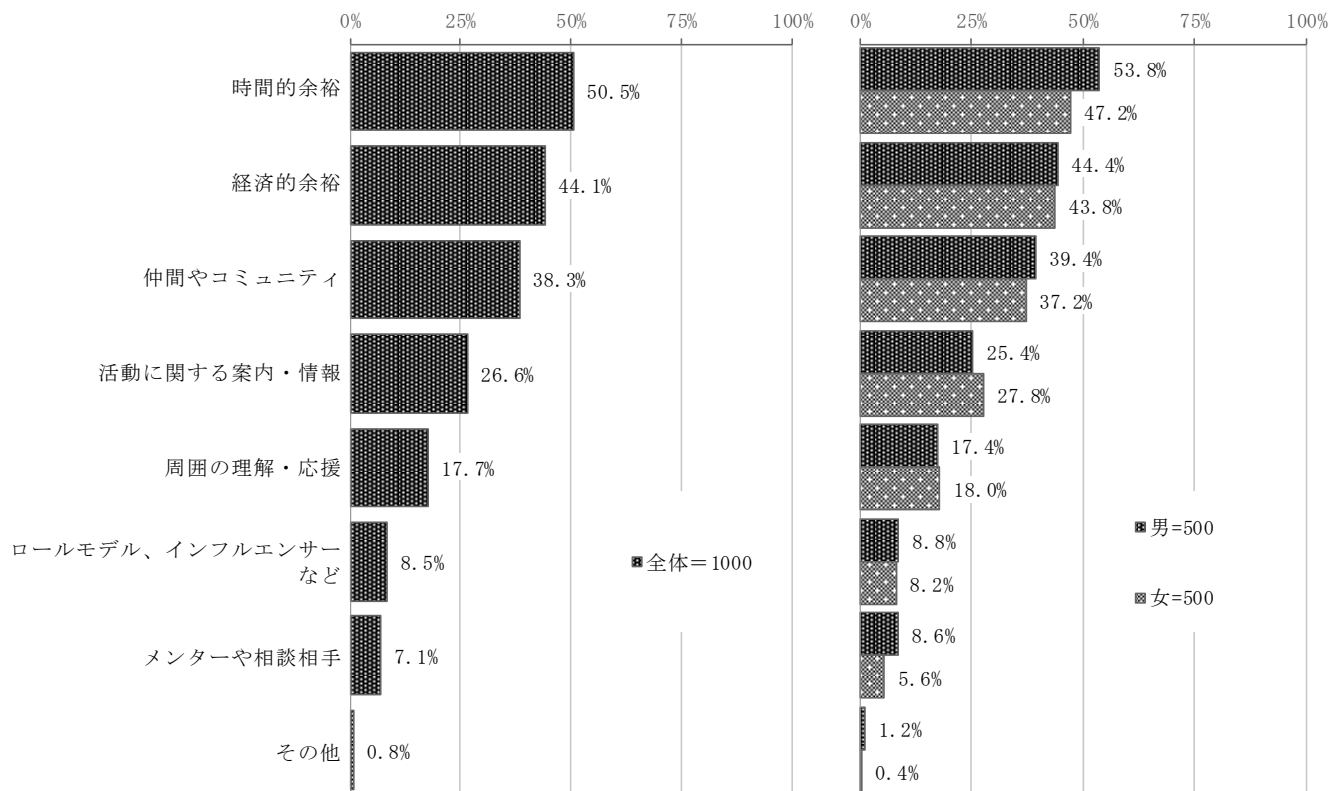


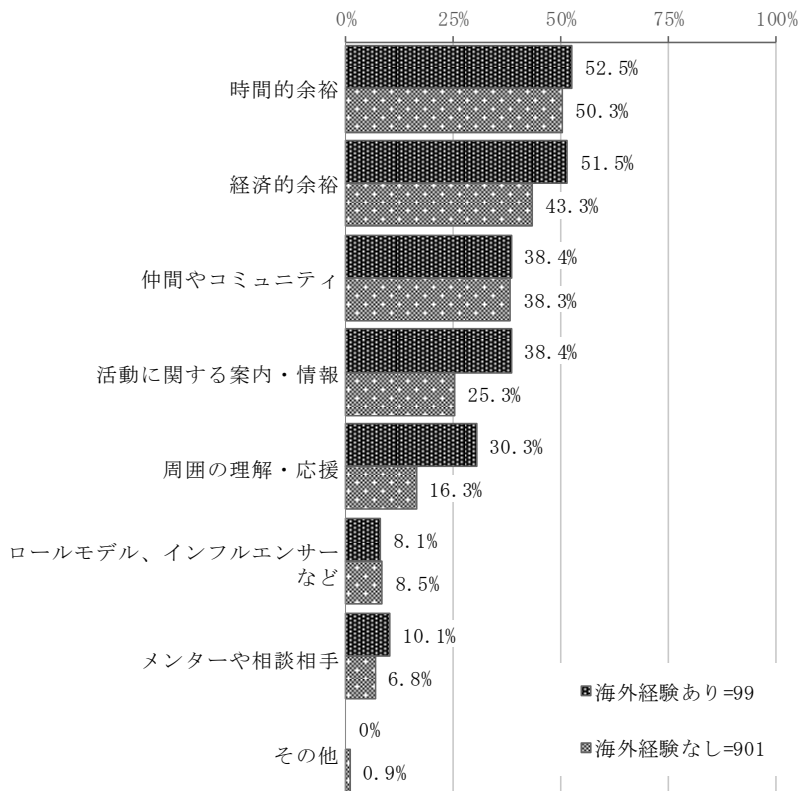
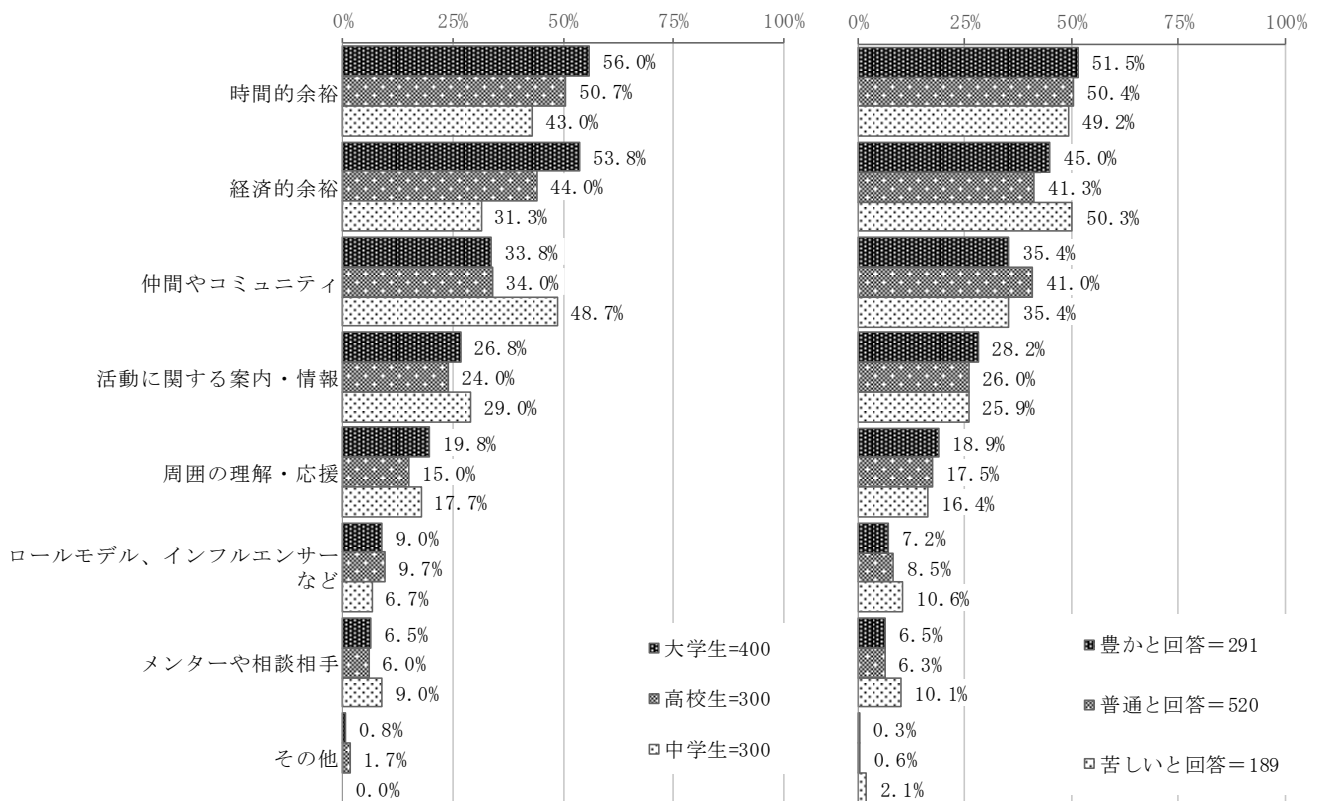


1.4.3. 社会や地域に貢献する新たな活動を始めようとするときに必要なこと

- 社会や地域に貢献する新たな活動を始めようとするときに必要だと思うことは何か尋ねたところ、最も多いのが「時間的余裕」(50.5%)であり、次に「経済的余裕」(44.1%)である。
- 学齢別でみると、中学生では「仲間やコミュニティ」が48.7%と最も高く、「時間的余裕」(43.0%)、「経済的余裕」(31.3%)を上回った。

図表 1.4.3. 社会や地域に貢献する新たな活動を始めようとするときに必要なこと（複数選択）





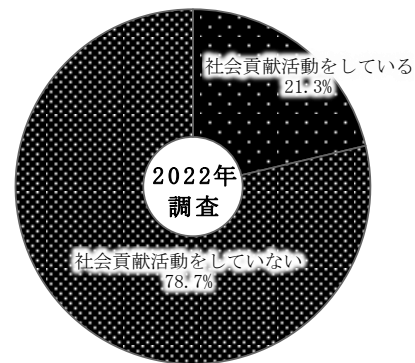
1.5. 日頃行っている社会貢献活動

- 社会貢献活動を行っている若者は全体の 25.7%。性別でみると、男子（28.2%）の方が女子（23.2%）より、社会貢献活動を行っている者の比率がやや多い。
- 経済状況別では、豊かと回答した若者が 38.5%と最も多く、苦しいと回答した若者（21.2%）、普通と回答した若者（20.2%）と続く。

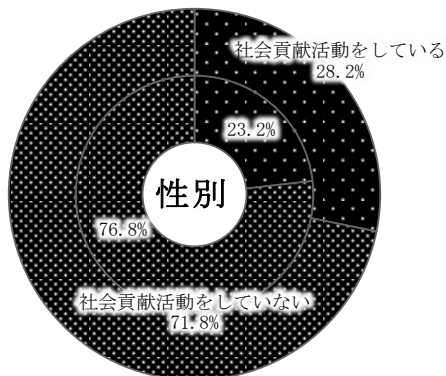
図表 1.5. 日頃行っている社会貢献活動（単一選択）



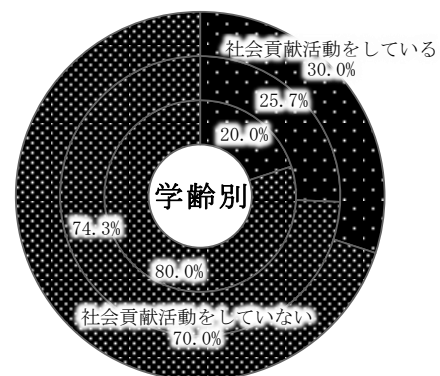
全体= 1000



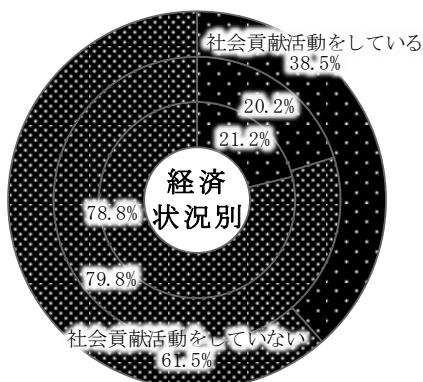
全体= 1000



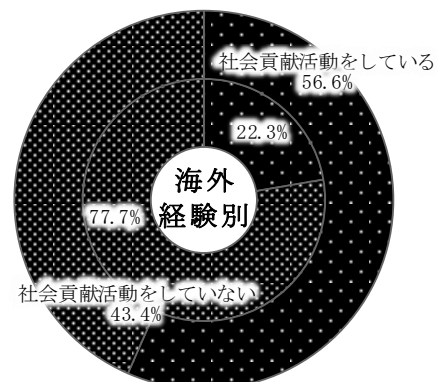
外：男=500、内：女=500



外：大学生=400、中：高校生=300、内：中学生=300



外：豊かと回答=291、中：普通と回答=520、
内：苦しいと回答=189

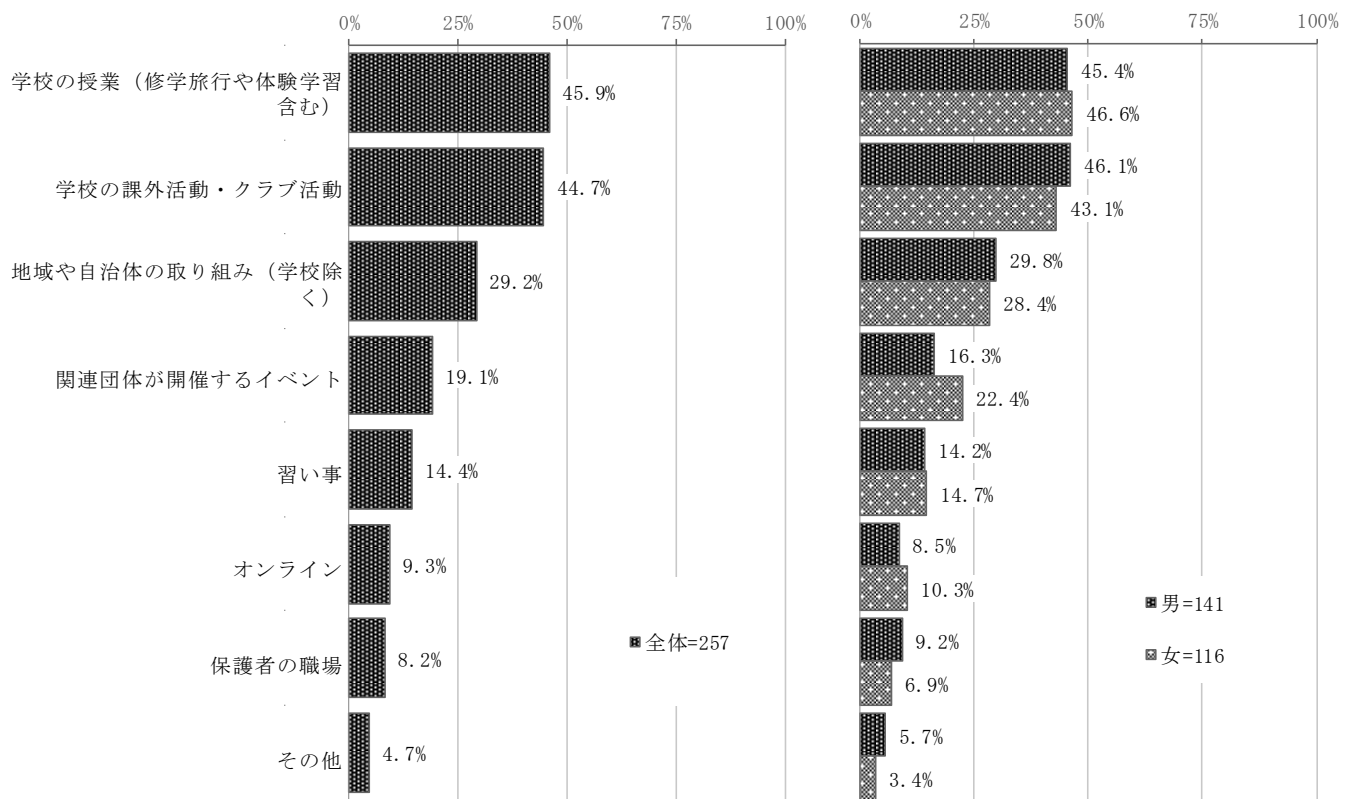


外：海外経験あり=99、内：海外経験なし=901

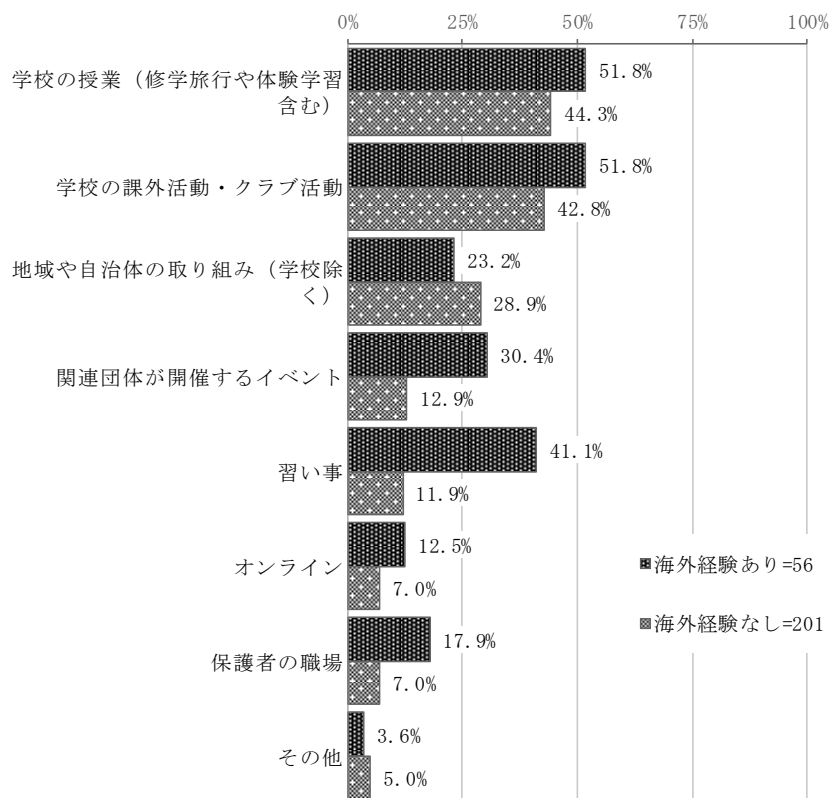
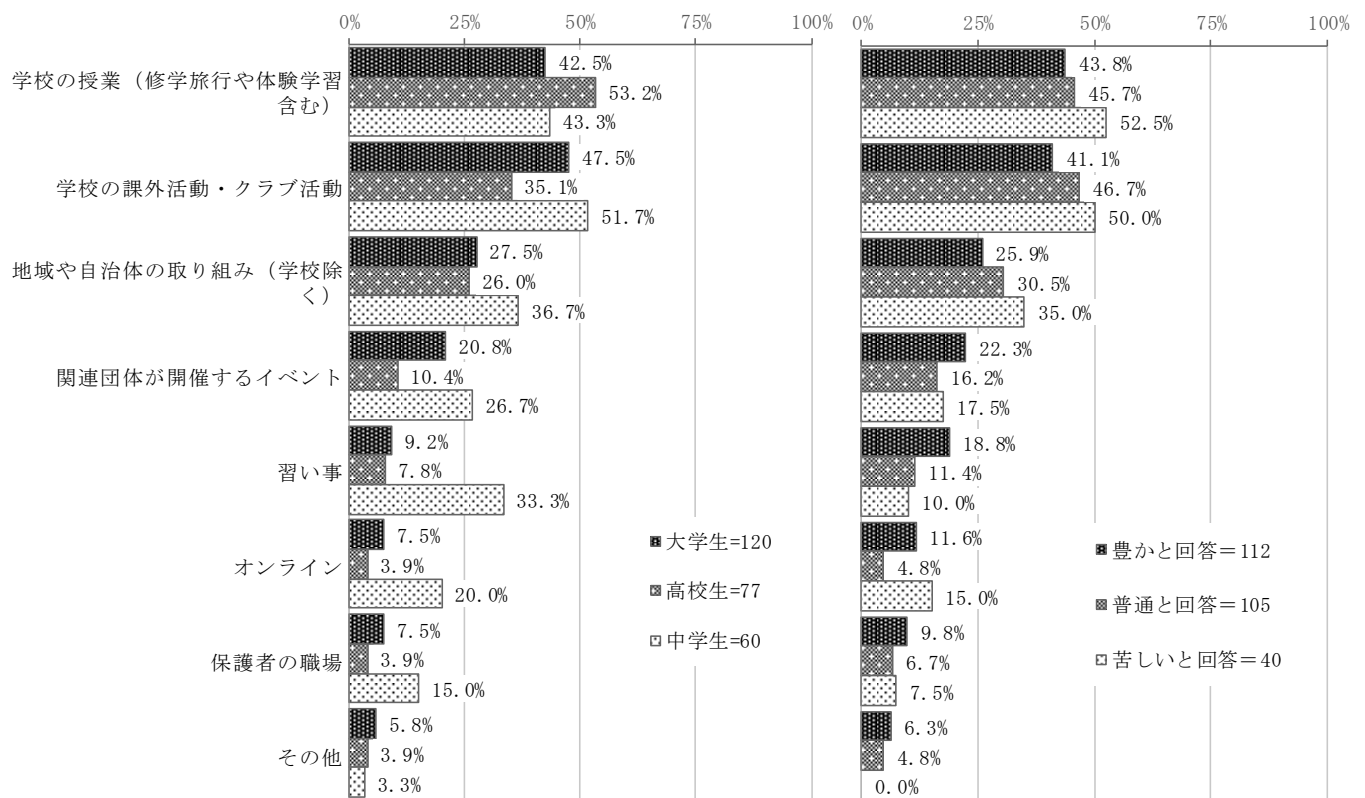
1.5.1. 社会貢献活動の実施場所

- 前の設問で「社会貢献活動をしている」と回答した若者のうち（n=257）、日頃行っている社会貢献活動の場所として、最も多いのが「学校の授業（修学旅行や体験学習含む）」（45.9%）であり、次に「学校の課外活動・クラブ活動」（44.7%）である。
- 男子は「学校の課外活動・クラブ活動」（46.1%）が多く、女子は「学校の授業（修学旅行や体験学習含む）」（46.6%）が多い。

図表 1.5.1. 社会貢献活動の実施場所（複数選択）



注 「その他」には、「大学」「個人」「友達」「個人的に」「自主的に」「募金」「エネルギーの節約」「アルバイト」「学校サポート」などがあつた。

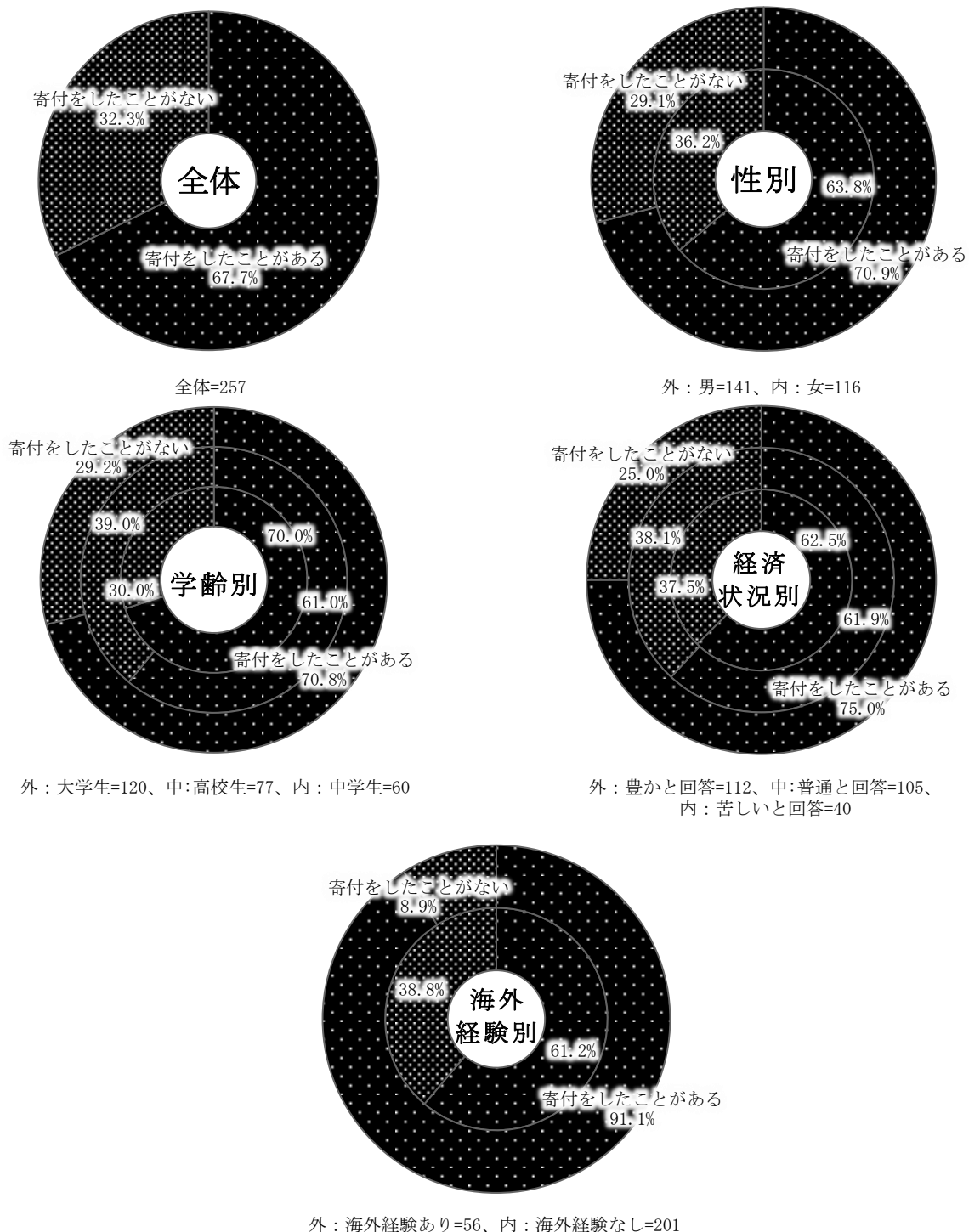


注 「その他」には、「大学」「個人」「友達」「個人的に」「自主的に」「募金」「エネルギーの節約」「アルバイト」「学校サポート」などがあった。

1.5.2. 寄付経験

- 前の設問で「社会貢献活動を行っている」と回答した若者（n=257）のうち 67.7%が、自分のお金を使って「寄付をしたことがある」と回答している。
- 海外経験があると回答した若者の方が、海外経験がない若者よりも寄付を実施している比率が約 30pt 高い。（海外経験あり（91.1%）、海外経験なし（61.2%））

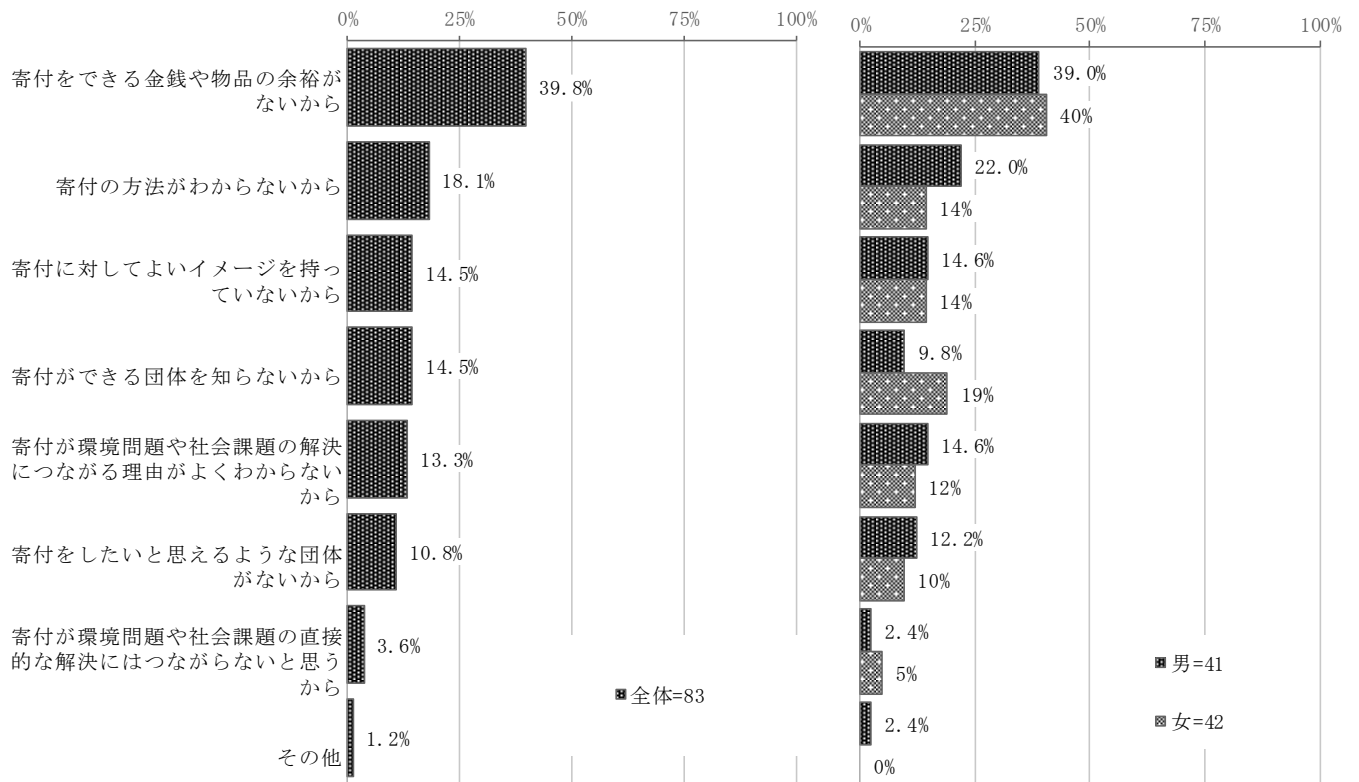
図表 1.5.2. 寄付経験（単一選択）

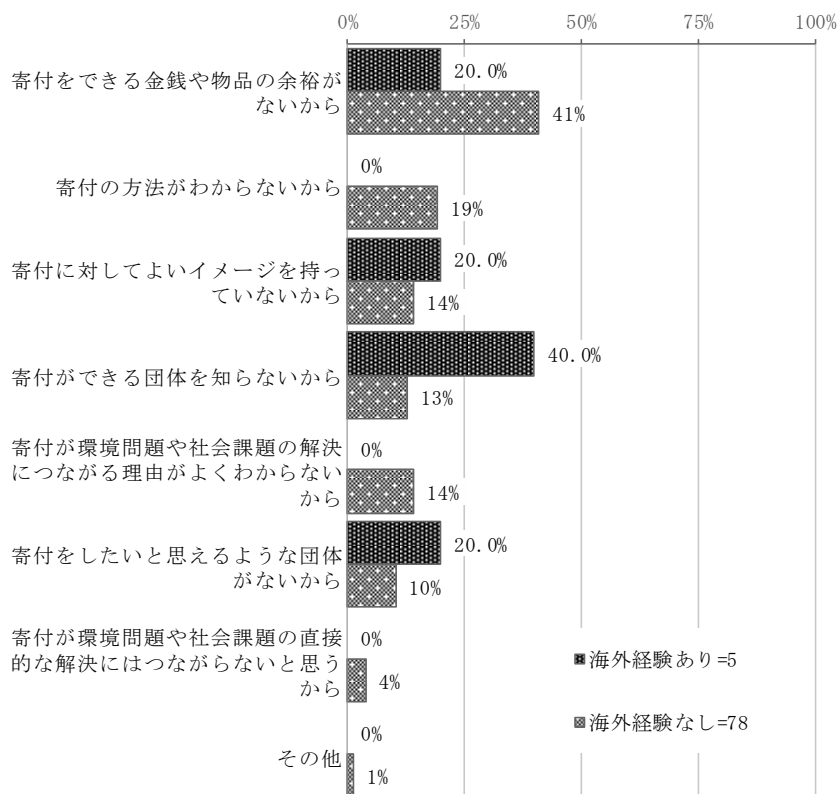
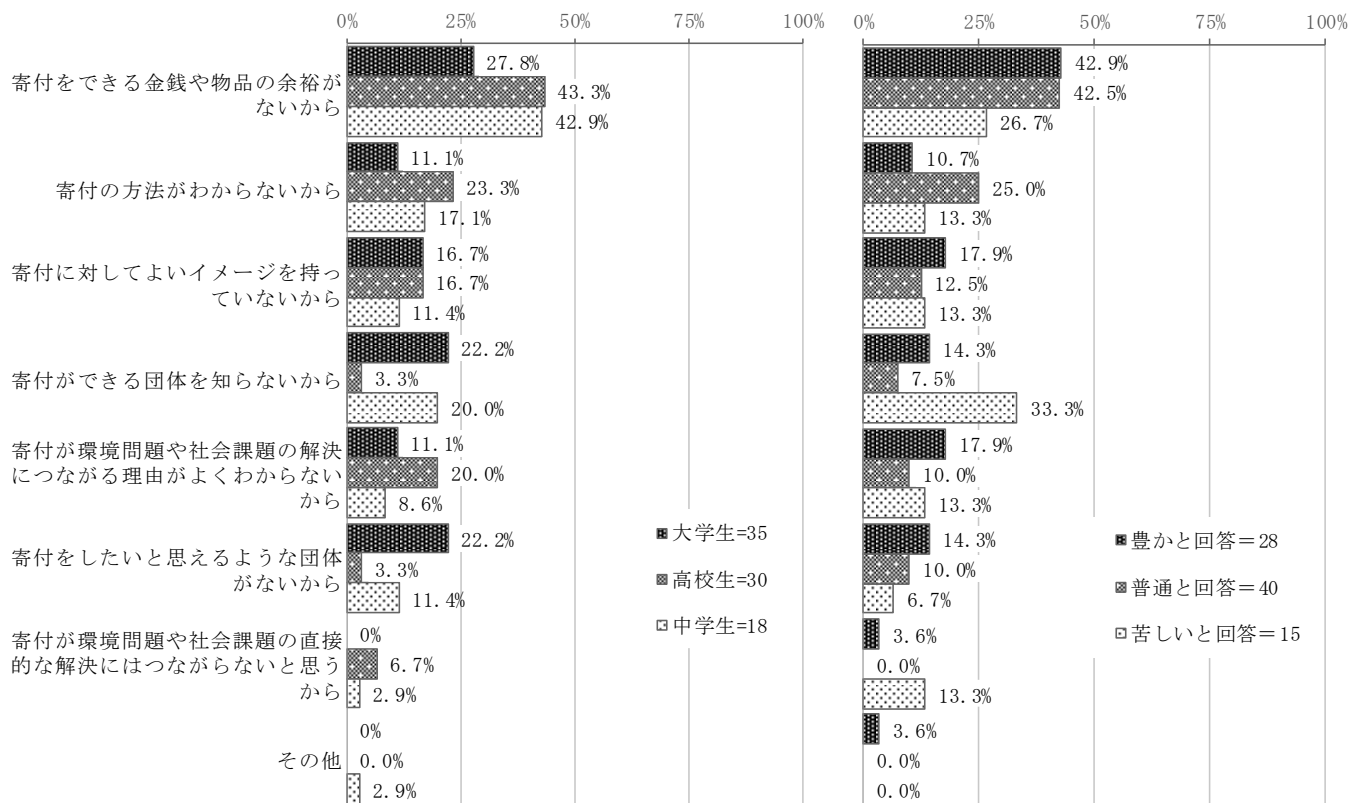


1.5.2.1. 寄付をしたことがない理由

- 社会貢献活動をしているが、寄付をしたことがないと回答した若者（n=83）に対して、その理由を確認したところ「寄付をできる金銭や物品の余裕がない」が約4割を占めた（39.8%）。特に、自分で裁量を持っている金銭・物品が比較的少ないであろう高校生と中学生による回答が多い。
- 経済状況別では、苦しいと回答した若者は、豊かと回答した若者や普通と回答した若者に比べ、「寄付ができる団体を知らないから」（33.3%）、「寄付が環境問題や社会課題の直接的な解決にはつながらないと思うから」（13.3%）の回答が高い。

図表 1.5.2.1. 寄付をしたことがない理由（複数選択）

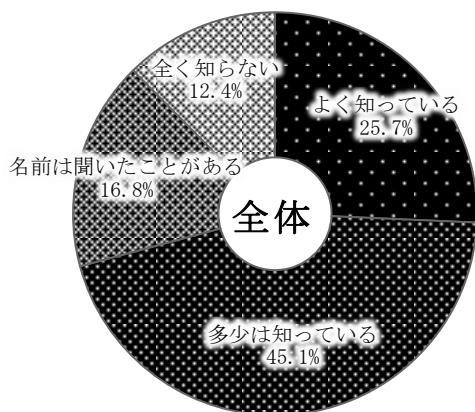




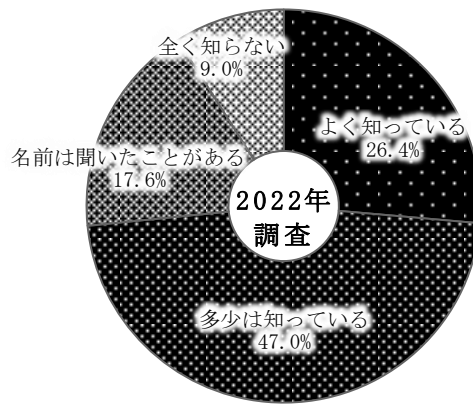
1.6. SDGs（持続可能な開発目標）の認知

- 「よく知っている」「多少は知っている」と回答した若者の割合は、全体の70.8%。その割合は、前回調査からおおむね横ばいである。
- 学齢別でみると、高校生では77.3%、大学生では78.8%が認知しているのに対し、中学生は53.6%にとどまった。

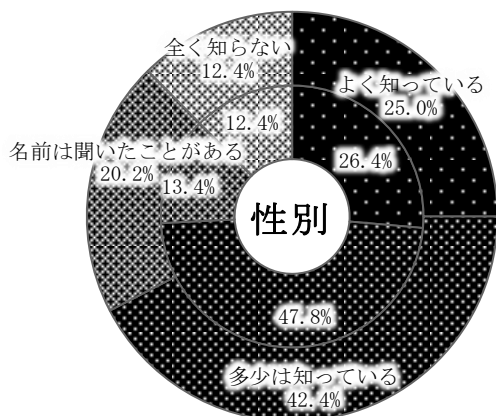
図表 1.6. SDGs（持続可能な開発目標）の認知（単一選択）



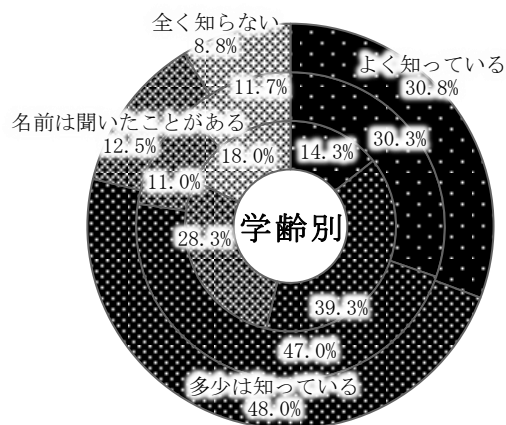
全体= 1000



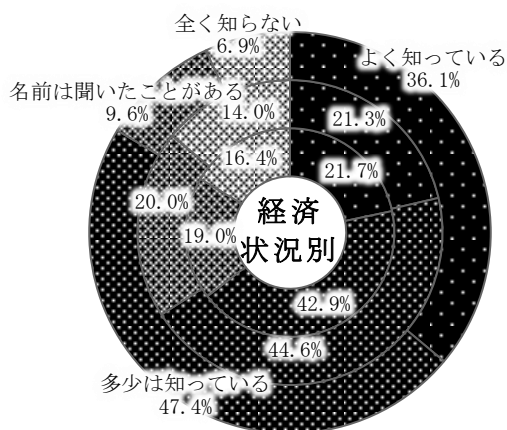
全体= 1000



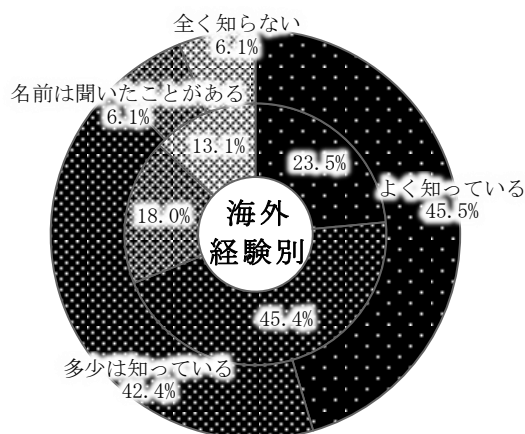
外：男=500、内：女=500



外：大学生=400、中：高校生=300、内：中学生=300



外：豊かと回答=291、中：普通と回答=520、
内：苦しいと回答=189

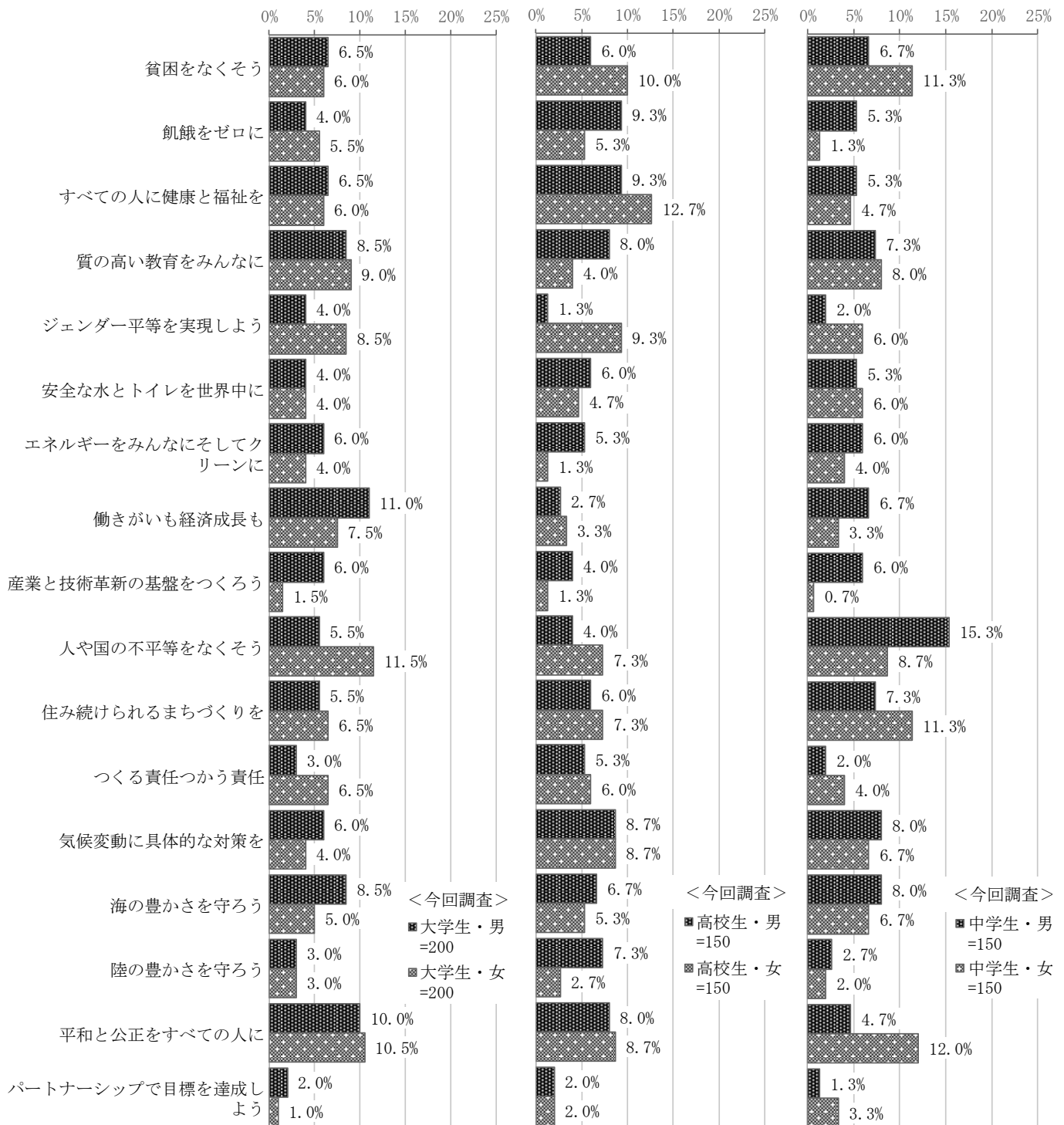


外：海外経験あり=99、内：海外経験なし=901

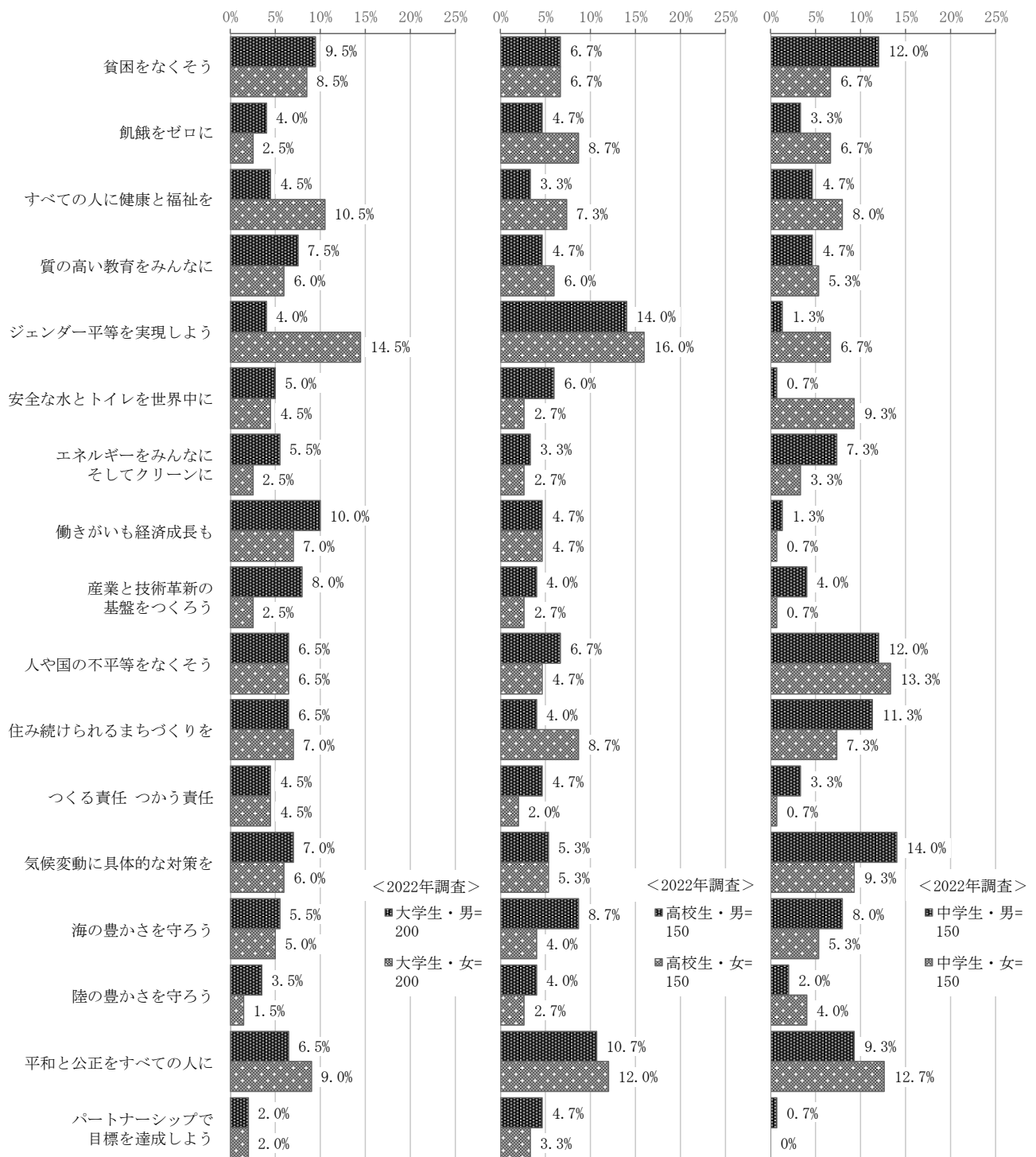
1.7. 関心のある SDGs の 17 の目標

- 前回調査と同様に、全体では突出して回答者が多い目標はみられなかった。
- 一方、大学生・高校生の女子では「目標 5 ジェンダー平等を実現しよう」(11.5%、12.7%) への関心が高く、中学生では男子で「目標 10 人や国の不平等をなくそう」(15.3%)、女子で「目標 16 平和と公正をすべての人に」(12.0%) が最も高かった。学齢や性別によって関心の高い目標に違いがみられる。

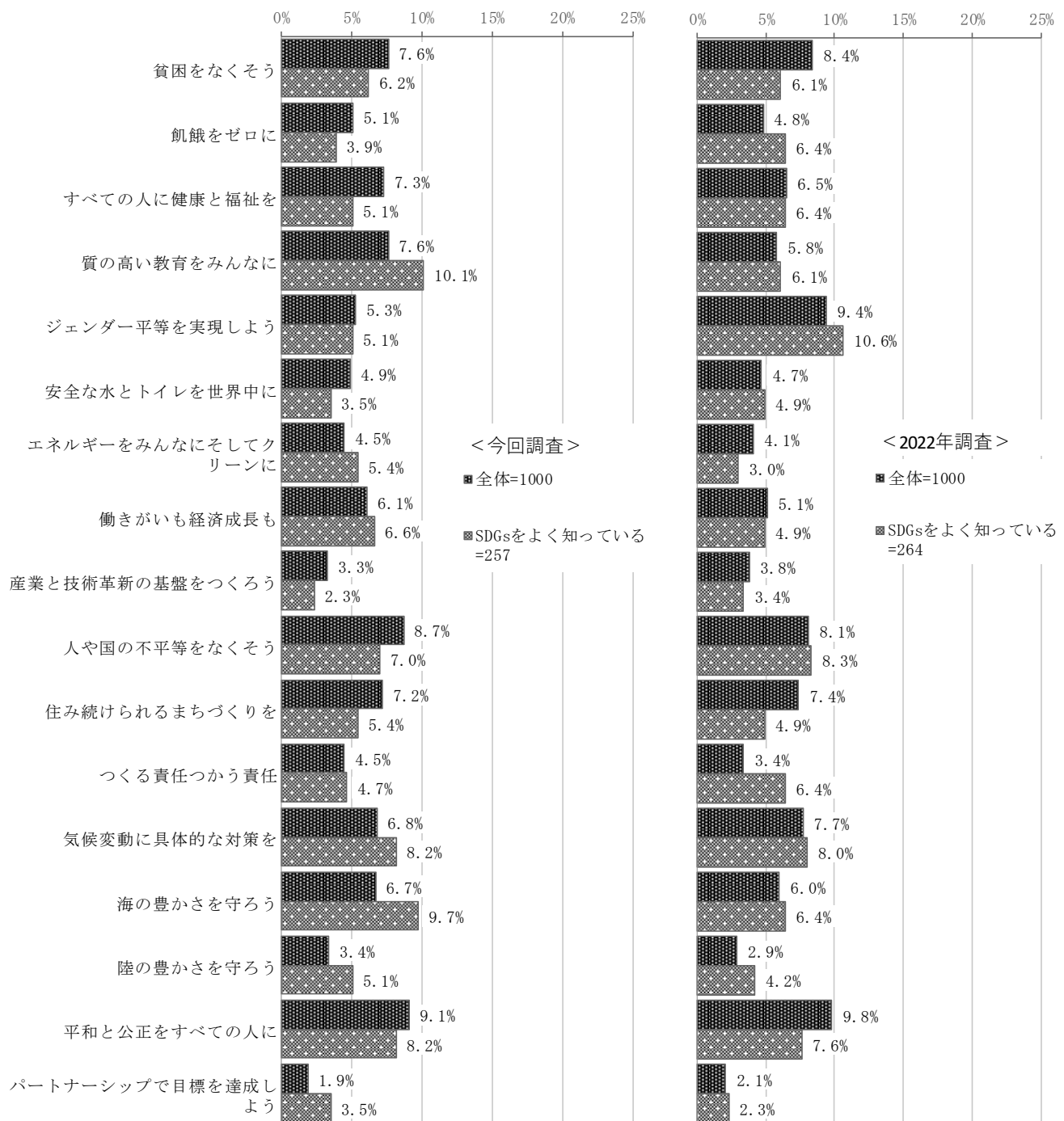
図表 1.7. 関心のある SDGs の 17 の目標 (1 位)



(参考) 図表 1.7.1. 関心のある SDGs の 17 の目標 (1 位) 前回調査



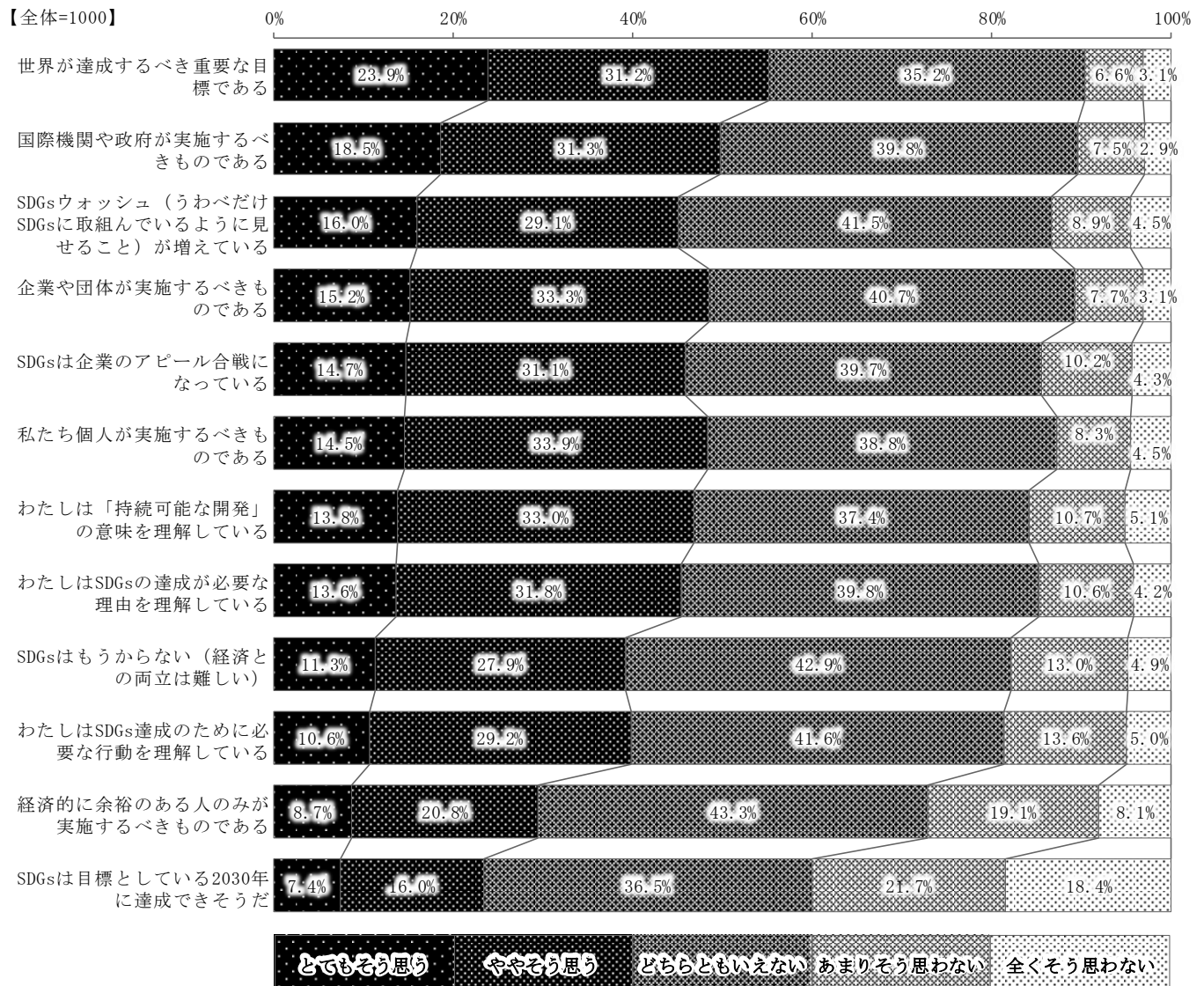
(参考) 図表 1.7.2. SDGs をよく知っている若者の関心のある SDGs の 17 の目標 (1 位)



1.8. SDGs に対する考え

- 全体の 55.1%が SDGs は「世界で達成すべき重要な目標」と思っているものの、「目標としている 2030 年に達成できそう」と考える若者は全体の 23.4%にとどまっている。
- SDGs はだれが実施すべきかという点については、「国際機関や政府」(49.8%)、「企業や団体」(48.5%)、「私たち個人」(48.4%)といずれも大差はない。一方で「達成のために必要な行動を理解している」と回答した若者は 39.8%である。

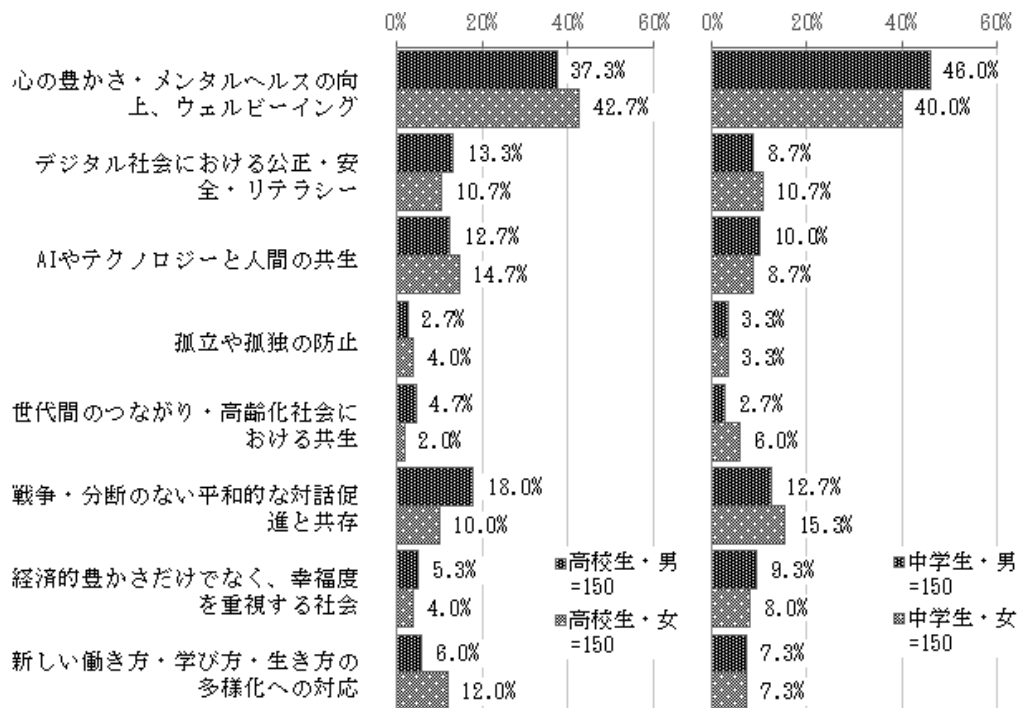
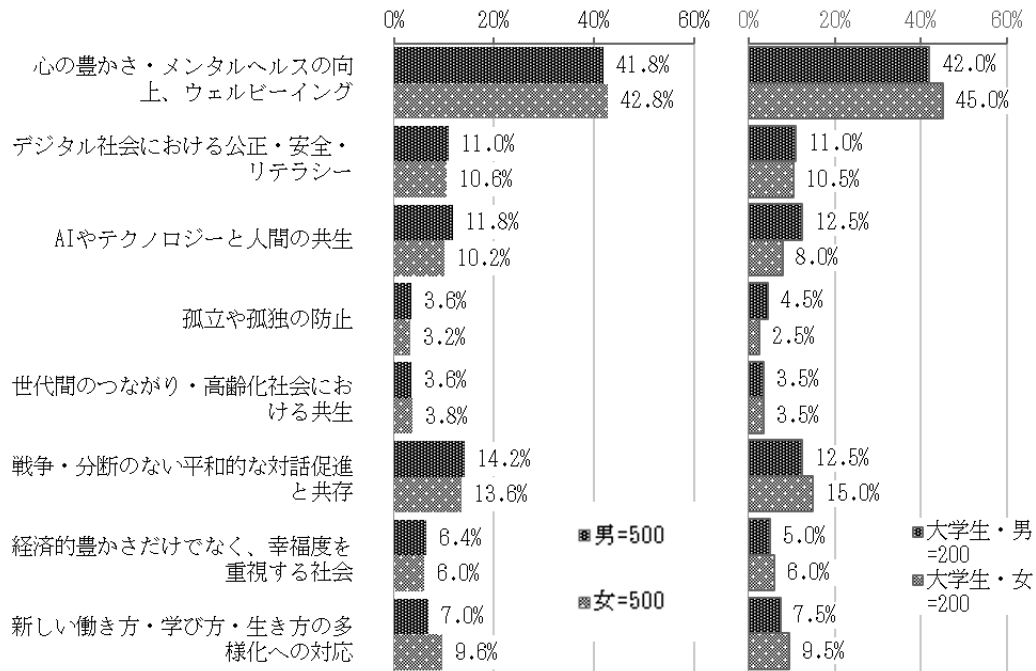
図表 1.8. SDGs に対する考え（単一選択）



1.8.1. 「ポスト SDGs（次の時代の目標）」を考える際の重要な視点

- ポスト SDGs で重視する視点は、「心の豊かさ・メンタルヘルスの向上、ウェルビーイング」が最多（男子 41.8%、女子 42.8%）となった。
- 「心の豊かさ・メンタルヘルスの向上、ウェルビーイング」の回答割合は、2位の「戦争・分断のない平和的な対話促進と共存」（男子 14.2%、女子 13.6%）を男女とも 25pt 以上上回り、若者の間でウェルビーイングへの関心が突出していることが示された。

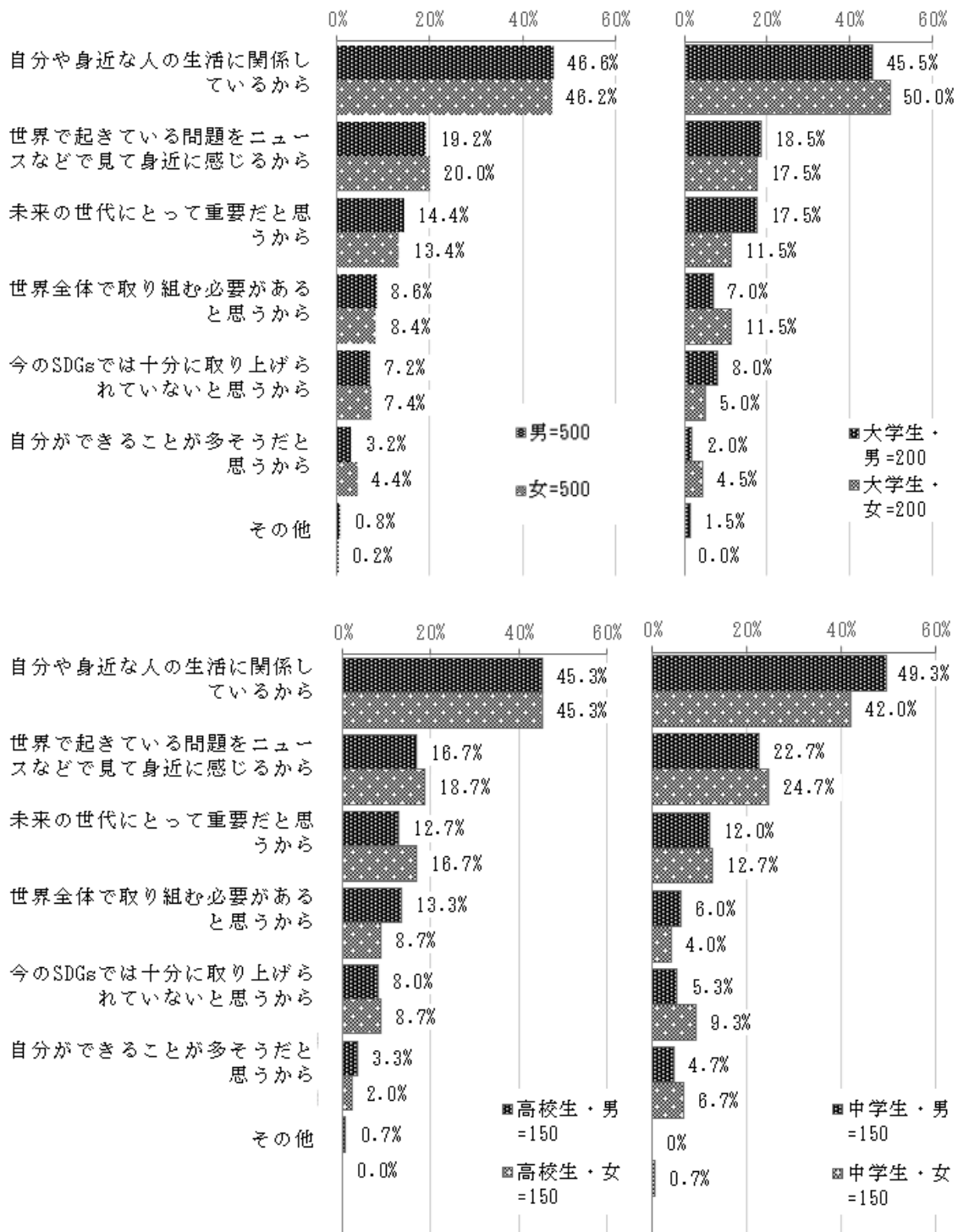
図表 1.8.1. 「ポスト SDGs（次の時代の目標）」を考える際の重要な視点（1位）



1.8.2. 「ポスト SDGs（次の時代の目標）」を考える際の重要な視点を選択した理由

- 前の設問で選んだ項目を大切だと思うのはなぜか尋ねたところ、「自分や身近な人の生活に関係しているから」が最も多かった（男子 46.6%、女子 46.2%）。
- ポスト SDGs で「心の豊かさ・メンタルヘルスの向上、ウェルビーイング」が重視された背景には、若者が自身や身近な人の暮らしや幸福につながる課題を重視していることがあると考えられる。

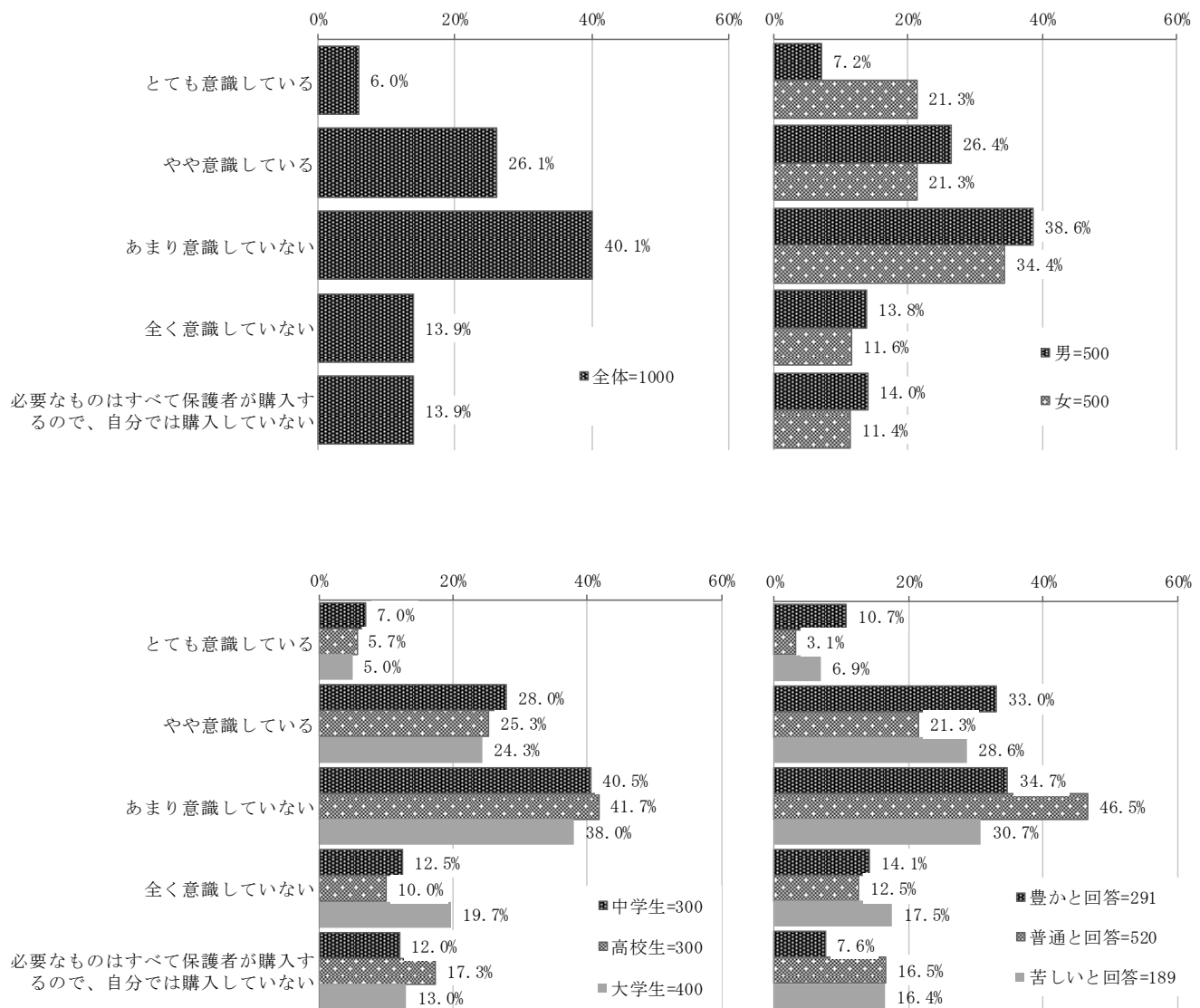
図表 1.8.2. 「ポスト SDGs（次の時代の目標）」を考える際の重要な視点を選択した理由（1 位）



1.9. 商品購入時の、環境問題や社会課題に取り組む企業の商品かどうかの意識

- 環境問題や社会課題を意識した商品購入を行っている若者は全体で 32.1%だった。(前回：32.4%)
- 経済状態別では、豊かと回答した若者のうち「意識している」と回答したのは 43.7%である。一方、苦しいと回答した若者 (35.5%)・普通と回答した若者 (24.4%) と比べるとそのギャップは大きい。

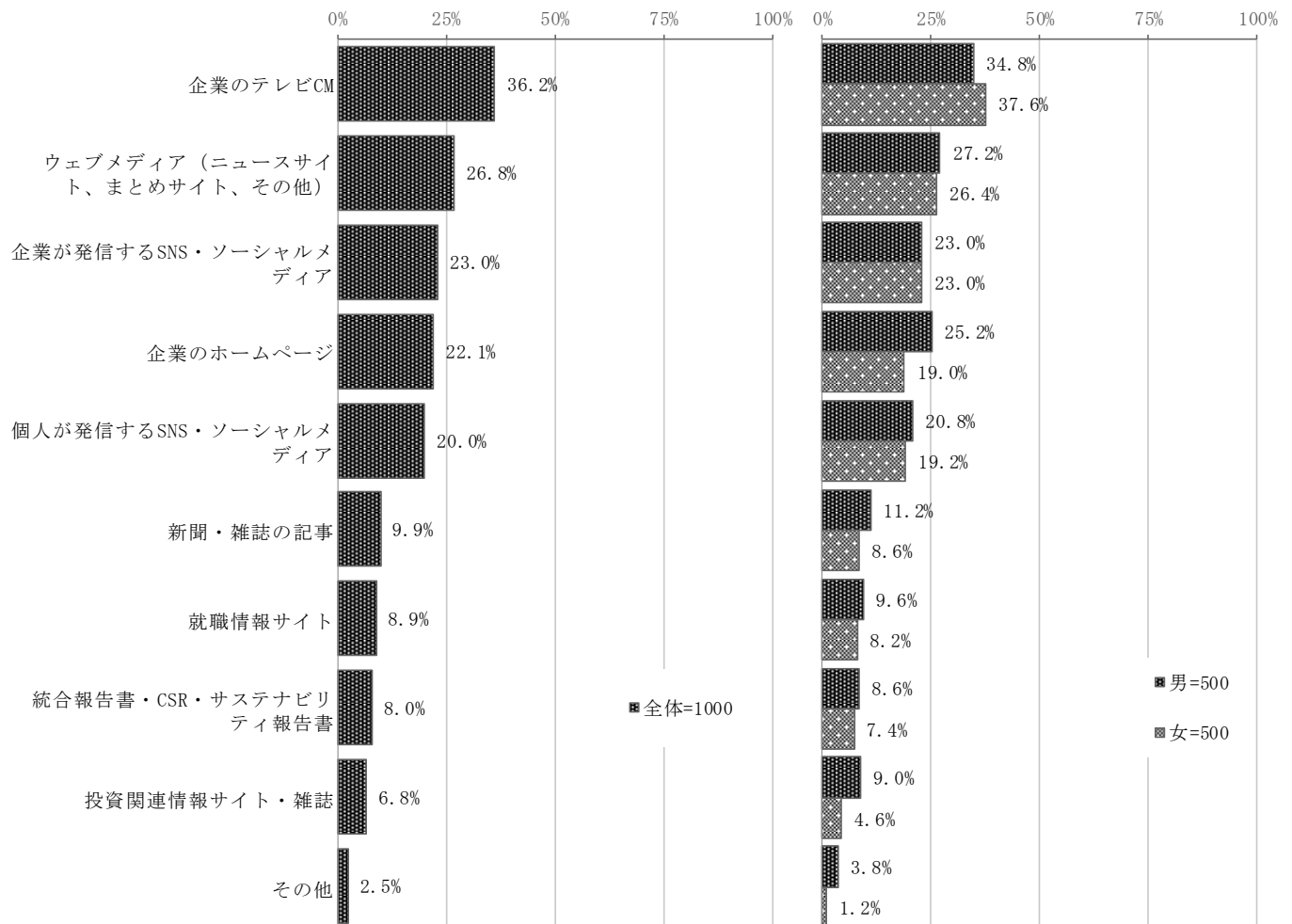
図表 1.9. 商品購入時の、環境問題や社会課題に取り組む企業の商品かどうかの意識 (単一選択)



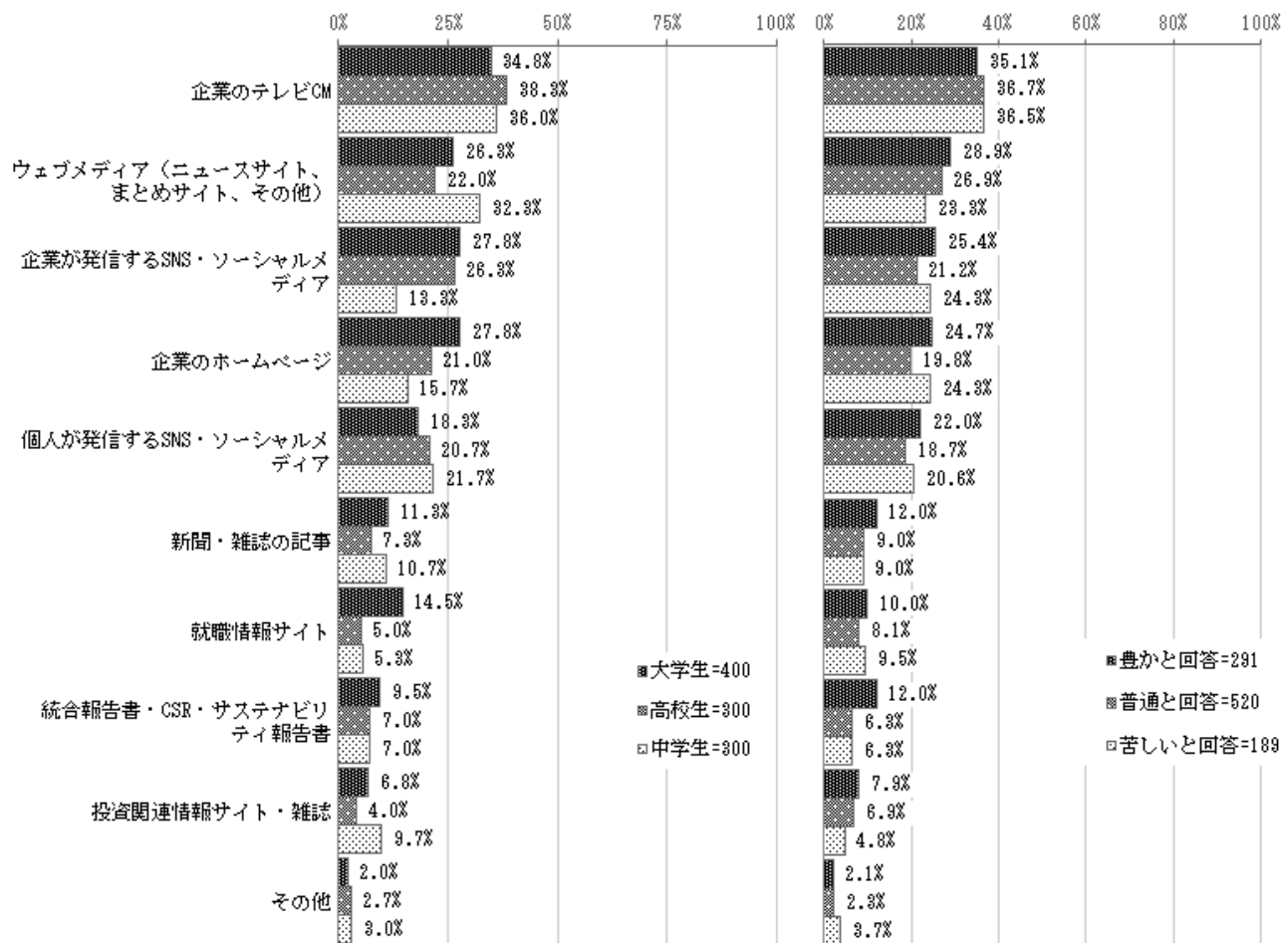
1.10. 環境問題や社会課題に取り組む企業の認知経路

- 環境問題や社会課題に取り組んでいる企業を認知する媒体としては、全体として「企業のテレビ CM」を選ぶ若者が多く「ウェブメディア」、「企業が発信する SNS」と続く。
- 「企業のホームページ」や「企業が発信する SNS」では、学齢が高くなるほど選択している若者が多い。

図表 1.10. 環境問題や社会課題に取り組む企業の認知経路（複数選択）



注 「その他」には、「学校」「学校の授業」「関心がない」「気にしない」「知ることはない」「商品パッケージのフェアトレードマーク」「店頭のポスターなど」「わからない」等があった。



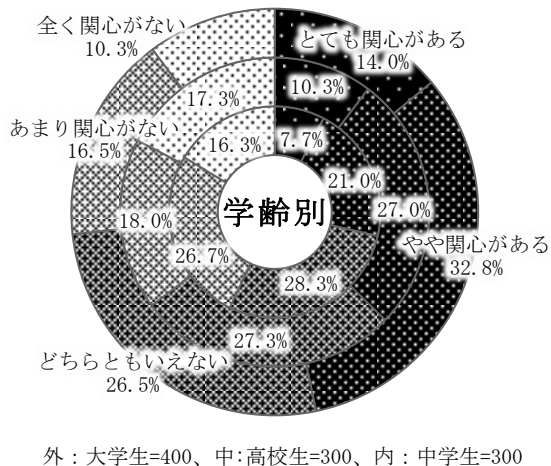
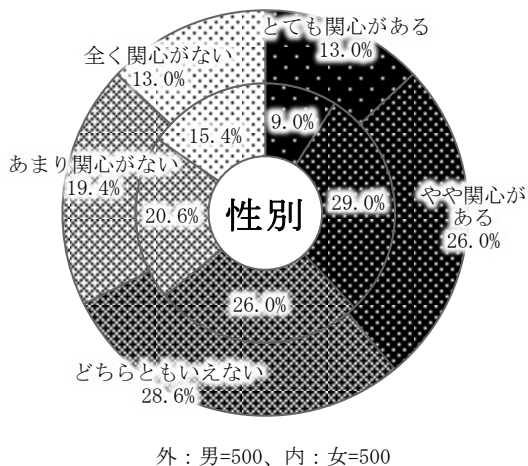
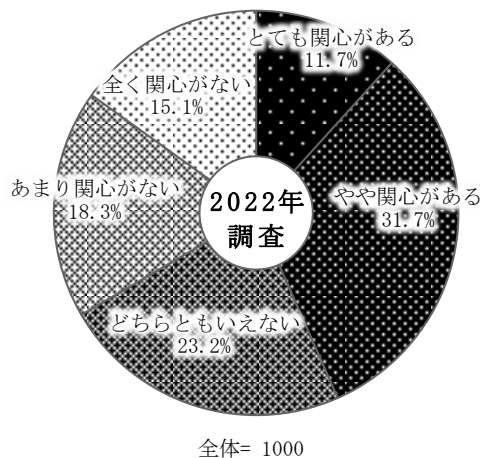
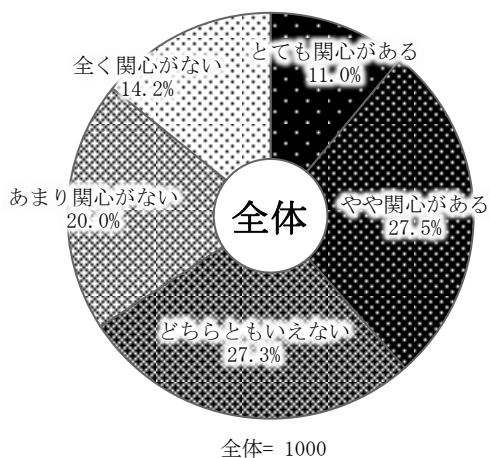
注 「その他」には、「学校」「学校の授業」「関心がない」「気にしない」「知ることはない」「商品パッケージのフェアトレードマーク」「店頭のポスターなど」「わからない」等があった。

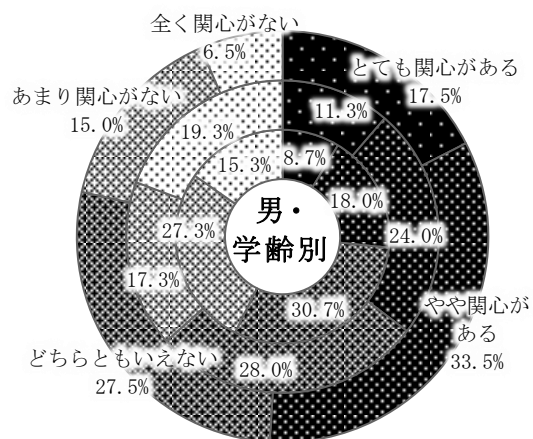
2. 金融・経済教育

2.1. 金融や経済への関心

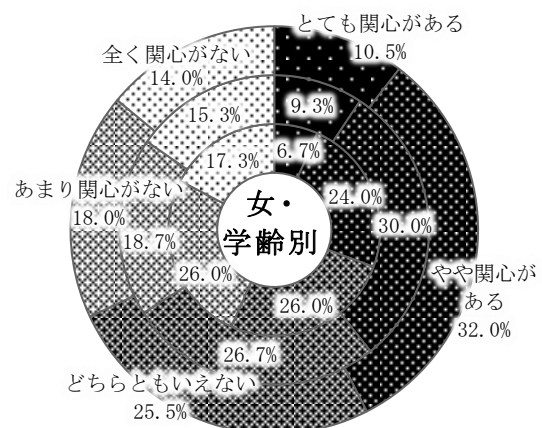
- 金融や経済への関心を持つ（「とても関心がある」、「やや関心がある」）若者は全体で 38.5%であり、前回（43.4%）と比べると、やや減少していることがわかる。
- さらに性別ごとでは、男子で 39.0%、女子で 38.0%であり、学齢別を加えた性別ごとでは、大学生男子で 51.0%、大学生女子で 42.5%、高校生男子で 35.3%、高校生女子で 39.3%、中学生男子で 26.7%、中学生女子で 30.7%である。
- 経済状態別にみると、豊かであると回答した人（54.3%）は、普通（28.4%）・苦しい（41.8%）と比較して関心度が高い。

図表 2.1. 金融や経済への関心（単一選択）

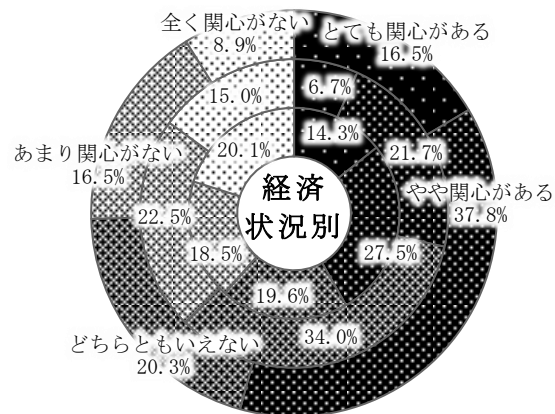




外：大学生・男=200、中：高校生・男=150、
内：中学生・男=150



外：大学生・女=200、中：高校生・女=150、
内：中学生・女=150

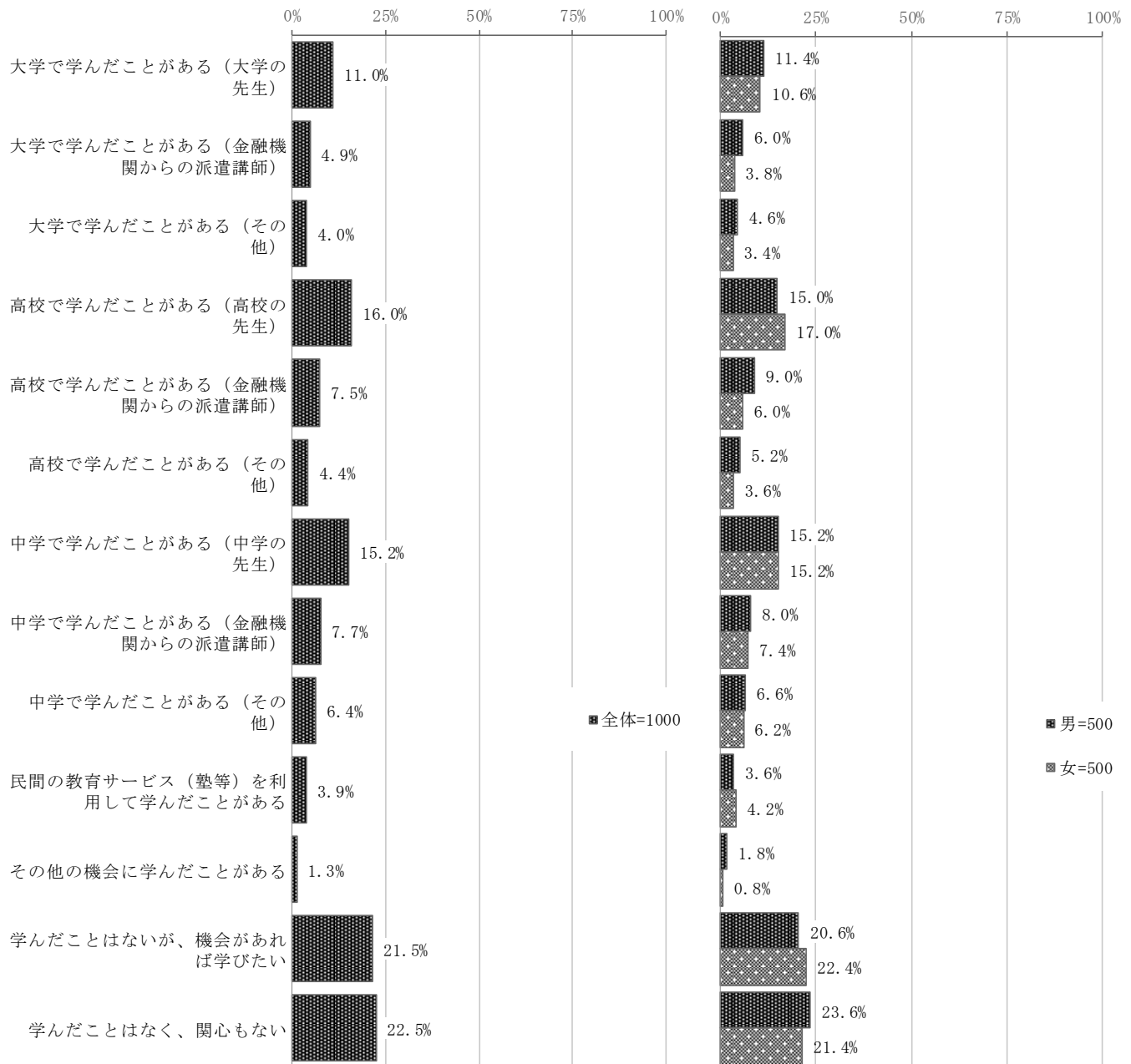


外：豊かと回答=291、中：普通と回答=520、
内：苦しいと回答=189

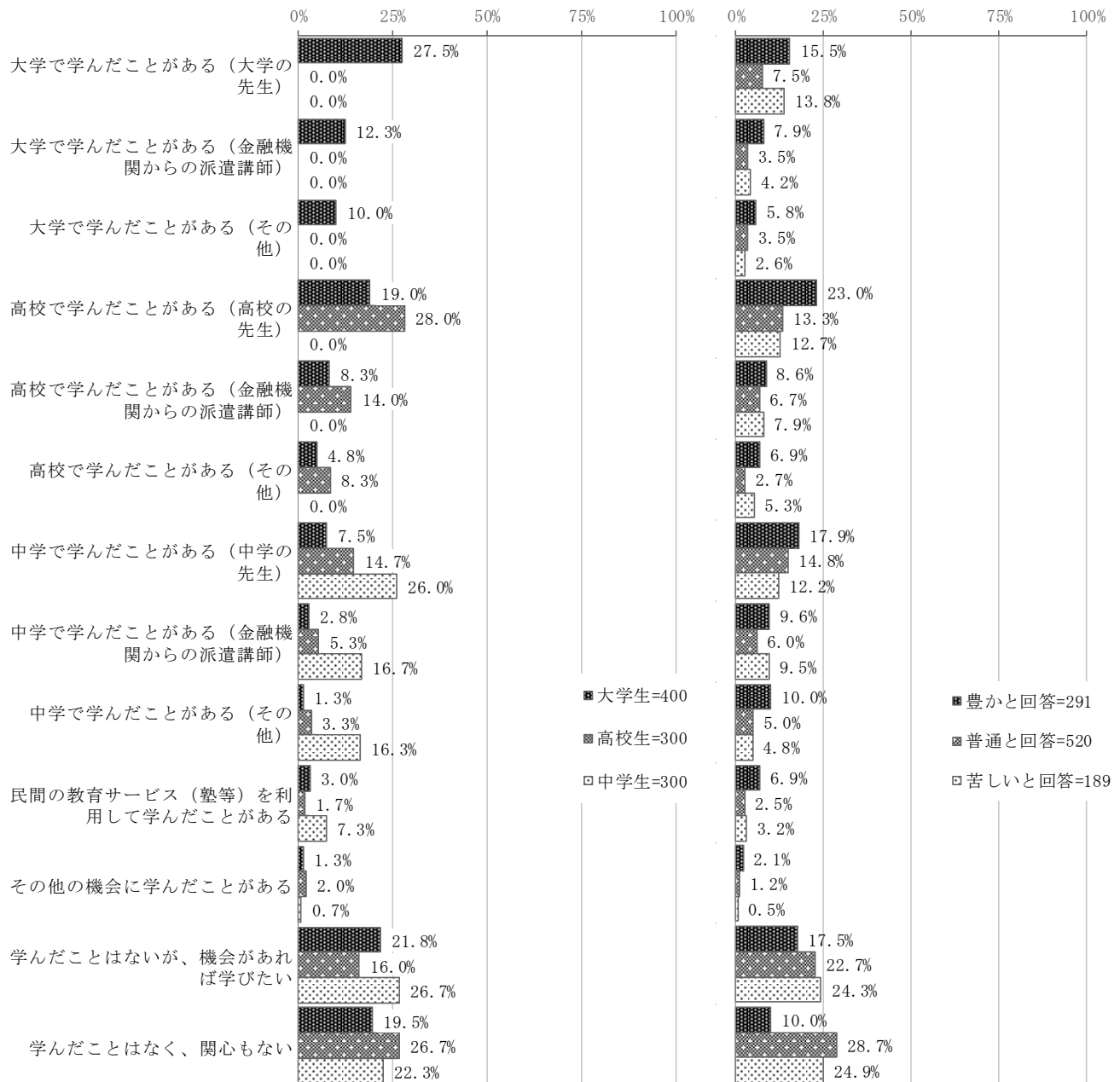
2.2. 金融や経済に関して学ぶ機会

- 若者が金融や経済を学ぶ機会は、大学、高校、中学ともに、教員から学ぶ機会が最も多い。
- 性別や、国公立による差はあまりみられないが、経済状態別にみたときに豊かと回答した若者は、そうではない若者と比較して、わずかながら金融や経済に関して学ぶ機会が多い。

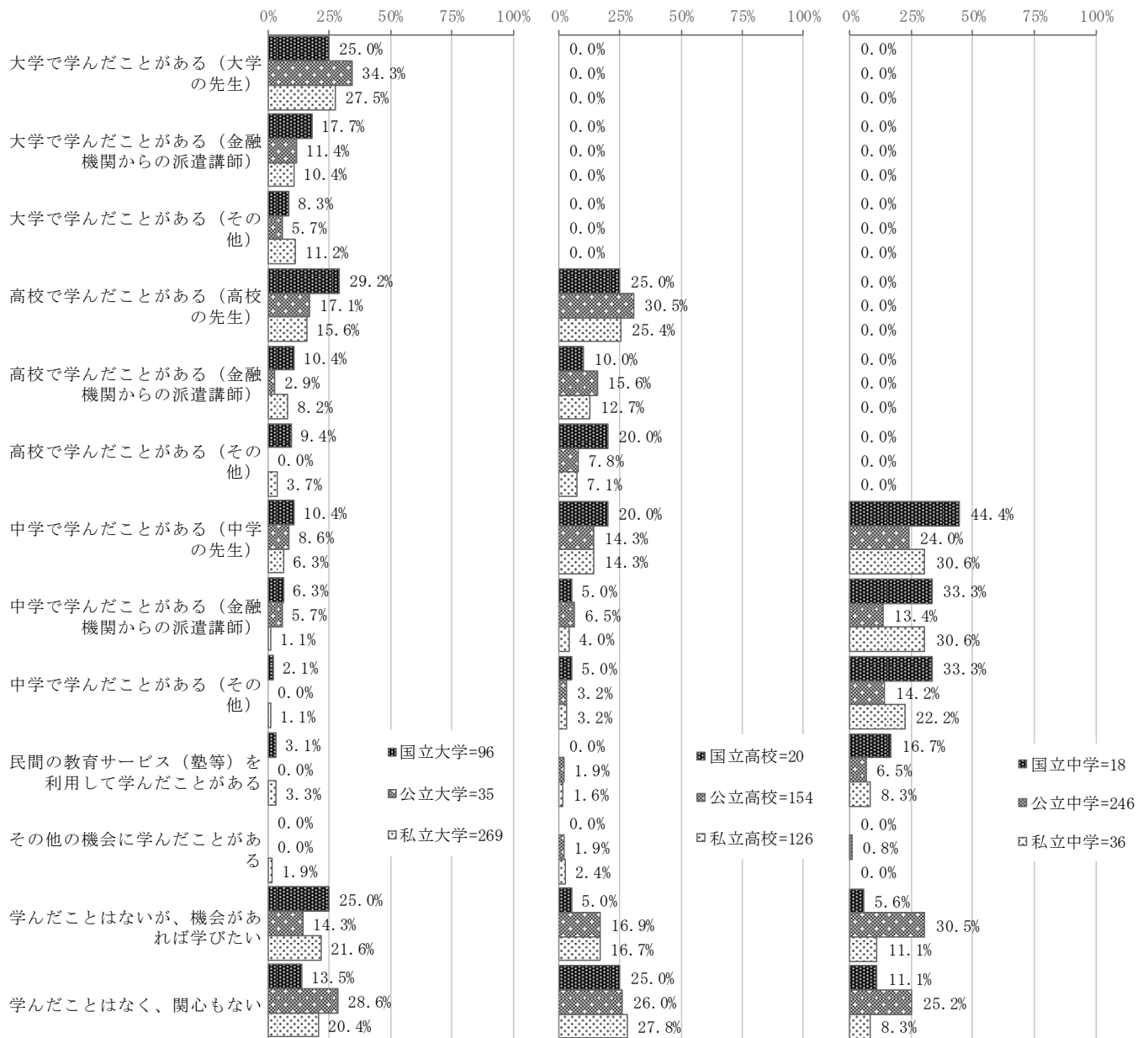
図表 2.2. 金融や経済に関して学ぶ機会（複数選択）



注 「その他の機会」には、「家庭」「親から」「忘れた」「独学」「本」「テレビ」「YouTube」等があった。



注 「その他の機会」には、「家庭」「親から」「忘れた」「独学」「本」「テレビ」「YouTube」等があった。

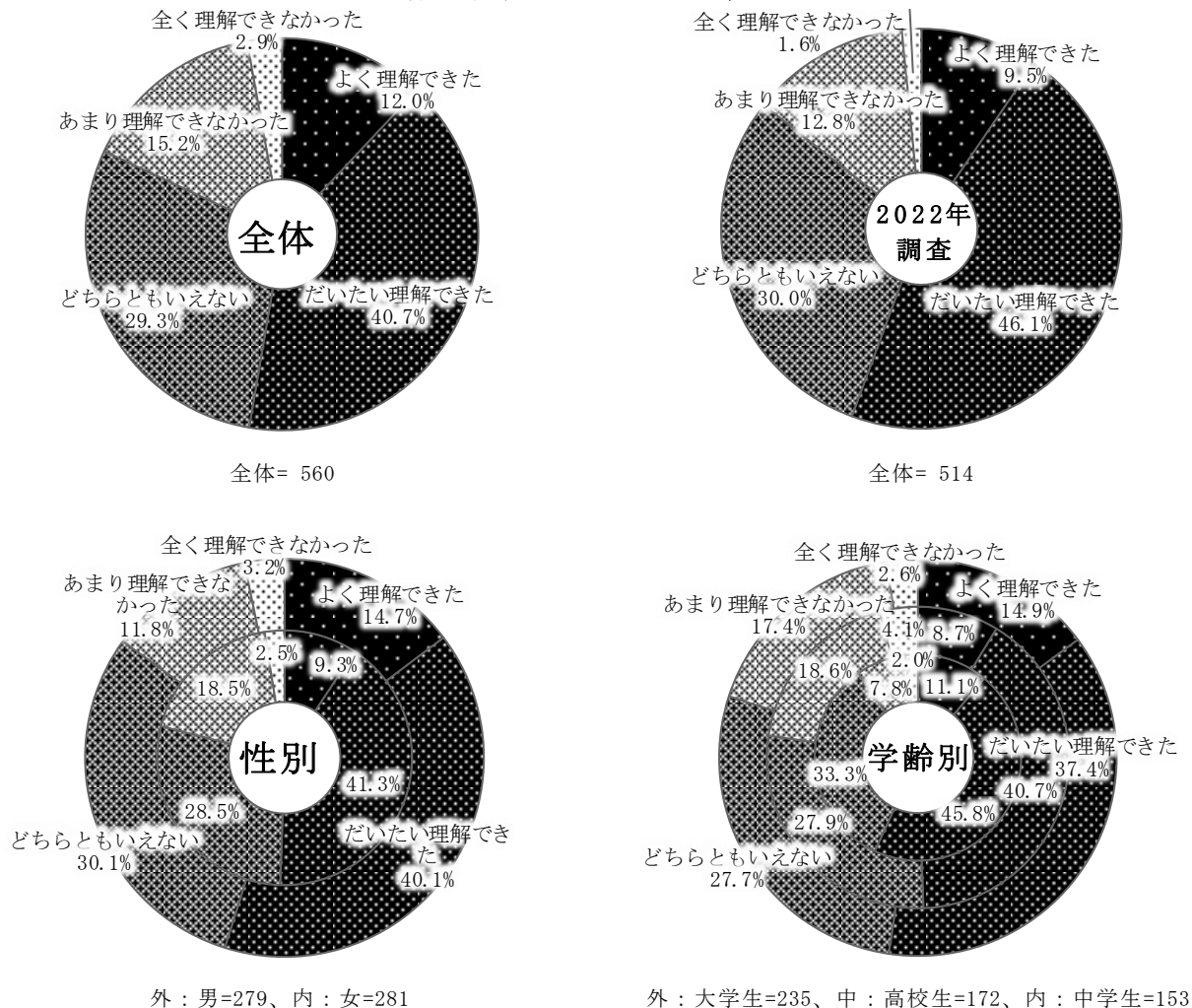


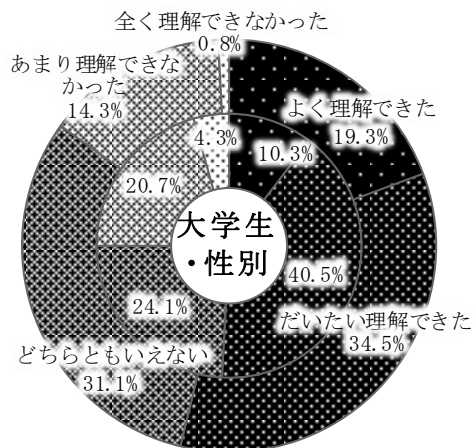
注 「その他の機会」には、「家庭」「親から」「忘れた」「独学」「本」「テレビ」「YouTube」等があった。

2.3. 金融や経済についての理解度

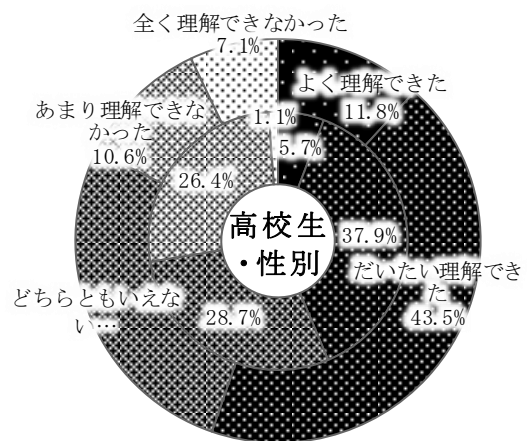
- 金融や経済についての授業を受けたことがある若者（n=560）のうち、理解できたと感じている（「よく理解できた」、「だいたい理解できた」）若者は全体で 52.7%、性別ごとでは男子で 54.8%、女子で 50.6% である。おおむね前回調査との傾向は変わらない。
- 学齢および性別ごとに理解ができたと感じている若者の比率は、大学生男子 53.8%、大学生女子 50.8%、高校生男子 55.3%、高校生女子 43.6%、中学生男子 56.0%、中学生女子 57.7%である。
- 経済状態別にみると、豊かと回答した若者は、そうではないと回答した若者と比較して、金融や経済に関する理解度が高い傾向にある。

図表 2.3. 金融や経済についての理解度（単一選択）

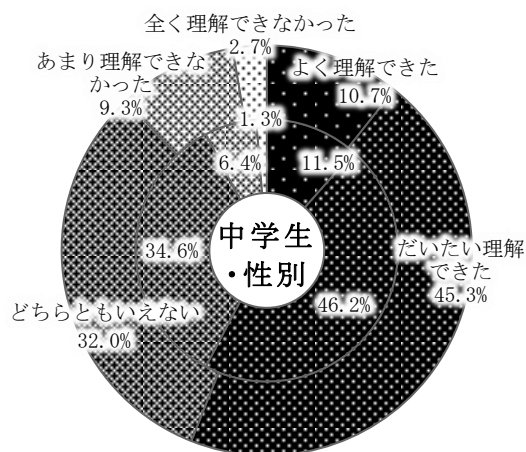




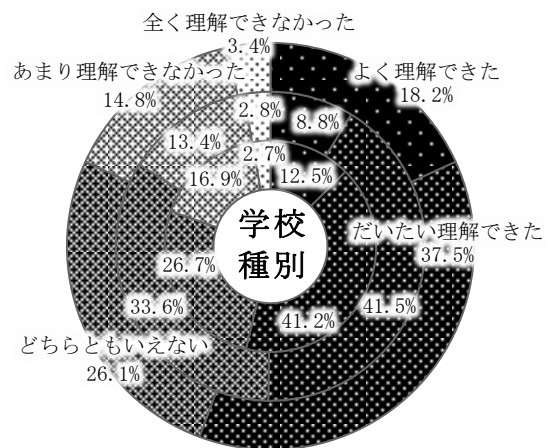
外：大学生・男=119、内：大学生・女=116



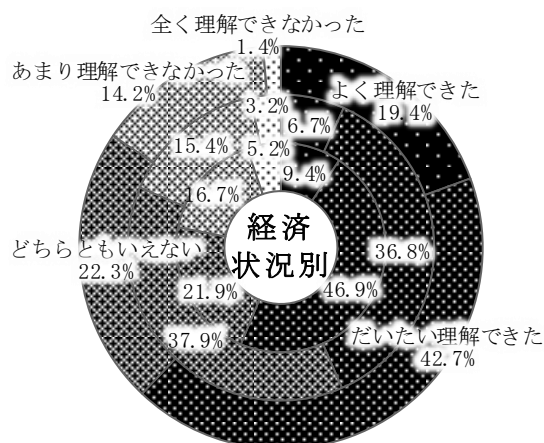
外：高校生・男=85、内：高校生・女=87



外：中学生・男=75、内：中学生・女=78

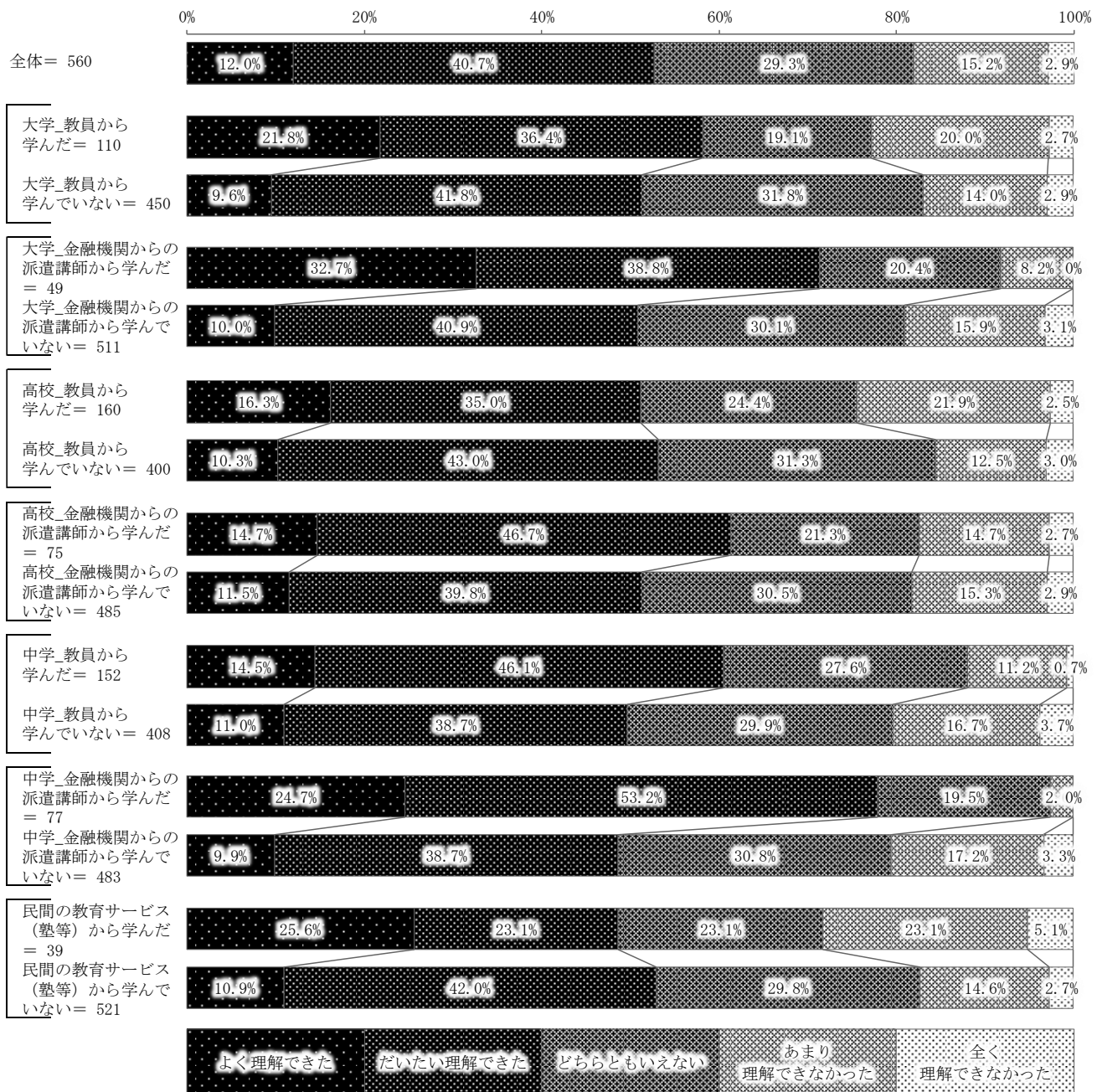


外：国立=88、中：公立=217、中：私立=225



外：豊かと回答=211、中：普通と回答=253、
内：苦しいと回答=96

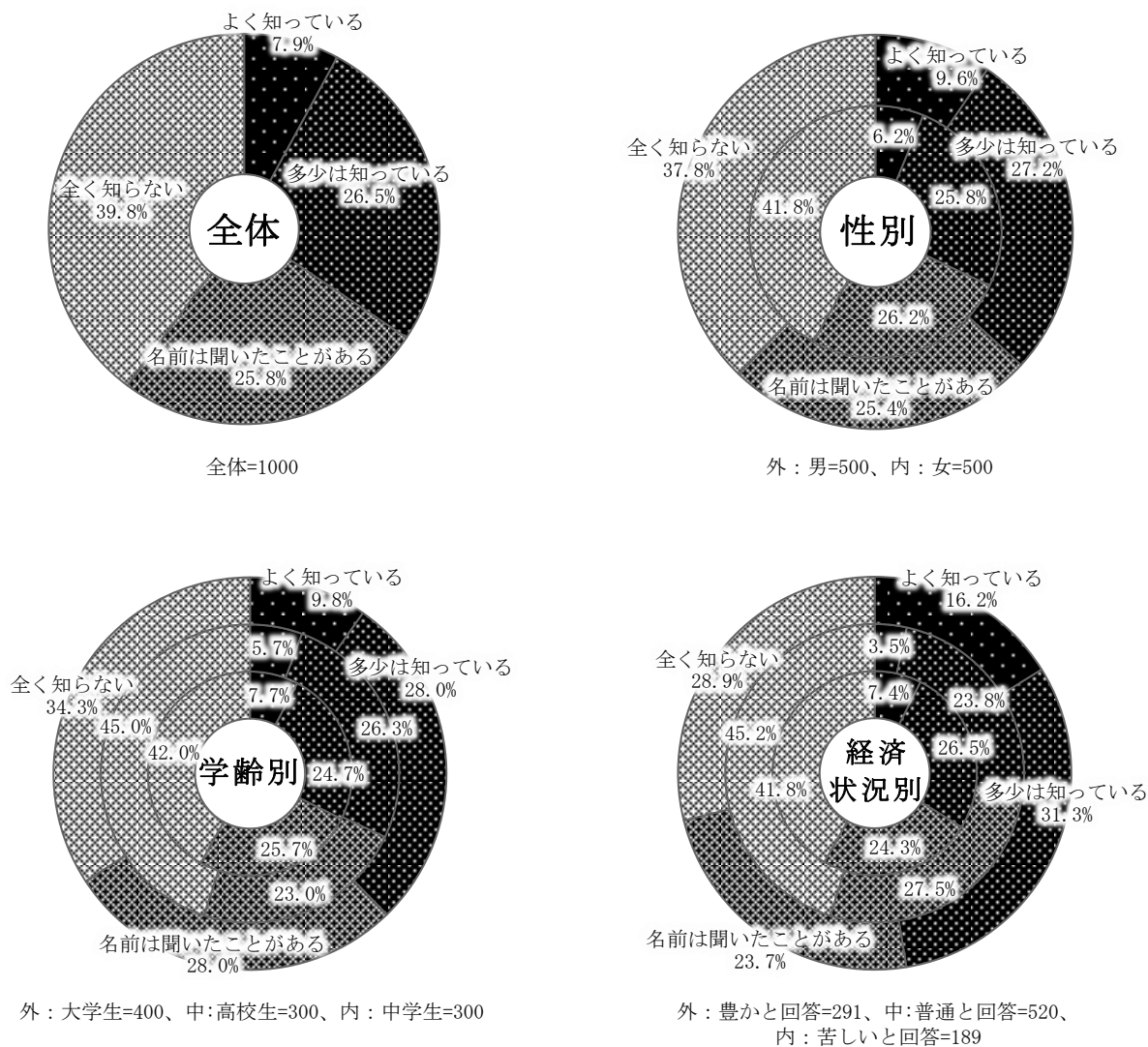
(参考) 図表 2.3.1. 金融や経済に関して学ぶ機会別理解度



2.4. ESG 投資やサステナブル・ファイナンスの認知

- ESG 投資やサステナブル・ファイナンスという言葉を知っている（「よく知っている」「多少は知っている」と回答した若者は全体で 34.4%であり、性別ごとでは男子で 36.8%、女子で 32.0%である。
- 学齢別では、大学生が 37.8%とやや高く、高校生で 32.0%、中学生で 32.4%である。
- 経済状態別にみると、豊かと回答した若者は、そうではないと回答した若者と比較して、ESG 投資やサステナブル・ファイナンスという言葉を知っている若者が多い。

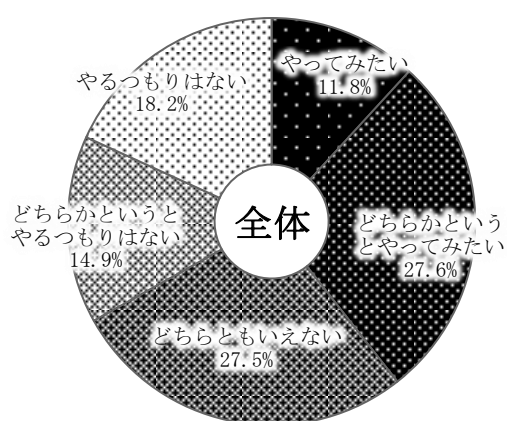
図表 2.4. ESG 投資やサステナブル・ファイナンスの認知（単一選択）



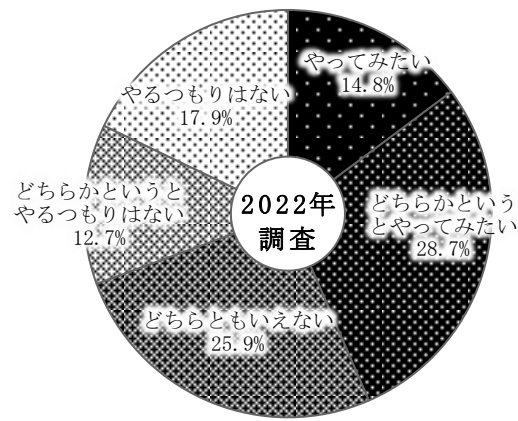
2.5. 投資の意欲

- 将来、投資をしてみたいか尋ねたところ、投資への意欲を持つ（「やってみたい」、「どちらかというをやってみたい」）若者は全体で 39.4%であり、性別ごとでは男子で 39.8%、女子で 39.0%である。前回調査では、全体で 43.5%であったことから、全体的に投資に対する意欲を持つ若者がわずかに減っている。
- さらに学齢および性別ごとに投資への意欲を持つ若者の比率を比べると、大学生男子で 49.5%、大学生女子では 43.5%、高校生男子では 35.1%、高校生女子では 33.4%、中学生男子では 31.3%、中学生女子では 38.7%である。
- 経済状態別にみたときに豊かと回答した若者は、そうではない若者と比較して、投資意欲が高い。

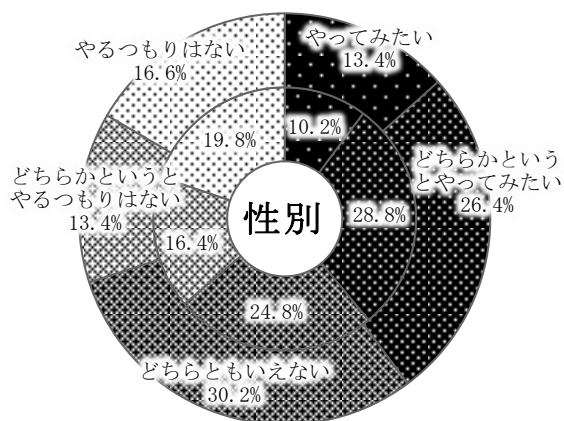
図表 2.5. 投資の意欲（単一選択）



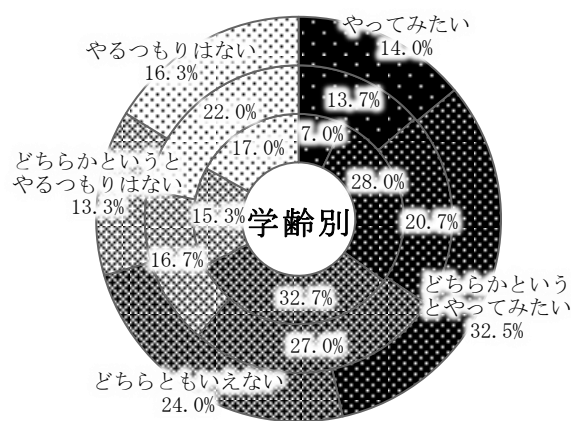
全体=1000



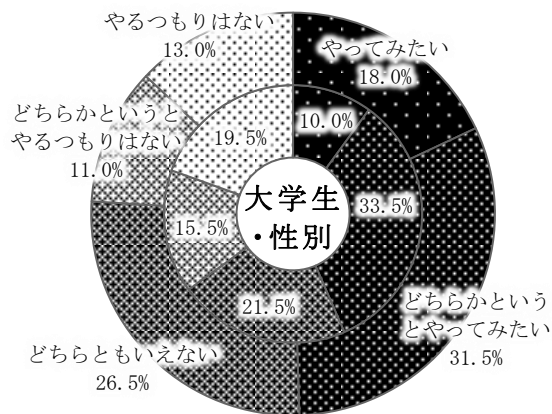
全体=1000



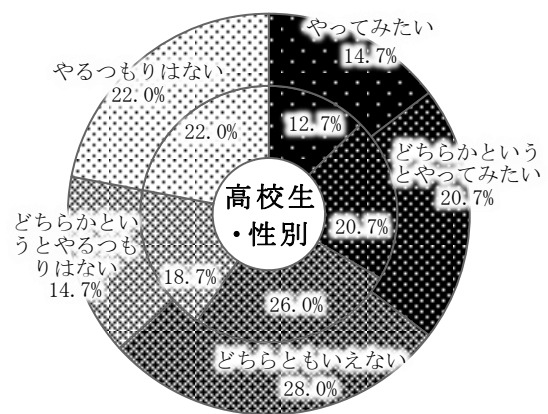
外：男=500、内：女=500



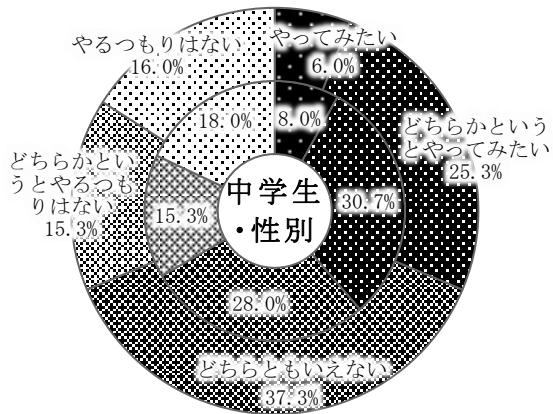
外：大学生=400、中：高校生=300、内：中学生=300



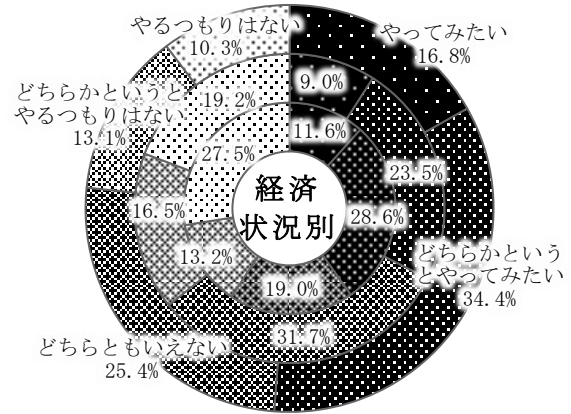
外：大学生・男=200、内：大学生・女=200



外：高校生・男=150、内：高校生・女=150



外：中学生・男=150、内：中学生・女=150

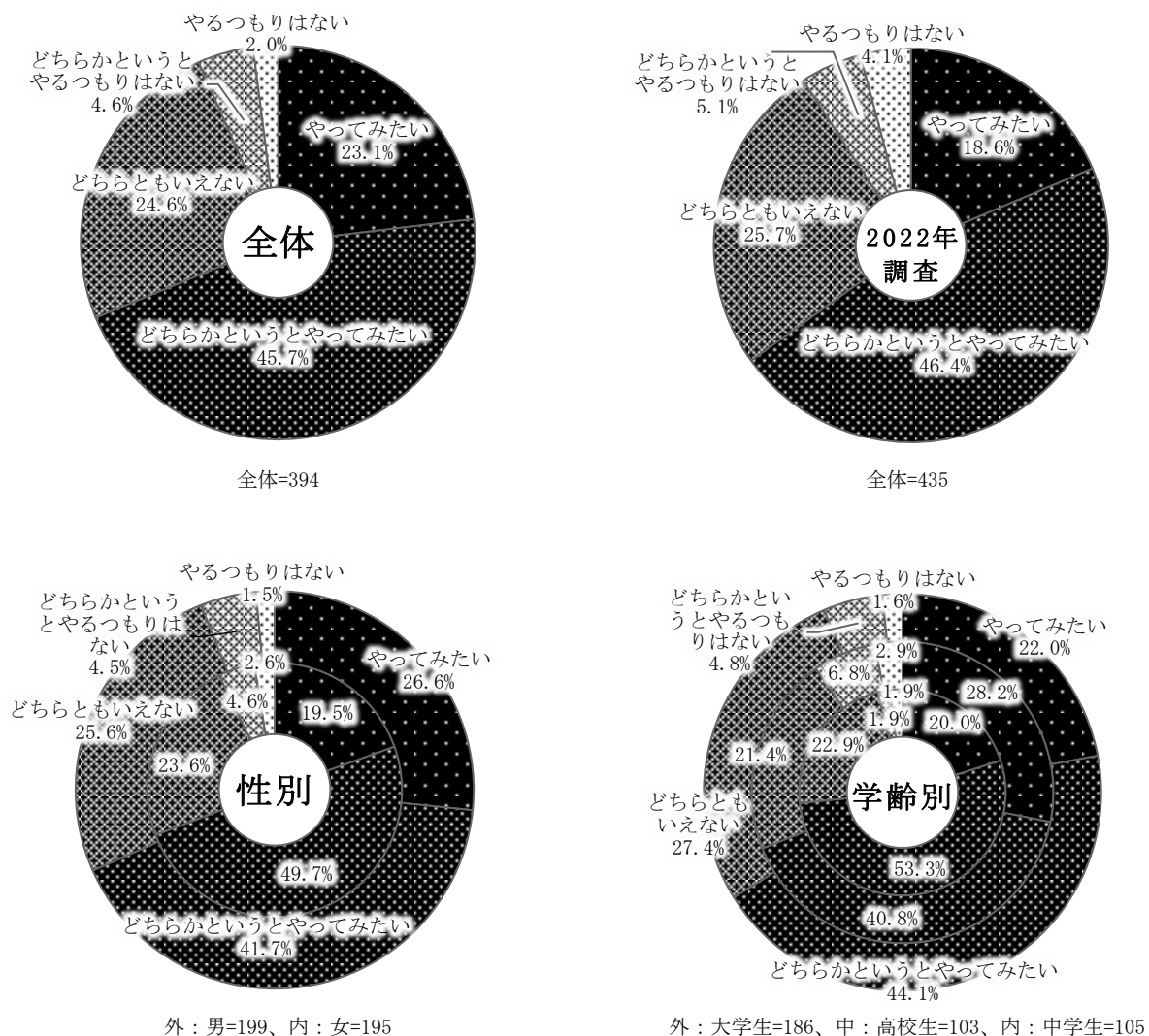


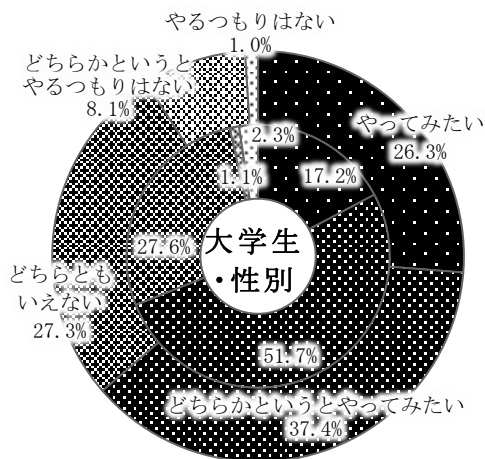
外：豊かと回答=291、中：普通と回答=520、
内：苦しいと回答=189

2. 6. 環境問題や社会課題に取り組む企業への投資の意欲

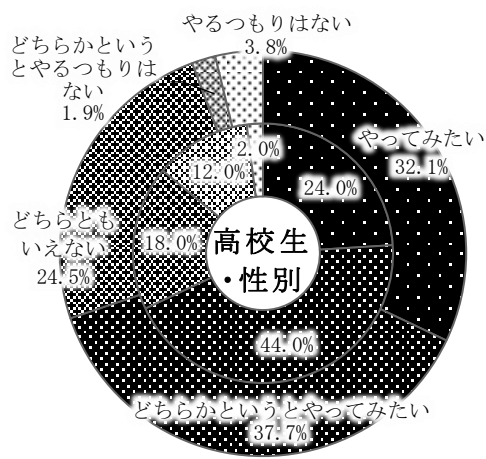
- 投資への意欲がある若者（n=394）に対し、環境問題や社会課題に取り組んでいる企業に優先して投資をしたいか尋ねたところ、環境問題や社会課題に取り組んでいる企業への投資の意欲を持つ（「やってみたい」、「どちらかというやってみたい」）若者は全体で 68.8%、性別ごとでは男子で 68.3%、女子で 69.2%である。前回調査では全体で 65.0%であった。
- 投資全体の関心および「環境問題や社会課題に取り組む企業への投資」への関心は男女ともほぼ同じ傾向であることが見受けられる。
- 経済状況別では、苦しいと回答した若者（75.0%）が最も多く、次に、豊かと回答した若者（69.8%）、普通と回答した若者（65.1%）と続く。

図表 2. 6. 環境問題や社会課題に取り組む企業への投資の意欲（単一選択）

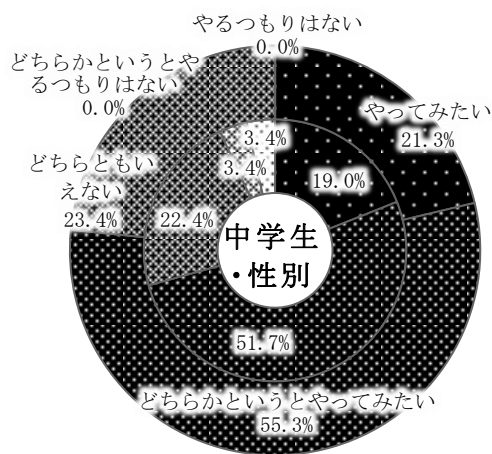




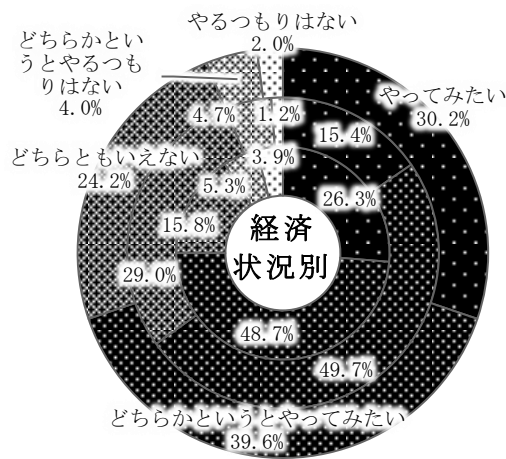
外：大学生・男=99、内：大学生・女=87



外：高校生・男=53、内：高校生・女=50



外：中学生・男=47、内：中学生・女=58

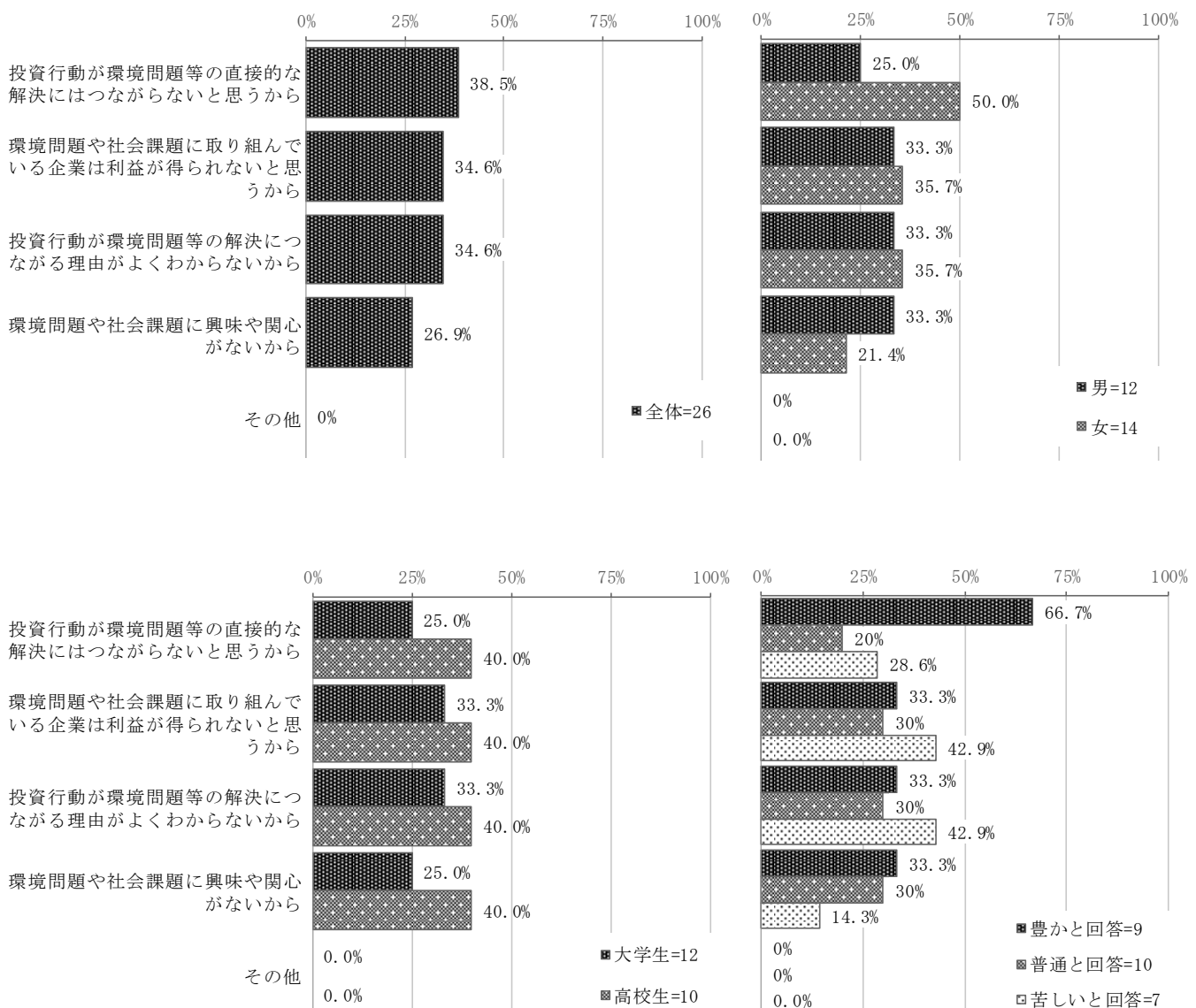


外：豊かと回答=149、中：普通と回答=169、
内：苦しいと回答=76

(参考) 環境問題や社会課題に取り組む企業への投資に意欲がない理由

- 前の質問で環境問題や社会課題に取り組む企業への投資に意欲がない（どちらかというやとやるつもりはない、やるつもりはない）と回答した若者（n=26）に対して、その理由を確認したところ、「投資行動が環境問題等の直接的な解決にはつながらないと思うから」が最も多く、次いで「環境問題や社会課題に取り組んでいる企業は利益が得られないと思うから」「投資行動が環境問題等の解決につながる理由がよくわからないから」が同数の回答であった。
- 経済状態別にみると豊かと回答した若者は、そうではない若者と比較して、「投資行動が環境問題等の直接的な解決にはつながらないと思うから」と回答する割合が高い。

(参考) 環境問題や社会課題に取り組む企業への投資に意欲がない理由（複数選択）

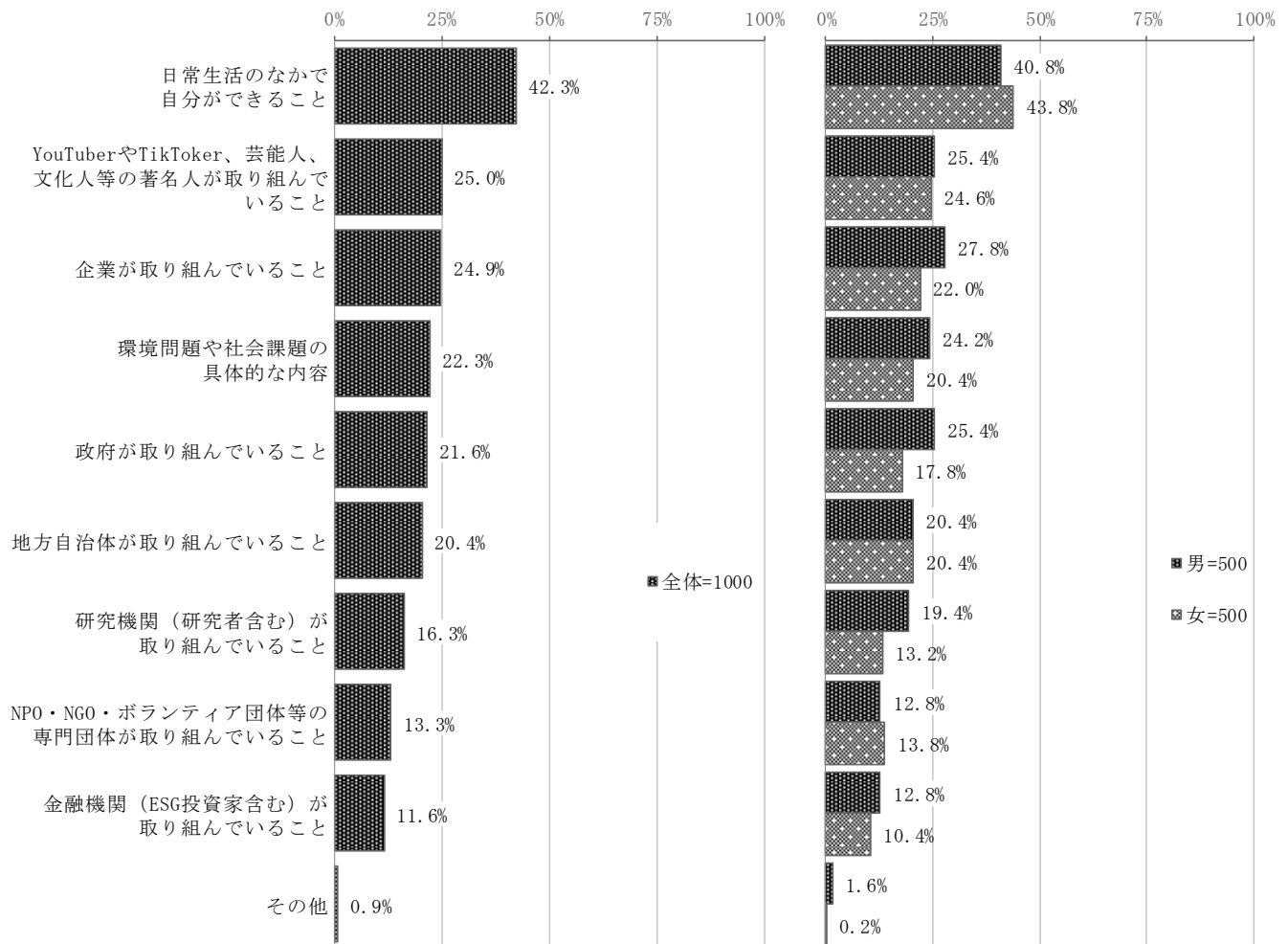


中学生はサンプル数 10 未満のため記載しない。

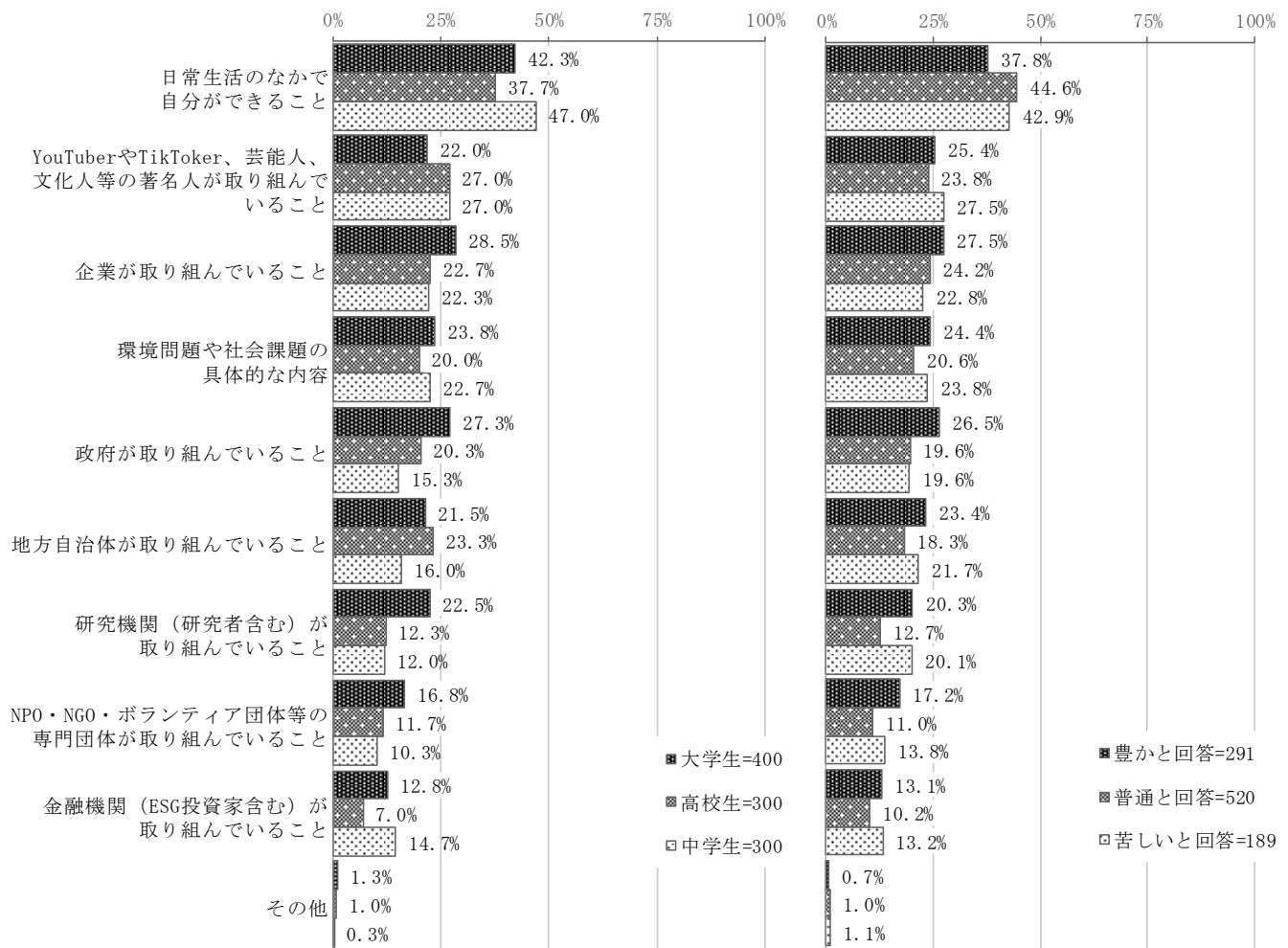
2.7. 環境問題や社会課題に関心をより深めるきっかけ

- 全体では、「日常生活のなかで自分ができること」(42.3%)が上位となった。特に中学生ではその傾向が強い。
- 性別では、男子は女子に比べて「政府が取り組んでいること」(男子：25.4%、女子：17.8%)を重視する傾向が強い。

図表 2.7. 環境問題や社会課題に関心をより深めるきっかけ（複数選択）



注 「その他」には、「なし」「わからない」「両親が取り組んでいること」等があった。



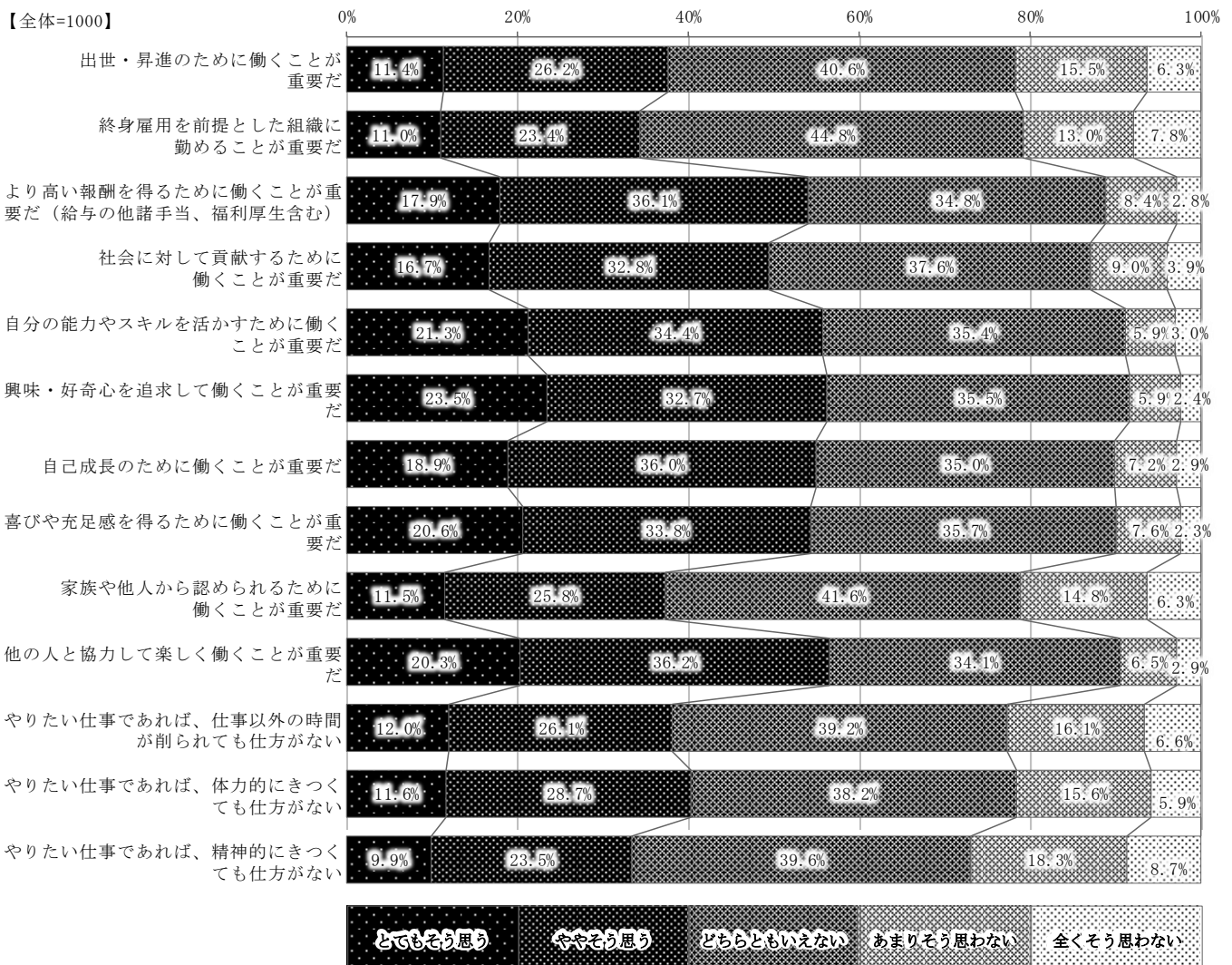
注 「その他」には、「なし」「わからない」「両親が取り組んでいること」等があった。

3. キャリア意識

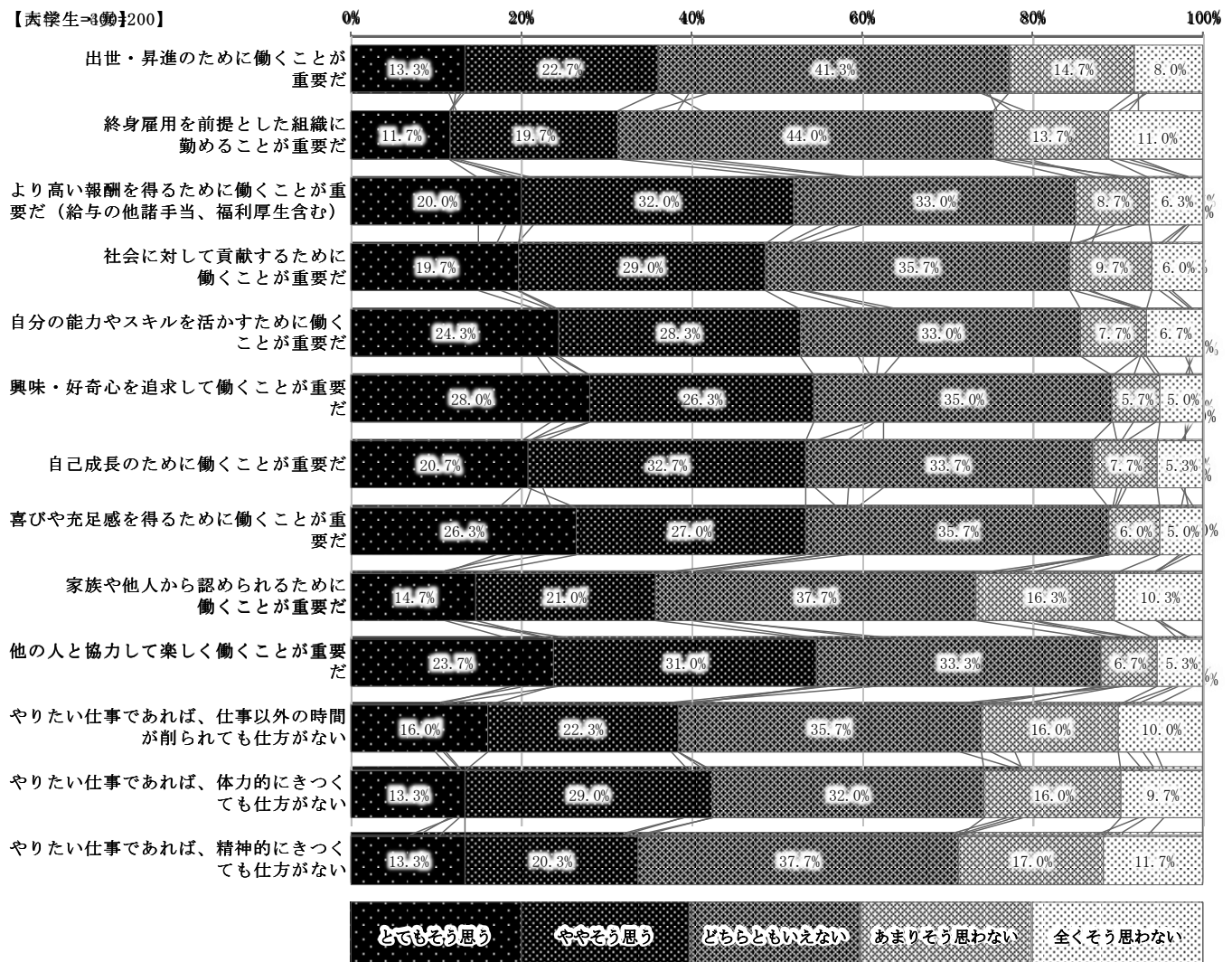
3.1. 現在のキャリア意識

- 「出世・昇進のために働くことが重要だ」については、肯定的回答（「とてもそう思う」「ややそう思う」）が4割弱である。
- 「自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要だ」「興味・好奇心を追求して働くことが重要だ」「他の人と協力して楽しく働くことが重要だ」については、肯定的回答が5～6割に上る。
- 「やりたい仕事であれば、仕事以外の時間が削られても仕方がない」「やりたい仕事であれば、体力的にきつくても仕方がない」「やりたい仕事であれば、精神的にきつくても仕方がない」については否定的回答（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」）は2～3割程度である。

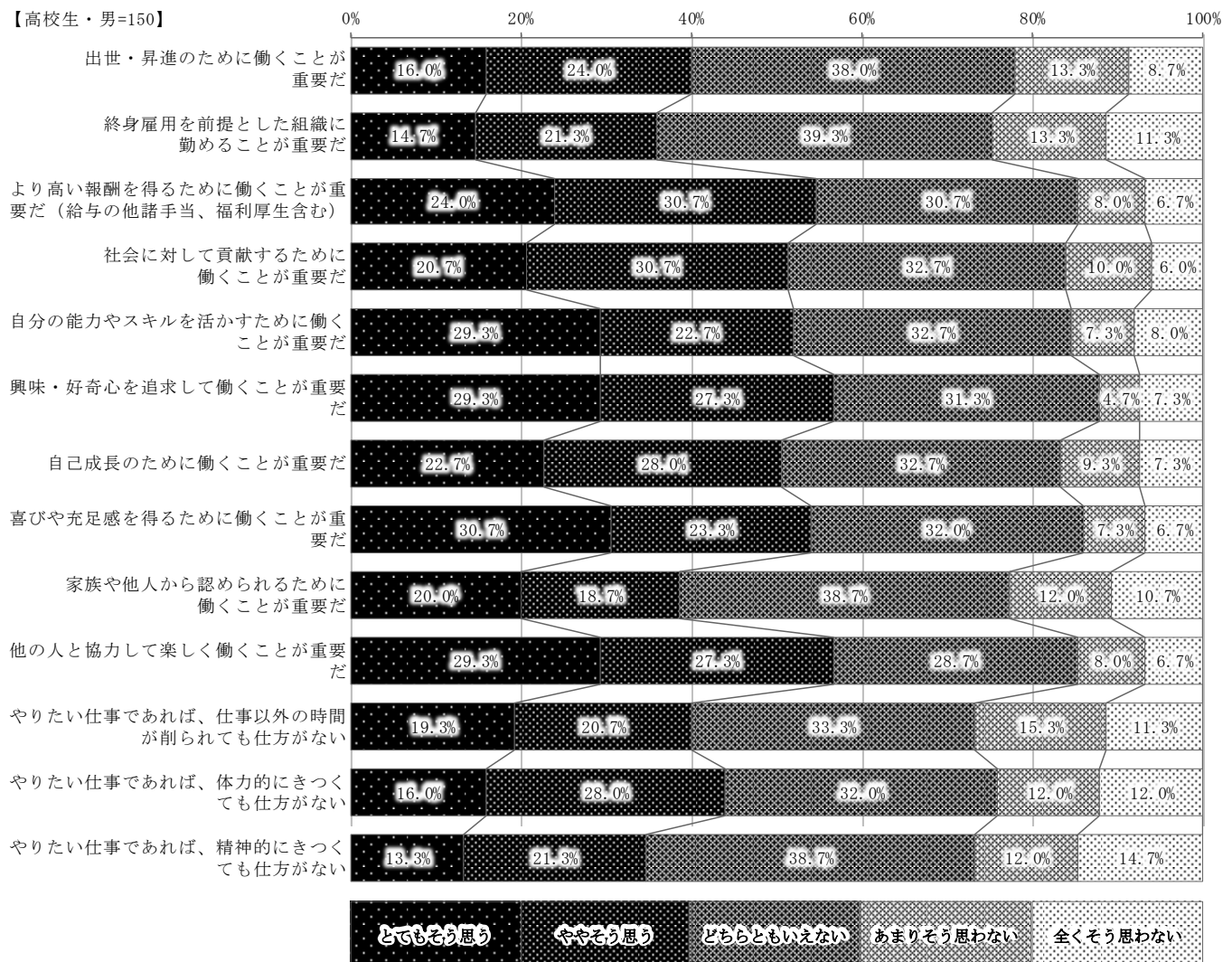
図表 3.1. 現在のキャリア意識（単一選択）



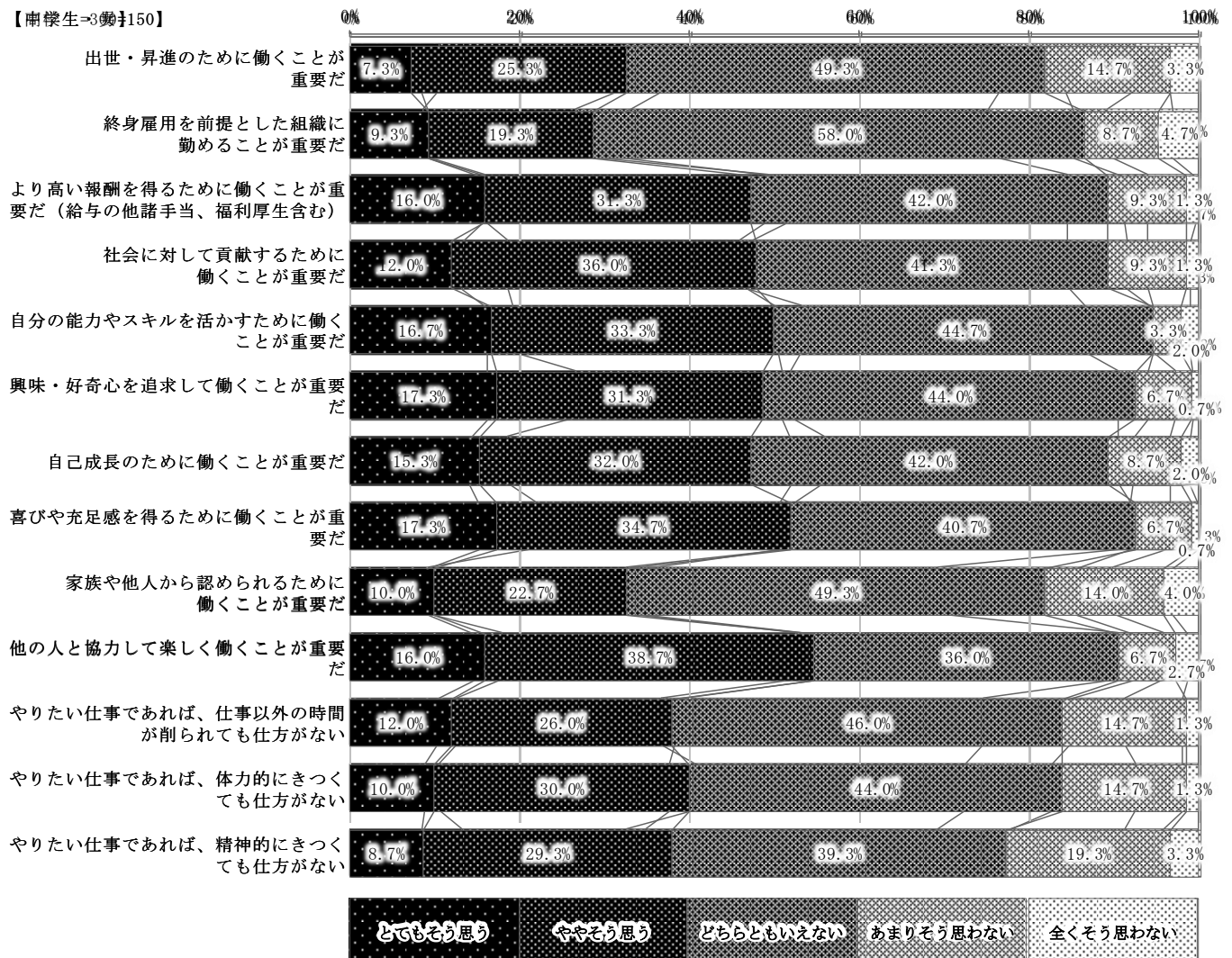
【表学生=3勤200】



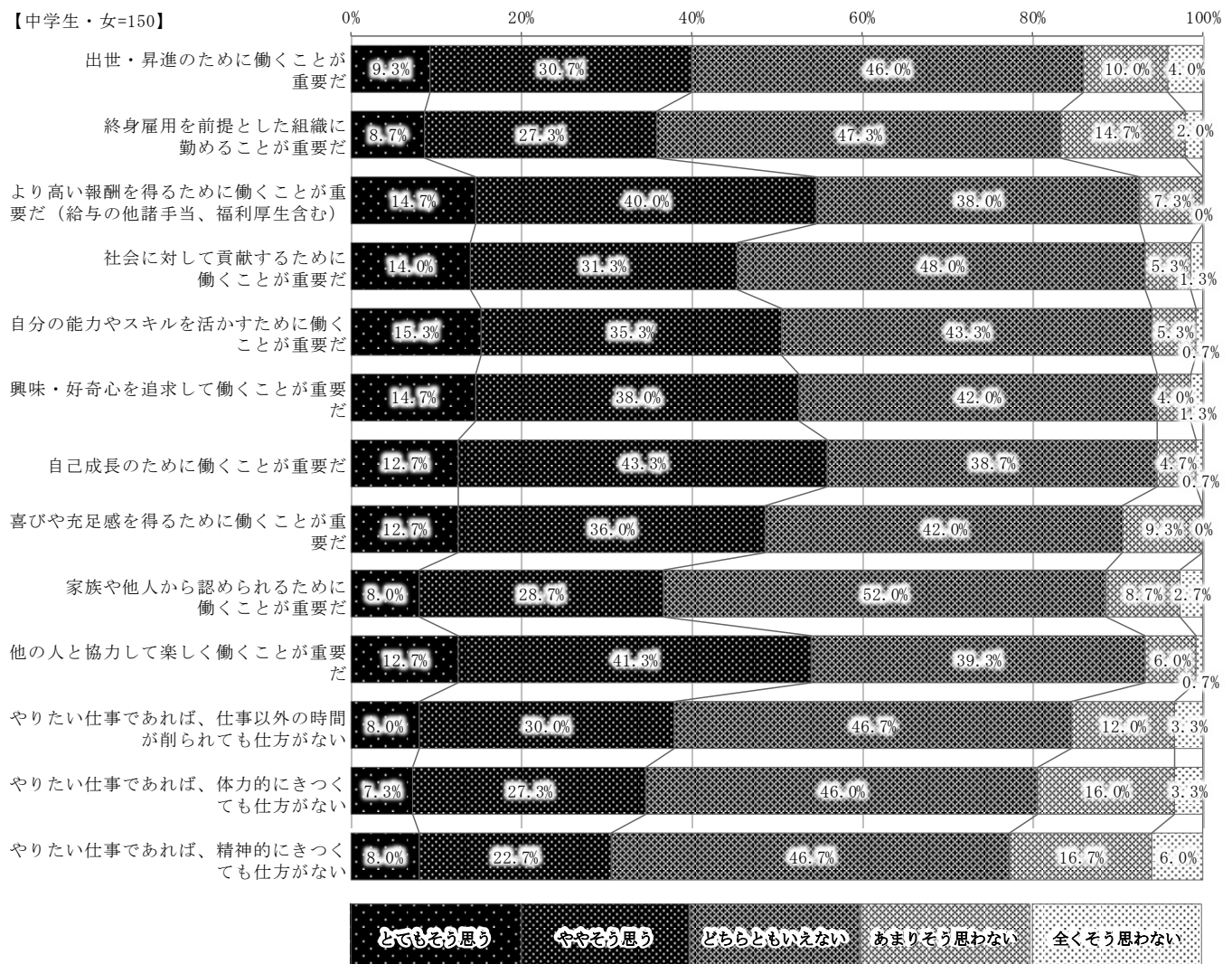
【高校生・男=150】



【南学生=3勤150】



【中学生・女=150】

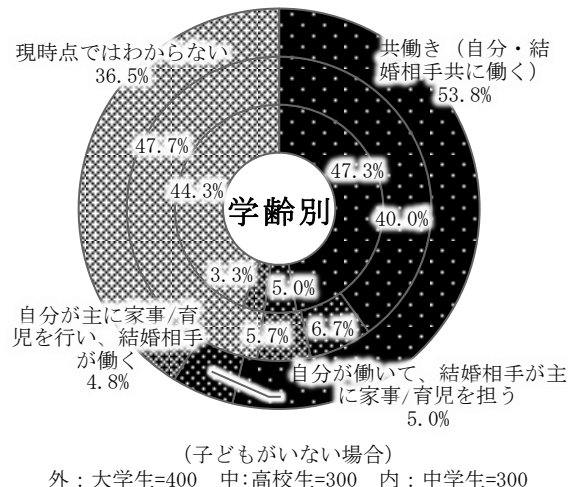
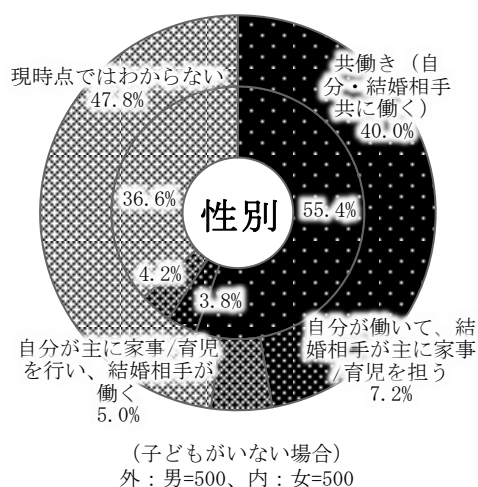
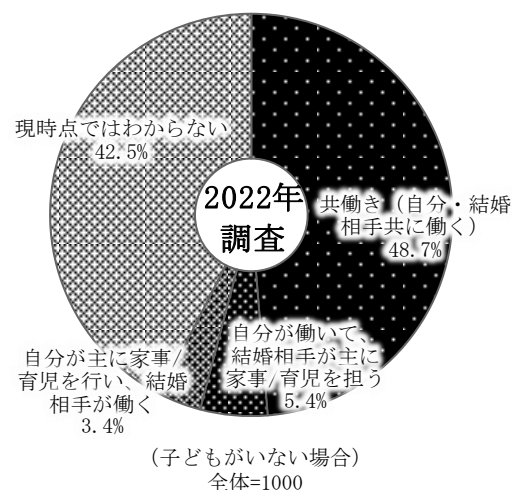
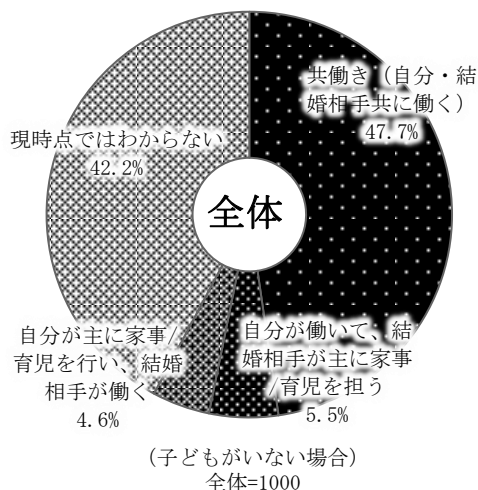


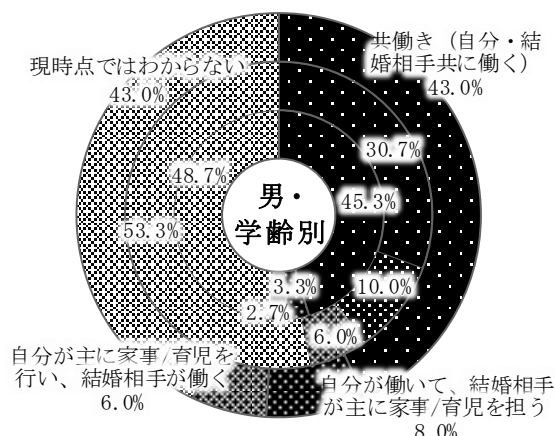
3.2. 結婚後に希望する働き方

3.2.1. 結婚後に希望する働き方_子どもがいない場合

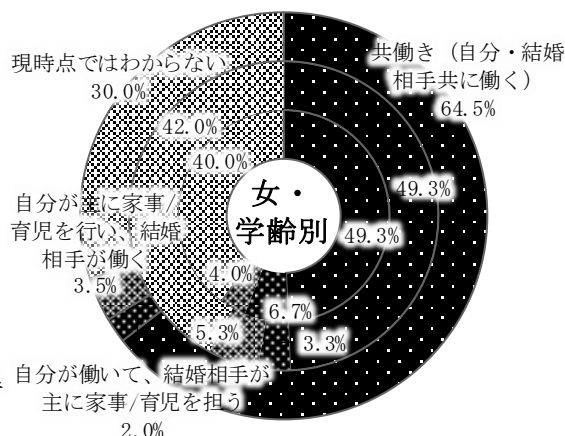
- 結婚後、子どもがいない場合に希望する働き方として、「共働き（自分・結婚相手共に働く）」（47.7%）を選んだ若者が最も多い。また、性別ごとでは男子（40.0%）より女子（55.4%）が「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を選んでいる比率が高く、女子の共働きへの意欲が高い状況がうかがえる。
- 学齢別では、大学生、高校生において「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を選んだ割合が約5割で、中学生では4割。学齢別・性別では、大学生女子が「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を希望する割合が6割以上と最も多く特徴的であった。
- 経済状態別では、「共働き（自分・結婚相手共に働く）」を選んだ割合は、豊かと回答した若者が56.0%と最も高く、苦しいと回答した若者（49.7%）、普通と回答した若者（42.3%）と続く。
- 海外経験の有無別では、いずれも「共働き」（自分・結婚相手共に働く）が最も多かったが、特に「海外経験あり」（57.6%）と回答した若者の方が、「海外経験なし」（46.6%）と回答した若者よりも多い結果となった。

図表 3.2.1. 結婚後に希望する働き方_子どもがいない場合（単一選択）

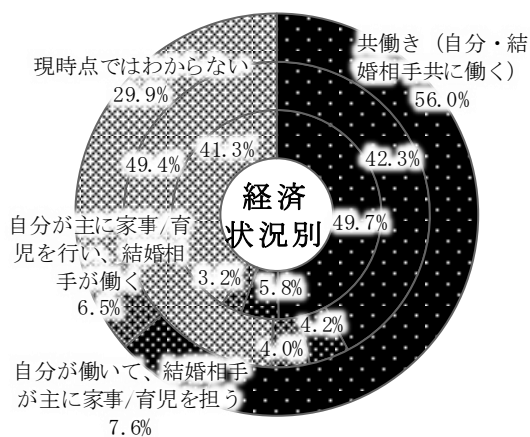




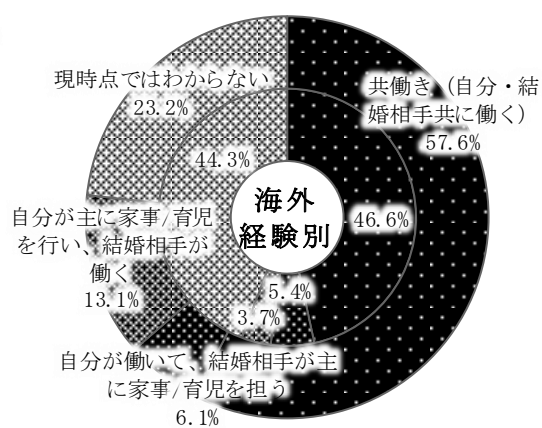
（子どもがいない場合）外：大学生・男=200、
中：高校生・男=150、内：中学生・男=150



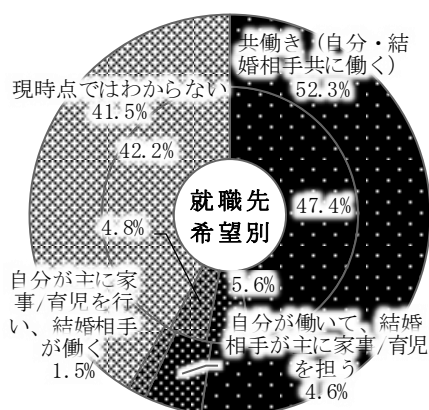
（子どもがいない場合）外：大学生・女=200、
中：高校生・女=150、内：中学生・女=150



（子どもがいない場合）外：豊かと回答=291、
中：普通と回答=520、内：苦しいと回答=189



（子どもがいない場合）
外：海外経験あり=99、内：海外経験なし=901

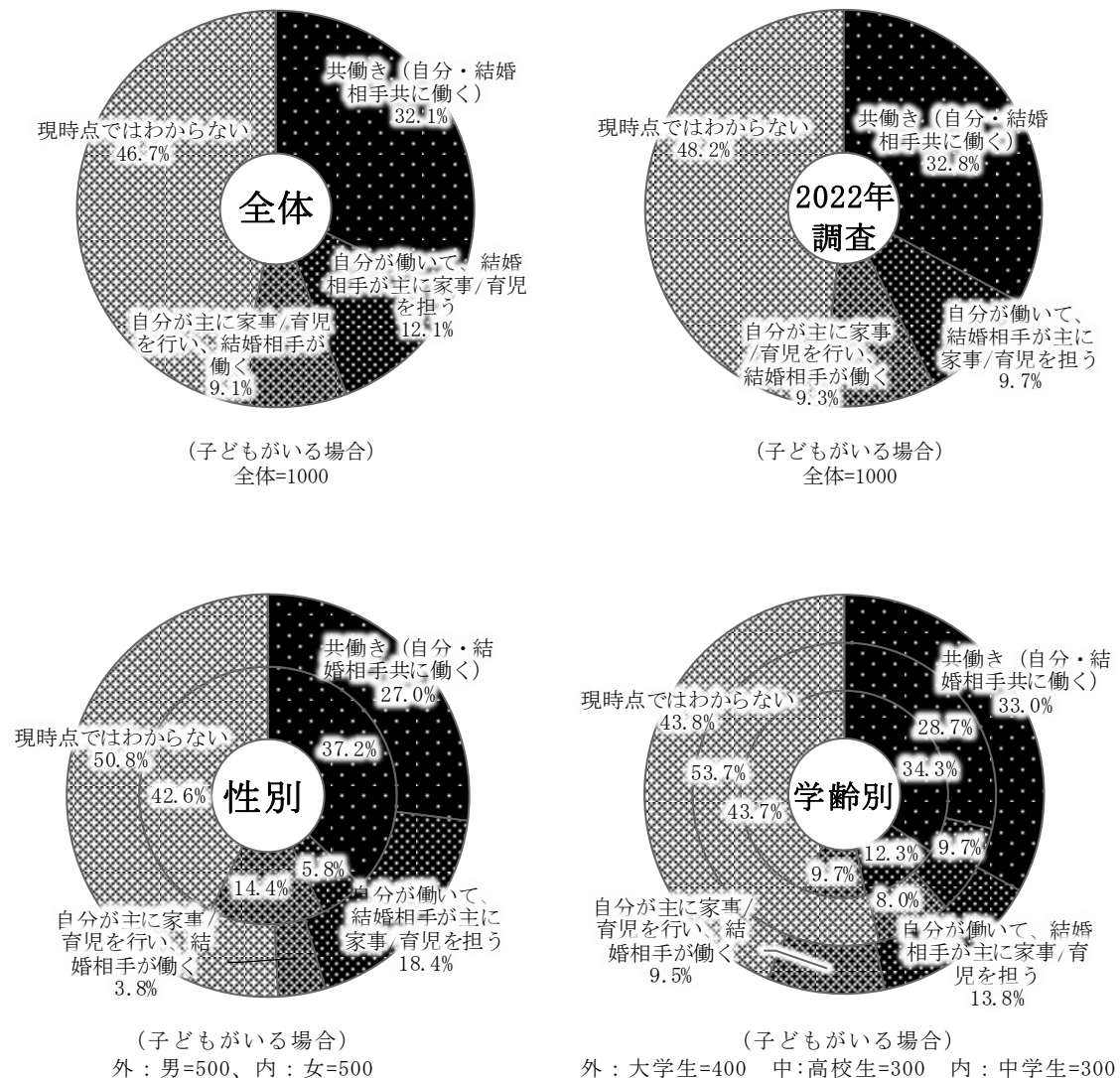


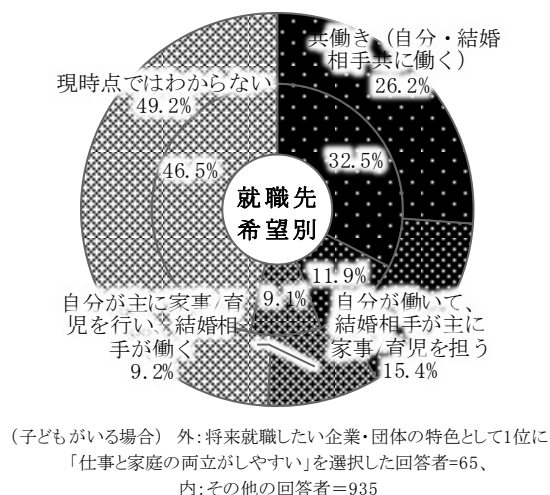
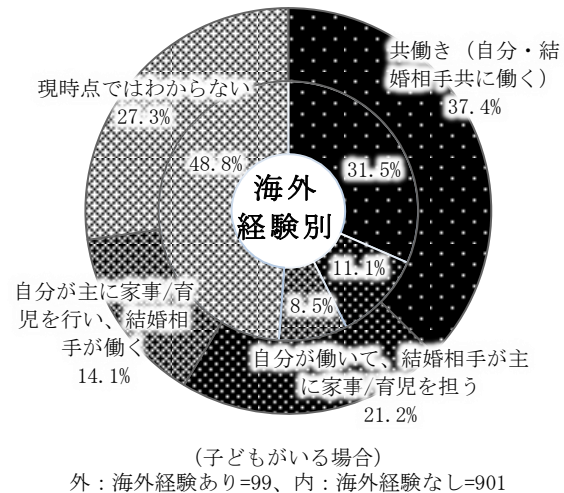
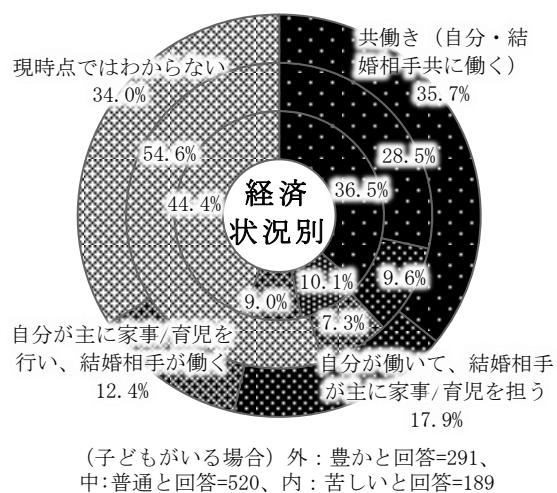
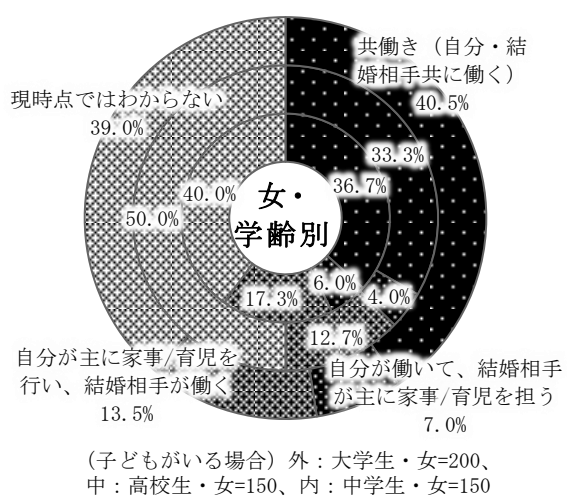
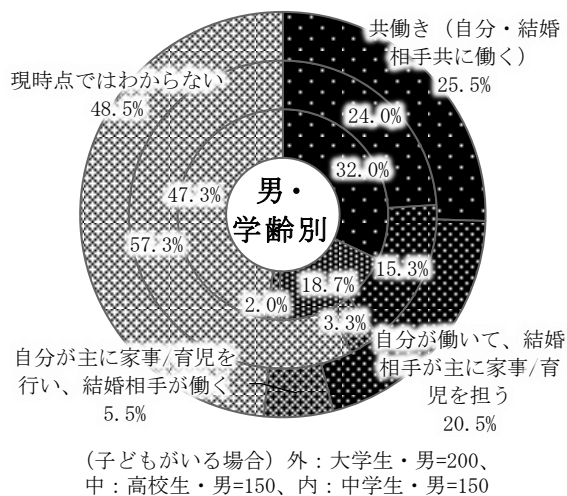
（子どもがいない場合）外：将来就職したい企業・団体の特色として1位に
「仕事と家庭の両立がしやすい」を選択した回答者=65、
内：その他の回答者=935

3.2.2. 結婚後に希望する働き方_子どもがいる場合

- 子どもがいる場合、結婚後に自分が希望する働き方として、「共働き（自分・結婚相手共に働く）」（32.1%）を選んだ若者が最も多いものの、子どもがいない場合と比べて割合は低い。
- 海外経験の有無別では、海外経験ありの若者は、海外経験なしの若者に比べて「自分が働いて、結婚相手が主に家事/育児を担う」（海外経験あり（21.2%）、海外経験なし（11.1%））が多く、「現時点ではわからない」（海外経験あり（27.3%）、海外経験なし（48.8%））が少ない。

図表 3.2.2. 結婚後に希望する働き方_子どもがいる場合（単一選択）

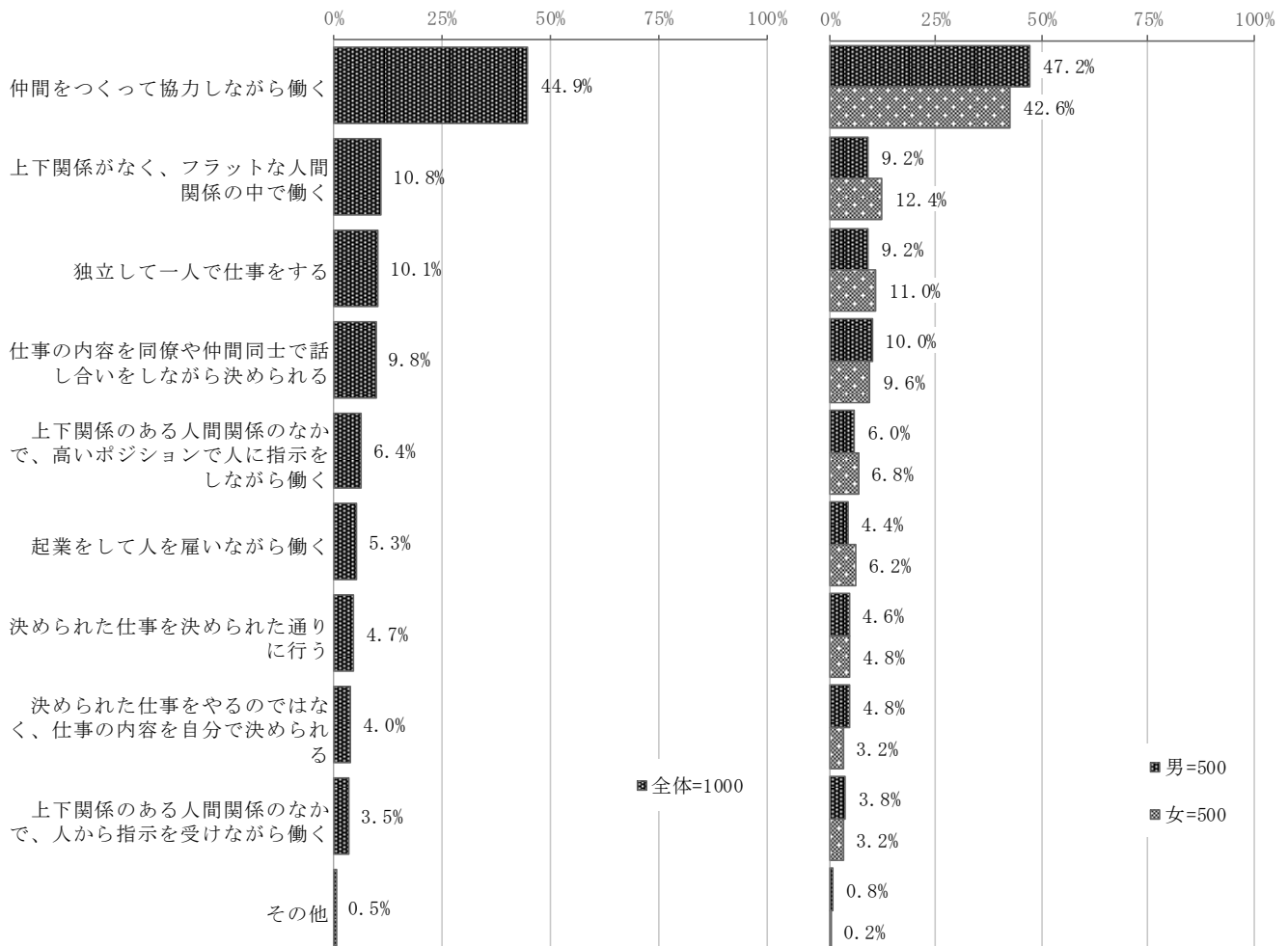


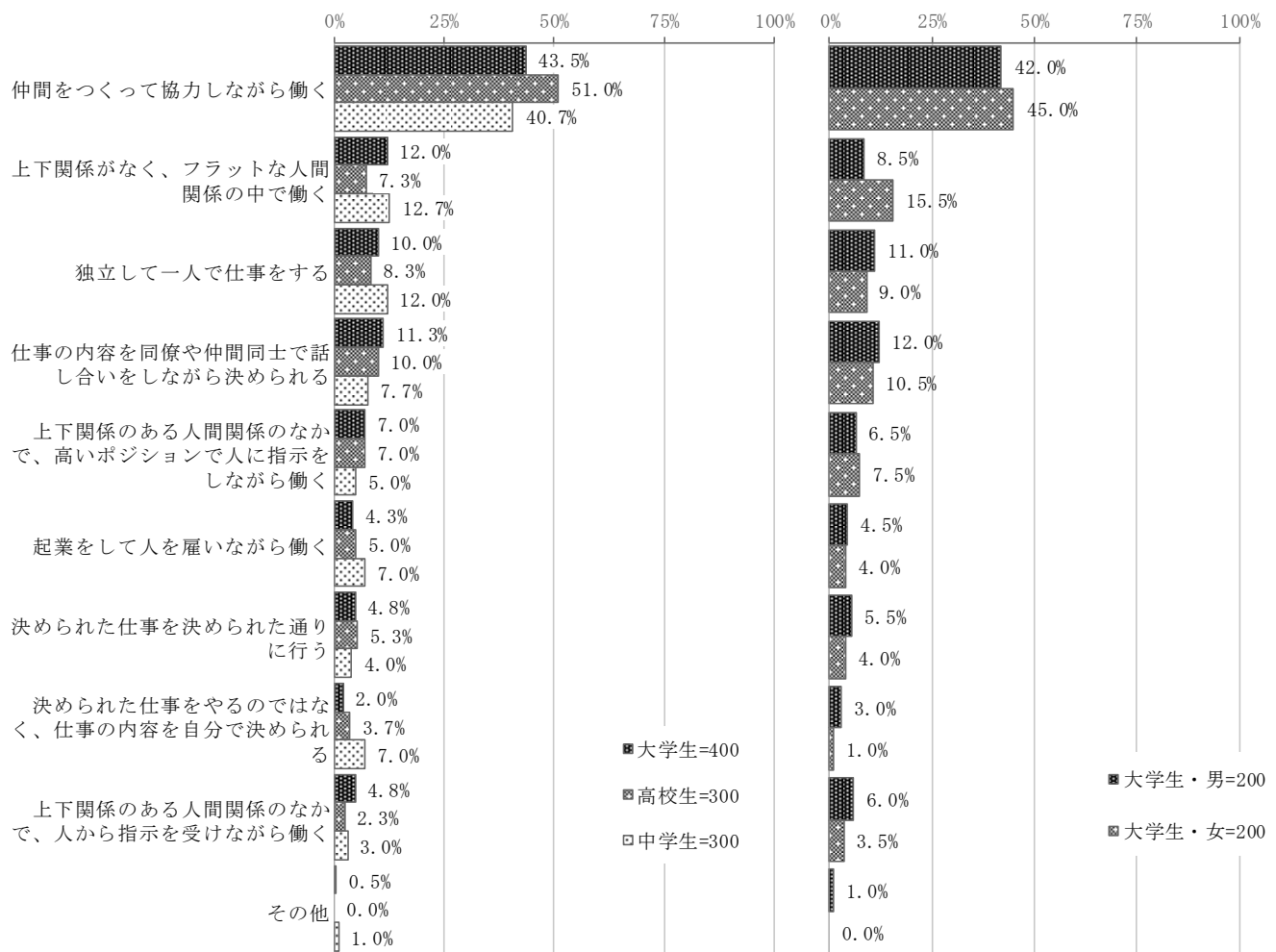


3.3. 将来の働き方

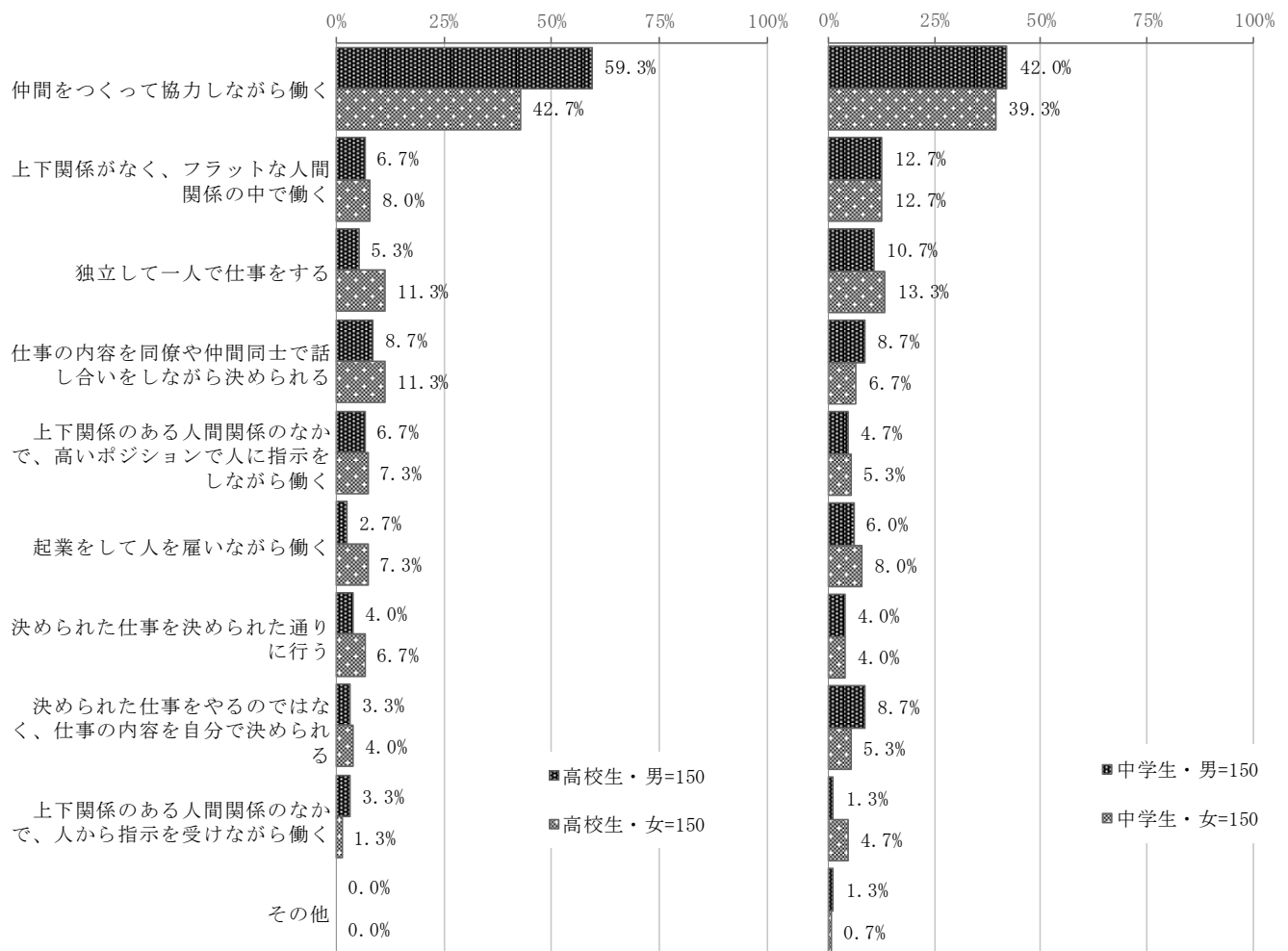
- 将来の働き方については「仲間をつくって協力しながら働く」（44.9％）と回答した若者が最も多い。
- 海外経験別でみると、海外経験ありの若者の方が「独立して一人で仕事をする」（海外経験あり：18.2％、海外経験なし：9.2％）、「上下関係のある人間関係のなかで、高いポジションで人に指示をしながら働く」（海外経験あり：12.1％、海外経験なし：5.8％）の回答の割合が高い。

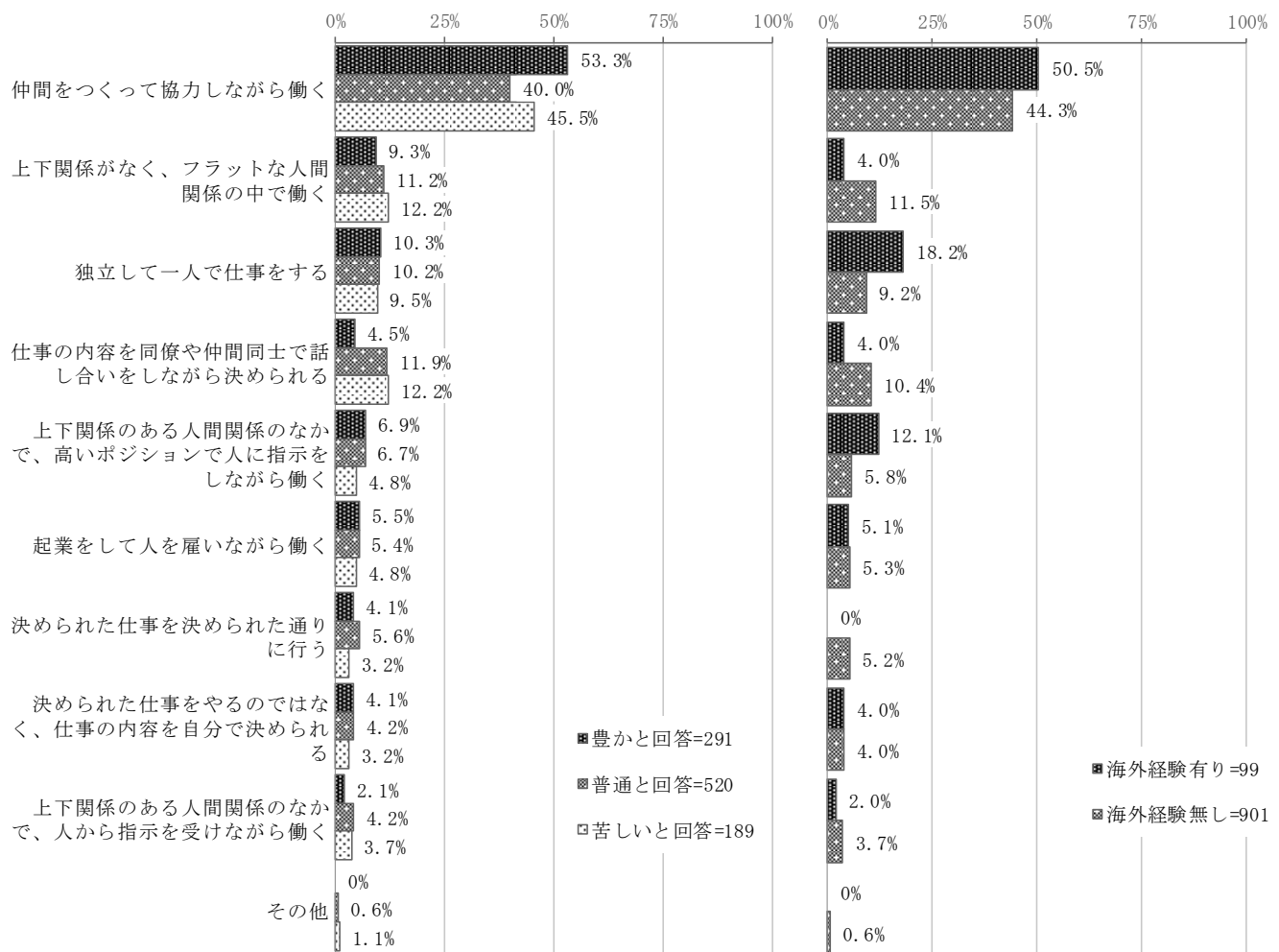
図表 3.3. 将来の働き方（1位）





■ 大学生・男=200
 ■ 大学生・女=200

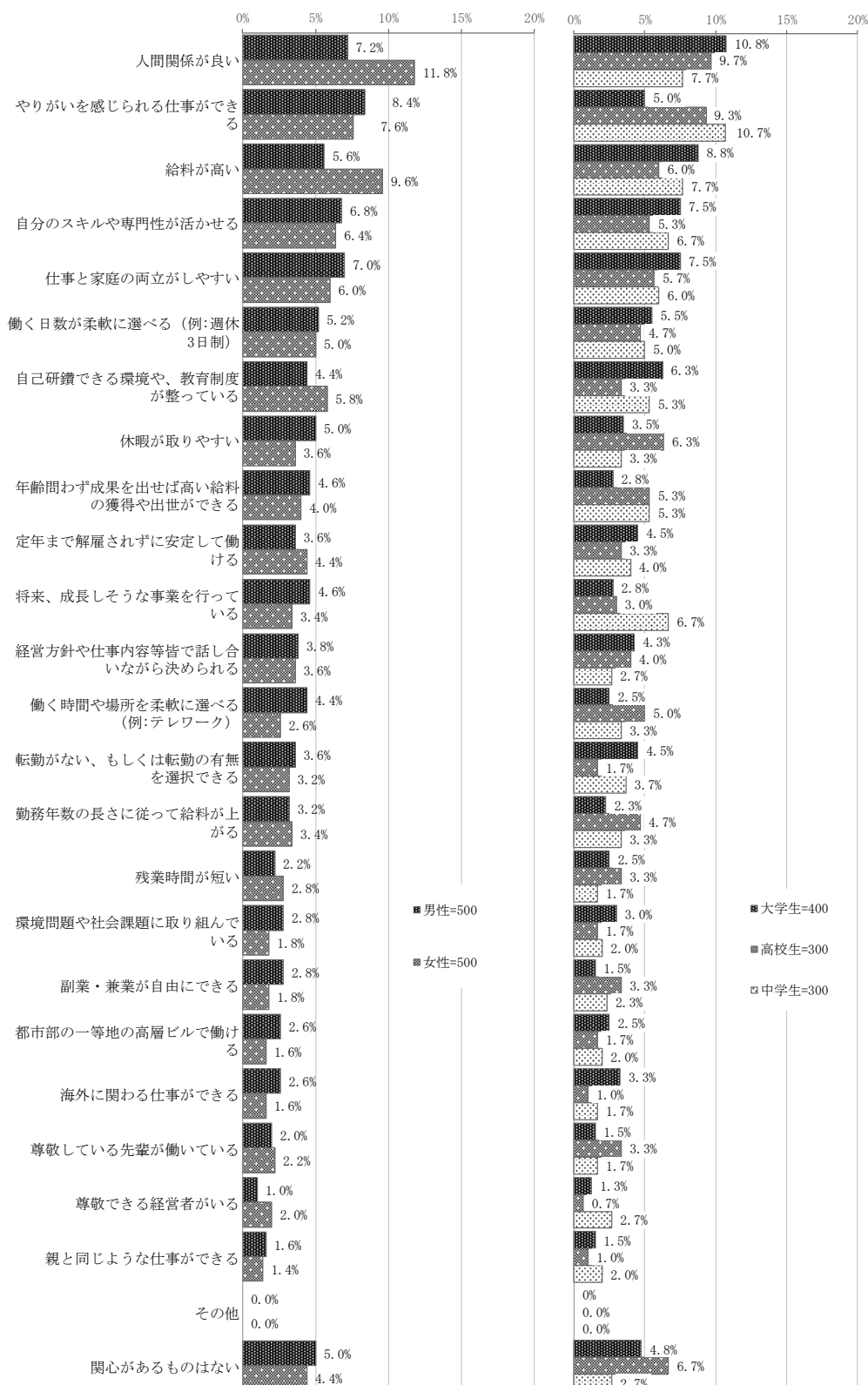


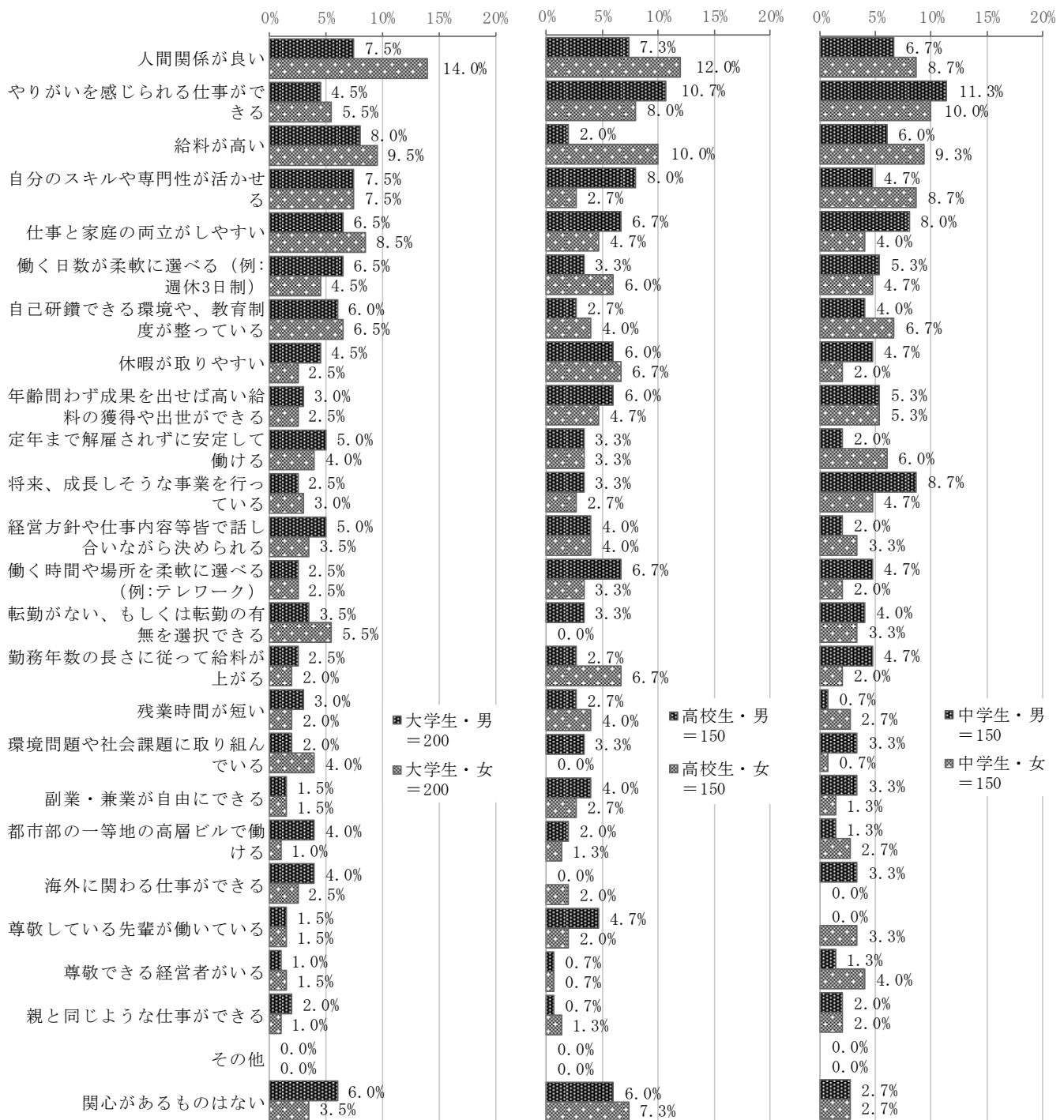


3. 4. 就職したい企業や団体の条件

- 性別では、女子は「人間関係が良い」を最も重視する一方、男子は「やりがいを感じられる仕事ができる」を最も重視しており、就職したい企業や団体の条件は男女で若干の差異がみられる。
- 就職したい企業や団体の条件として、中学生と高校生は「やりがいを感じられる仕事ができる」、大学生は「人間関係が良い」を多く挙げている。学齢があがるほど重視する条件がやりがいを感じられることから、人間関係の良さに変化している。

図表 3. 4. 就職したい企業や団体の条件（1 位）

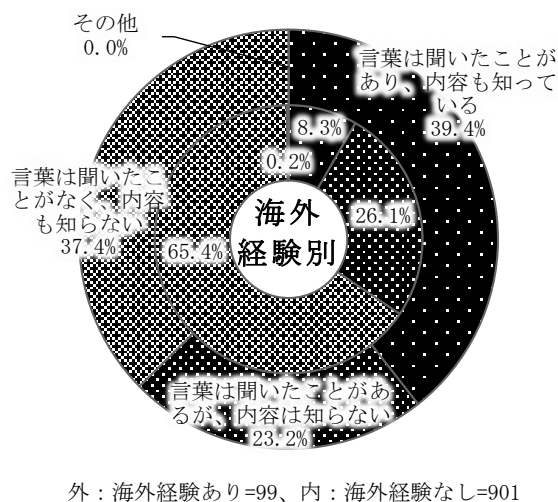
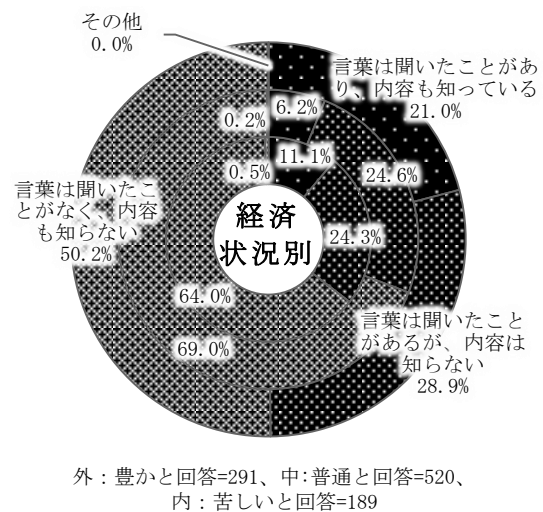
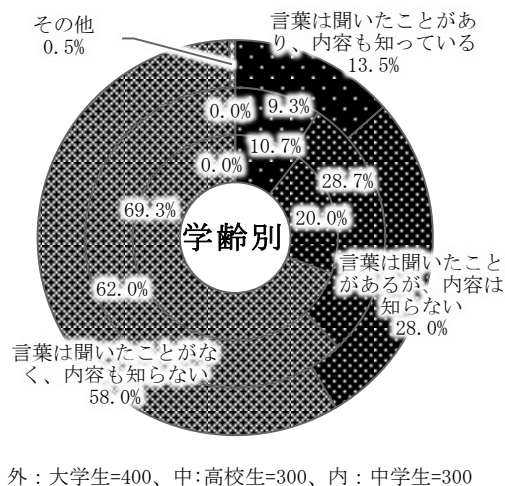
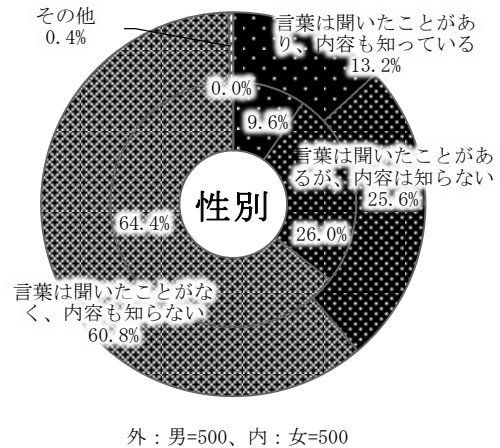
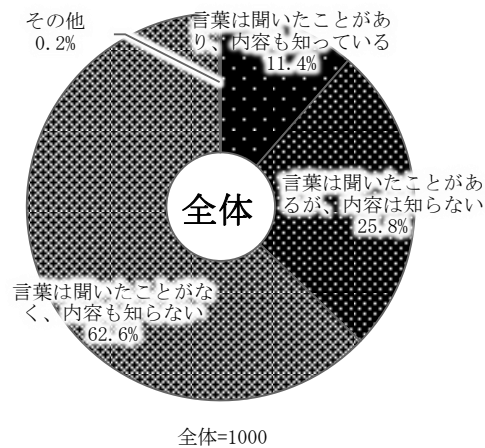




3.5. 協同労働の認知

- 「言葉は聞いたことがあり、内容も知っている」と答えた若者は全体のうち 11.4%だが、海外経験有無別でみると、海外経験のある若者は 39.4%と比較的高い割合で、協同労働を認知している。
- 経済状況別でみると、「豊か」と答えた若者のうち、「(内容を知っているかどうかは問わず) 言葉は聞いたことがある」と答えた若者は 49.9%と約半数を占めている。

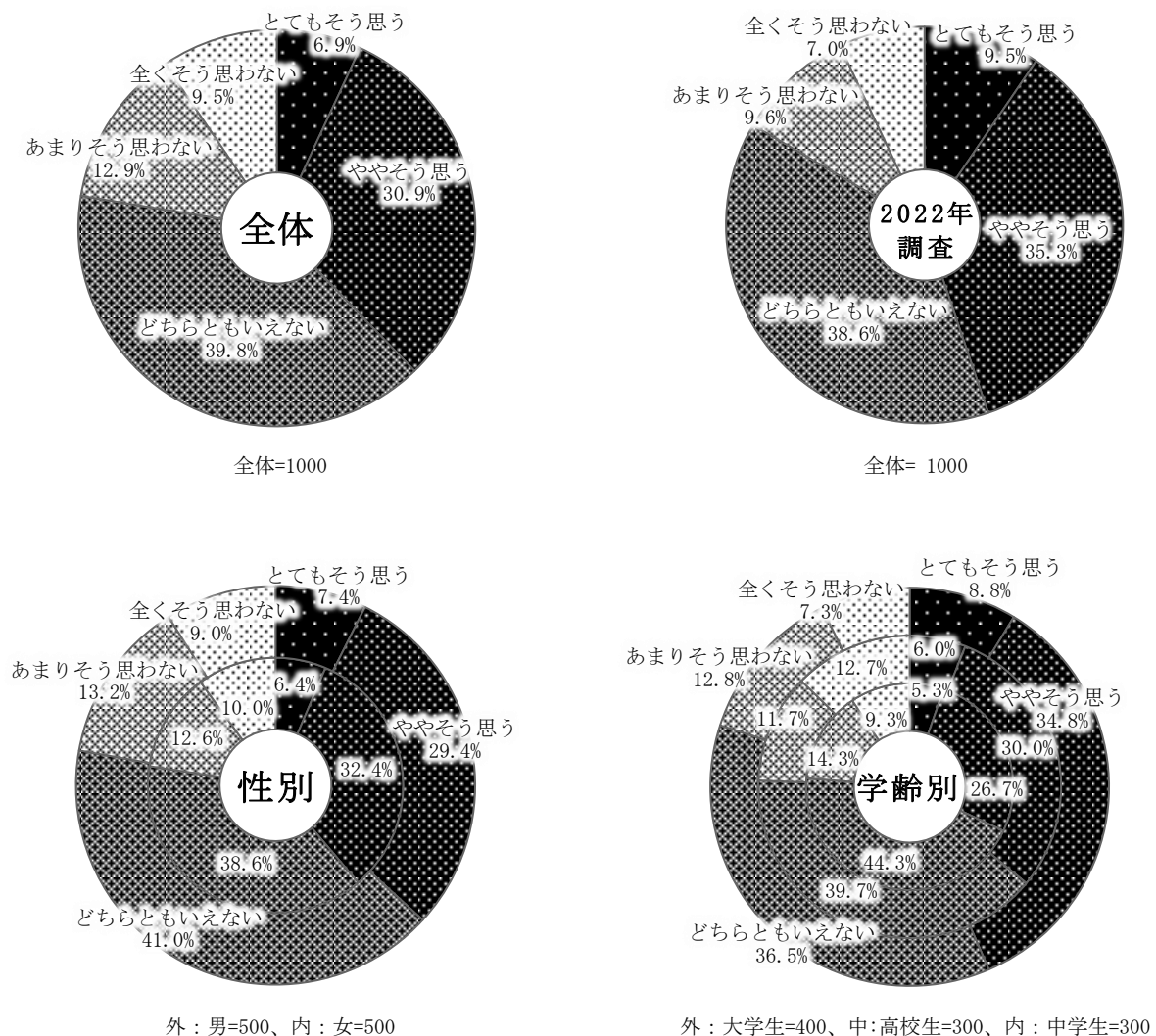
図表 3.5. 協同労働の認知（単一選択）

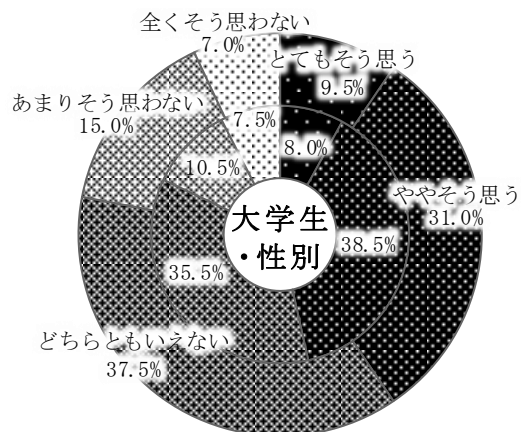


3. 6. 環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲

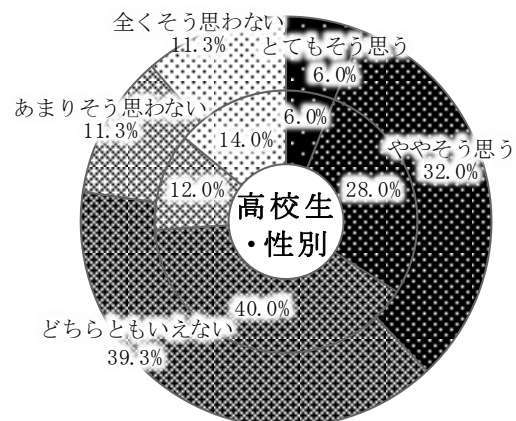
- 将来、環境問題や社会課題の解決に取り組んでいる企業や団体で働きたいか尋ねたところ、環境問題や社会課題に取り組んでいる企業で働く意欲（「とてもそう思う」「ややそう思う」）がある若者は、全体では37.8%と前回調査(44.8%)からやや低くなっている。
- 性別ごとでは、男子が36.8%、女子が38.8%と、大きな差異はみられない。
- 一方で、学齢別では、大学生(43.6%)は、高校生(36.0%)や中学生(32.0%)に比べて、環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲が高い。
- 経済状態別では、普通(32.7%)・苦しい(38.1%)と回答した若者が3割台であるのに対して、豊かと回答した若者が46.8%と、経済状態により環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲は異なるように見受けられる。
- 海外経験別では、海外経験がある若者(63.6%)が、海外経験がない若者(34.9%)を大きく上回っており、海外で教育を受けた経験の有無により、環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲は異なる。

図表 3. 6. 環境問題や社会課題に取り組む企業で働く意欲（単一選択）

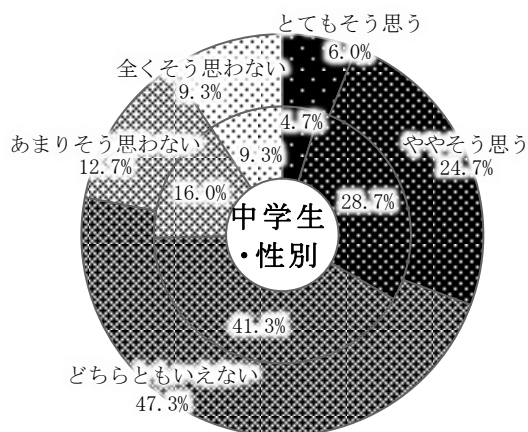




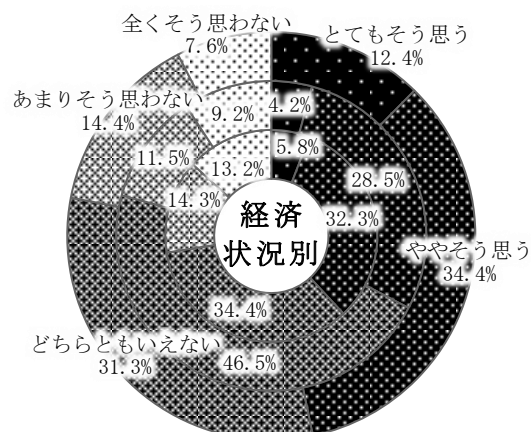
外：大学生・男=200、内：大学生・女=200



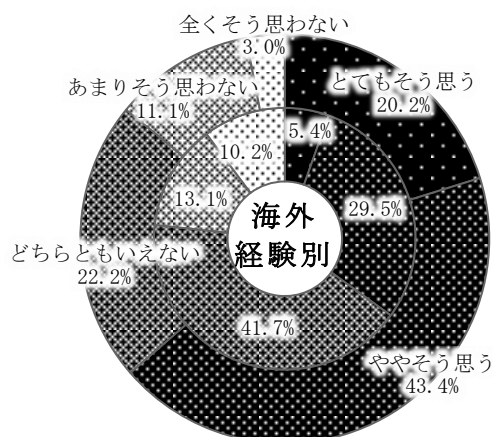
外：高校生・男=150、内：高校生・女=150



外：中学生・男=150、内：中学生・女=150



外：豊かと回答=291、中：普通と回答=520、内：苦しいと回答=189



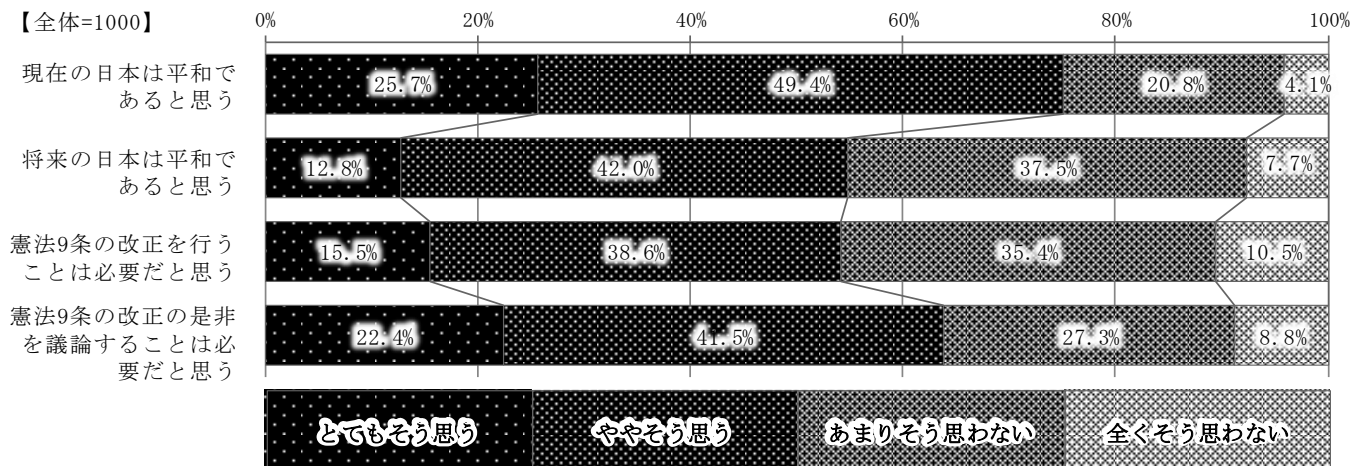
外：海外経験あり=99、内：海外経験なし=901

4. 平和について

4.1. 平和に対する意識

- 「現在の日本は平和である」と思う若者（「とてもそう思う」「ややそう思う」）は全体の75.1%だが、「将来の日本は平和である」と思う若者は54.8%である。約半数の若者は、将来、日本が平和ではない可能性を感じている。
- 憲法9条の改正を必要だと思う若者（「とてもそう思う」「ややそう思う」）は全体の54.1%だが、改正の是非を議論することが必要だと思う若者（「とてもそう思う」「ややそう思う」）は63.9%と多くなっている。

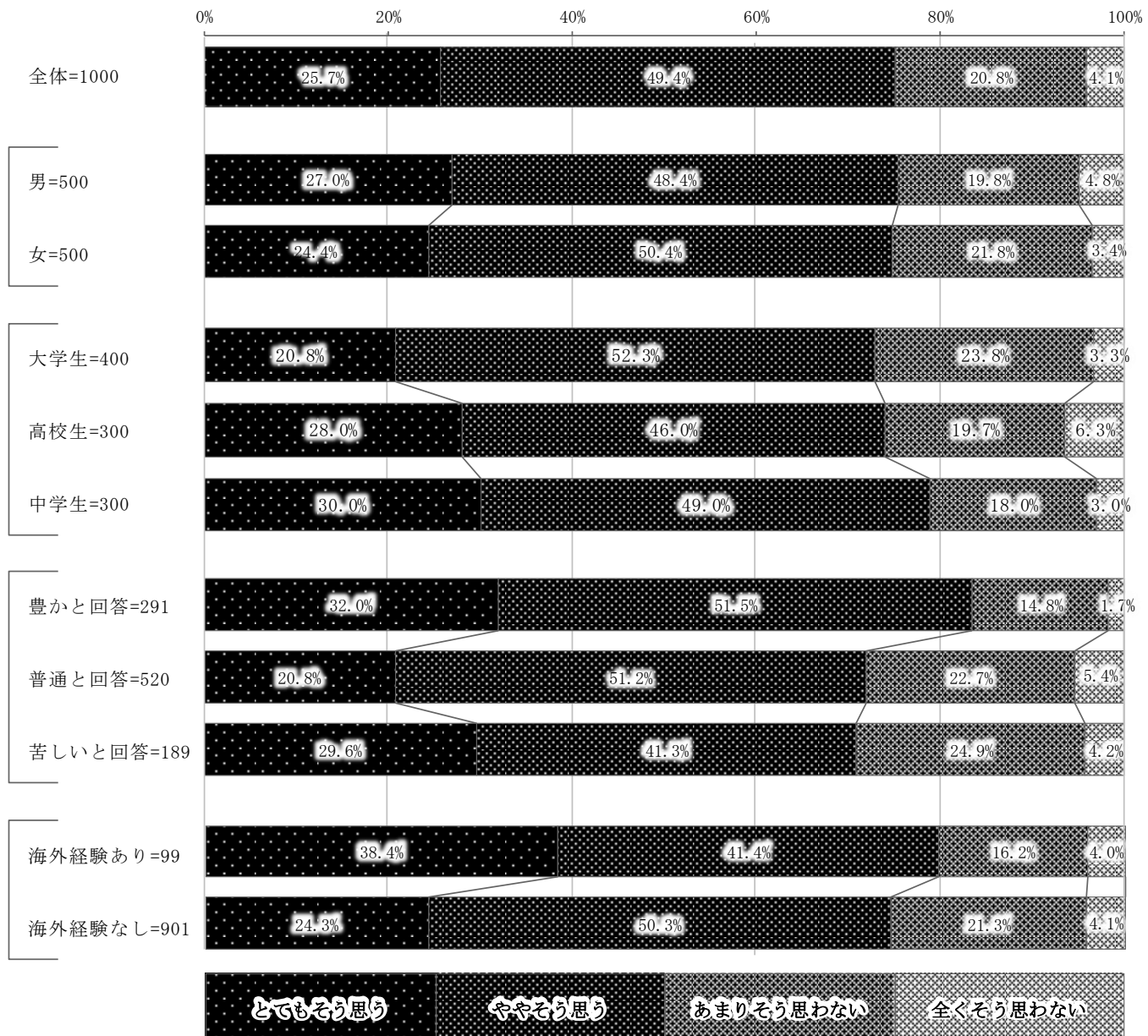
図表 4.1. 平和に対する意識（単一選択）



4.1.1. 現在の日本の平和に対する意識

- 現在の日本は平和であると思うか尋ねたところ、男女差はさほど大きくないが、年齢が上がるにつれて、「現在の日本は平和である」と考える割合が減少傾向にある。
- 経済状況別でみると、豊かと回答した若者（83.5%）は、普通（72.0%）、苦しい（70.9%）と回答した若者と比べて、現在の日本は平和だと思う若者が多い。

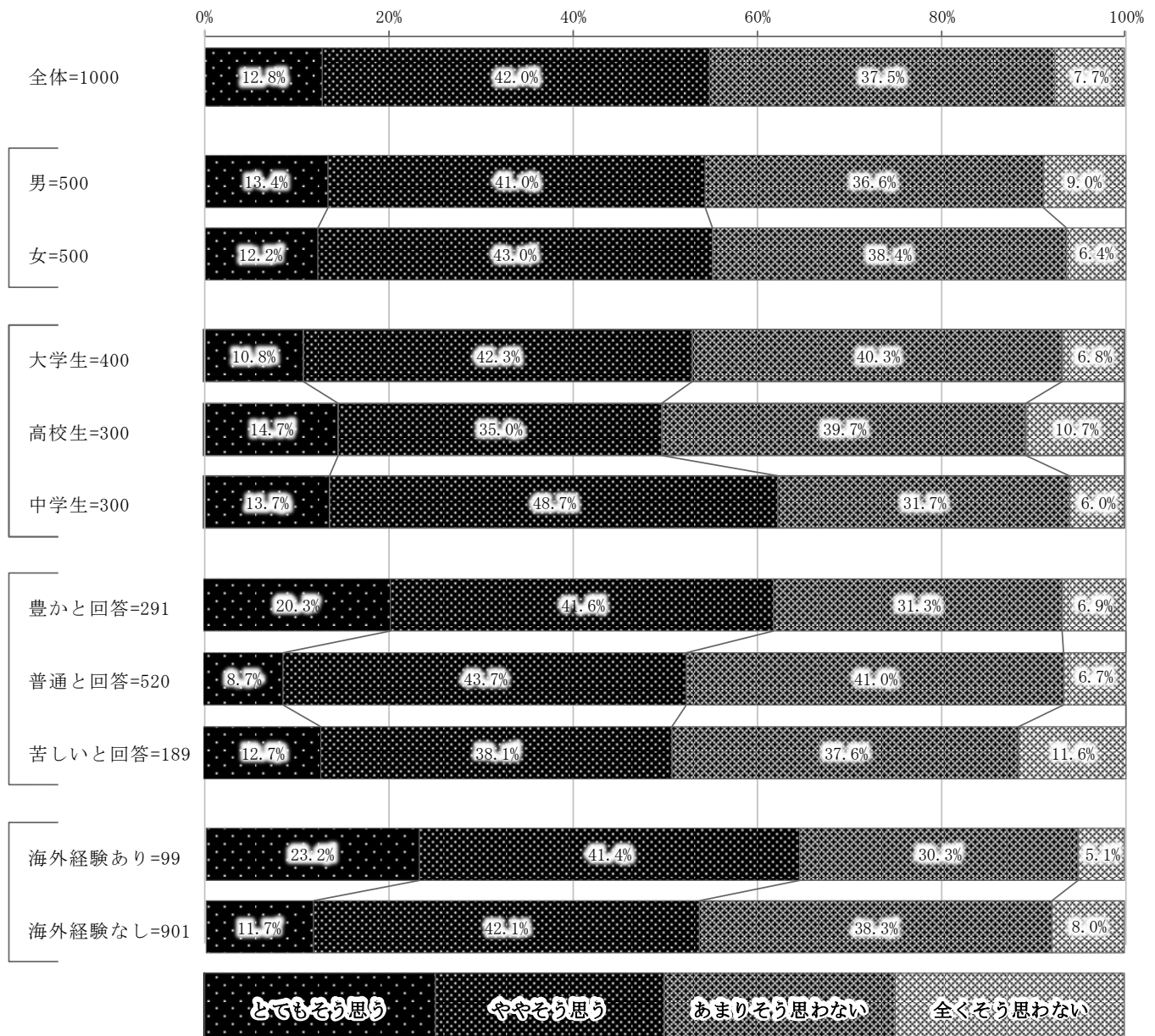
図表 4.1.1. 現在の日本の平和に対する意識（単一選択）



4.1.2. 将来の日本の平和に対する意識

- 将来の日本は平和であると思うか尋ねたところ、「将来の日本は平和である」と思う若者（「とてもそう思う」「ややそう思う」）は全体の 54.8%である。男女差はさほど大きくない。
- 経済状態別でみると豊かと回答した若者（61.9%）は、普通（52.4%）、苦しい（50.8%）と回答した若者と比べて、「将来の日本は平和である」と感じている若者が多い。
- 海外経験の有無別でみると海外経験ありと回答した若者（64.6%）は、海外経験なしと回答した若者（53.8%）と比べて、「将来の日本は平和である」と感じている若者が多い。

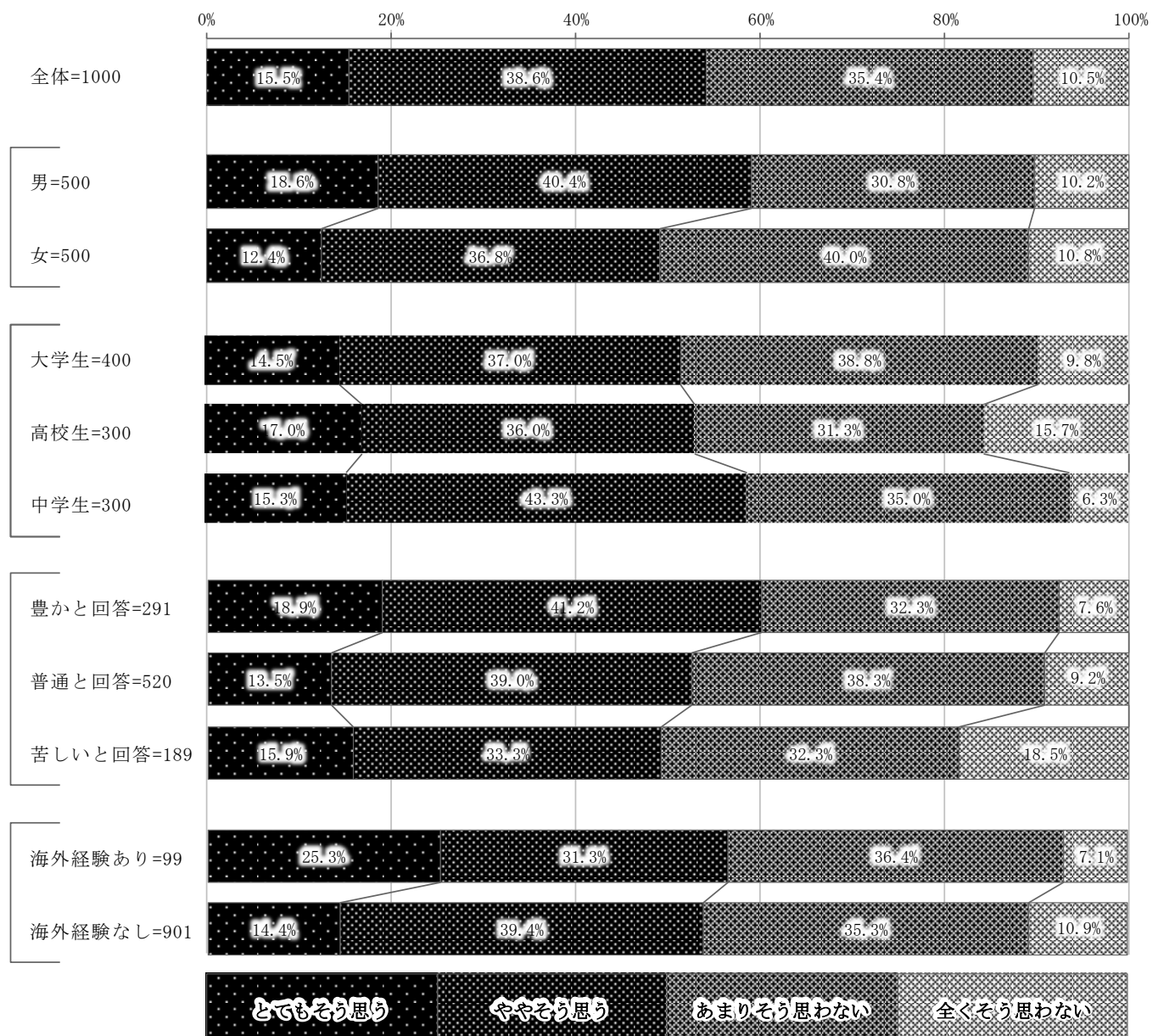
図表 4.1.2. 将来の日本の平和に対する意識（単一選択）



4.1.3. 憲法9条の改正に対する考え

- 憲法9条の改正を行うことは必要だと思うか尋ねたところ、必要だと思う若者（「とてもそう思う」「ややそう思う」）が全体の54.1%で、必要だと思わない若者（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」）の45.9%よりもやや多くなっている。
- 性別でみると男子（59.0%）の方が女子（49.2%）に比べて憲法9条の改正が必要だと思う若者が多い。
- 経済状態別でみると豊かと回答した若者（60.1%）は、普通（52.5%）、苦しい（49.2%）と回答した若者と比べて、憲法9条の改正が必要だと思う若者が多い。
- 海外経験の有無別でみると海外経験ありと回答した若者（56.6%）は、海外経験なしと回答した若者（53.8%）と比べて、憲法9条の改正が必要だと思う若者の割合に大きな差はみられない。

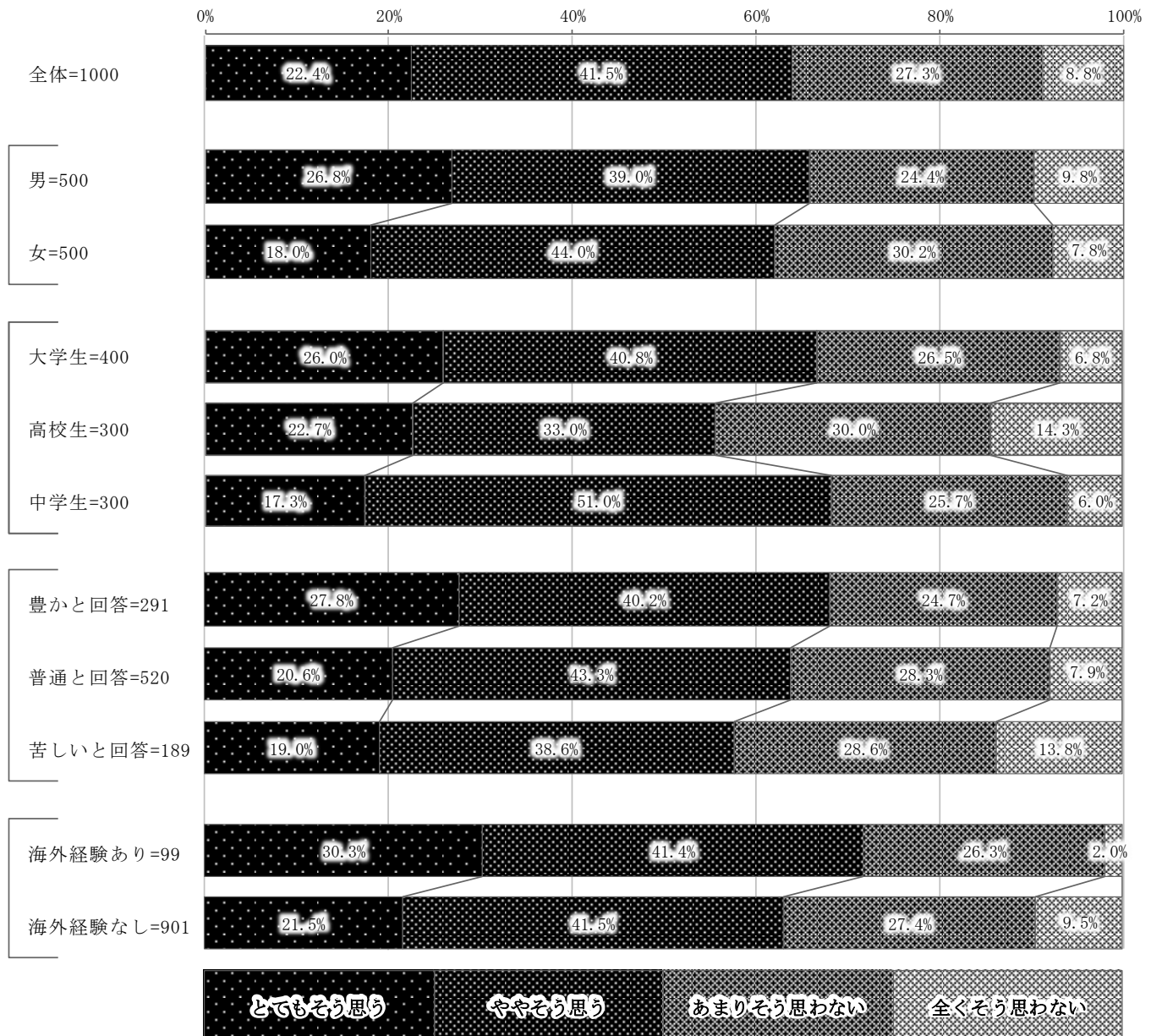
図表 4.1.3. 憲法9条の改正に対する考え（単一選択）



4.1.4. 憲法9条改正の議論の是非に対する考え

- 憲法9条の改正の是非を議論することは必要だと思うか尋ねたところ、必要だと思う若者（「とてもそう思う」「ややそう思う」）は全体の63.9%に上る。
- 経済状態別でみると豊かと回答した若者（68.0%）は、普通（63.9%）、苦しい（57.6%）と回答した若者と比べて「憲法9条の改正の是非を議論することが必要だ」と思う若者が多い。

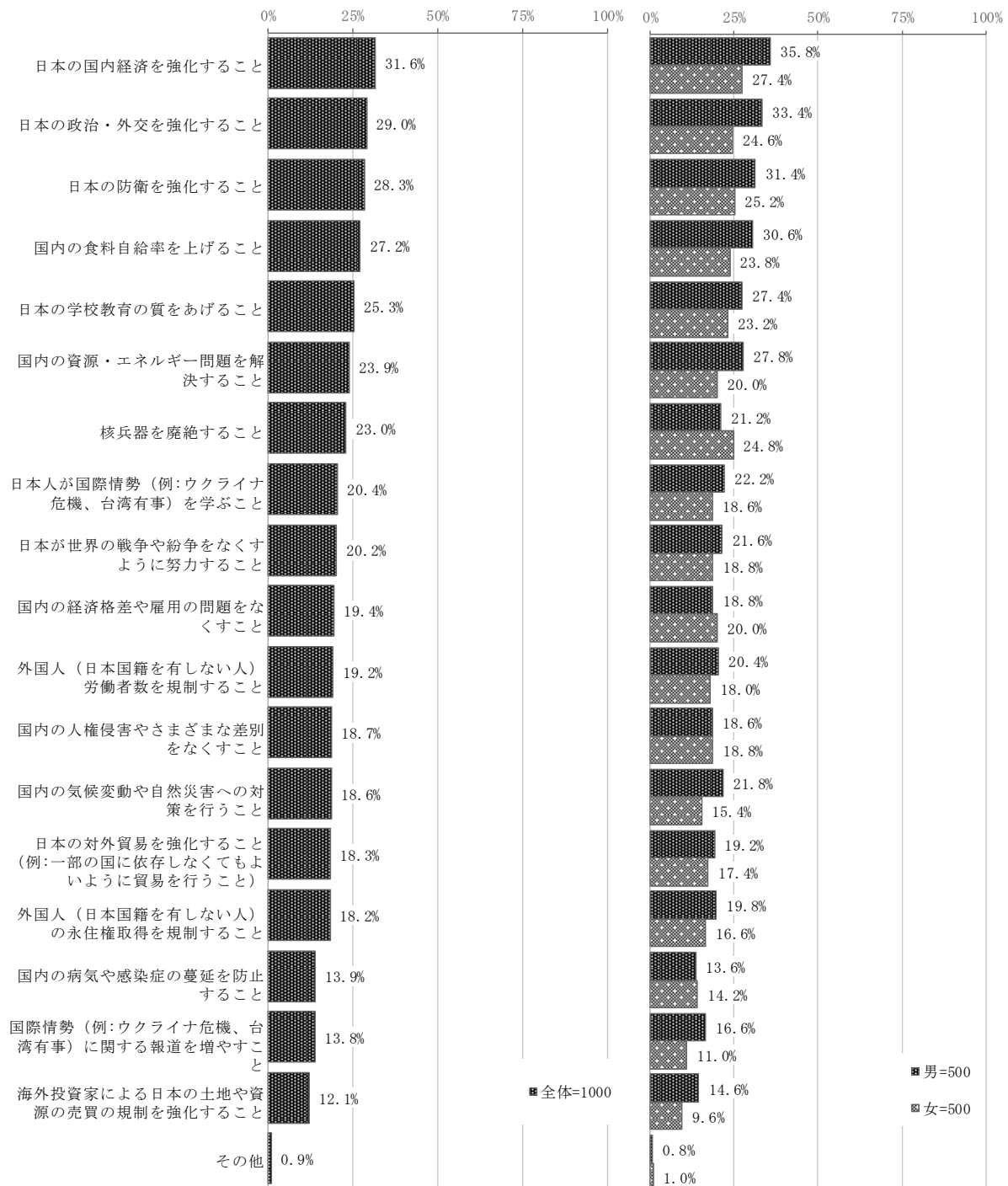
図表 4.1.4. 憲法9条改正の議論の是非に対する考え（単一選択）



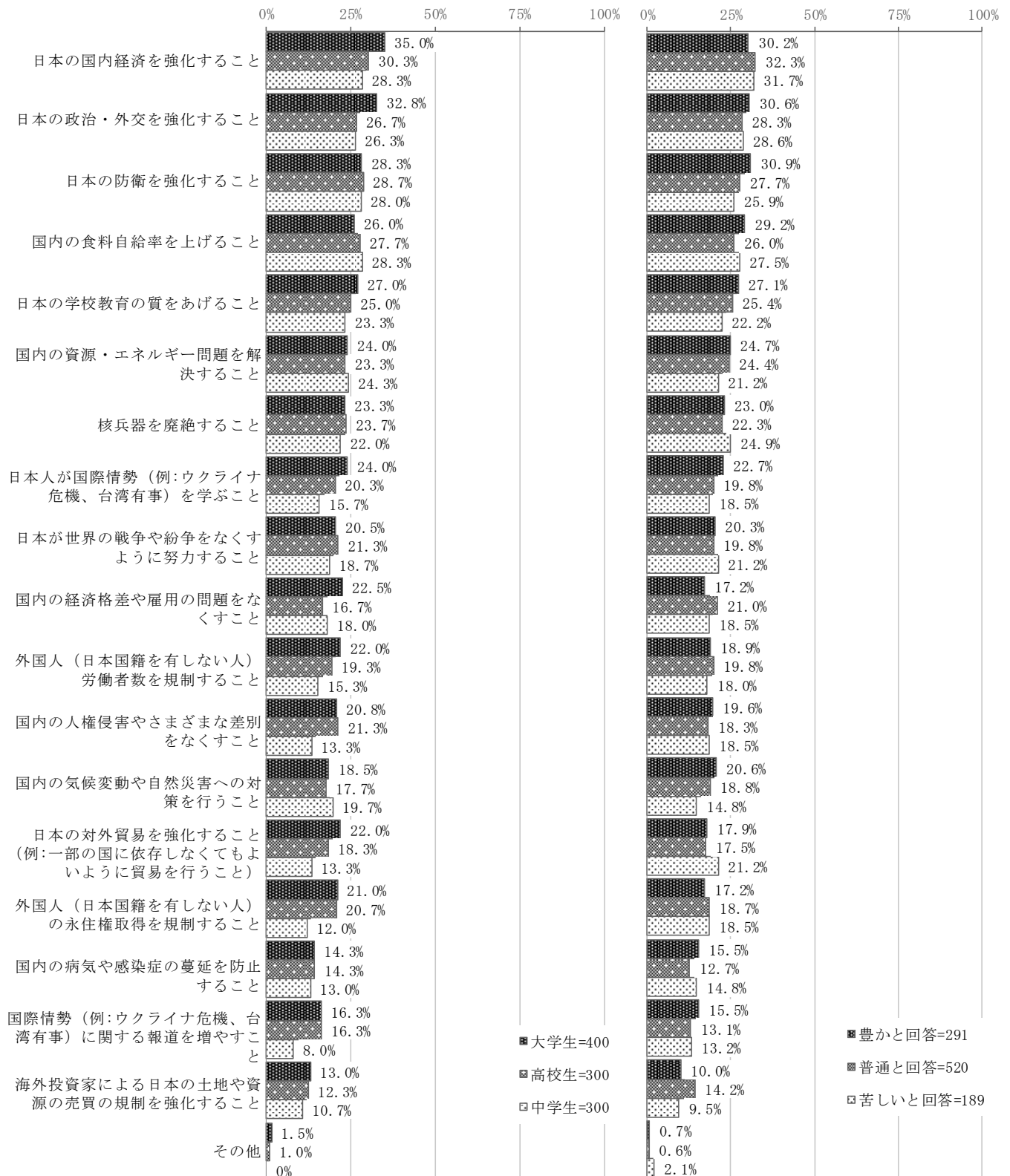
4.2. 日本の平和を守るために大事なこと

- 日本の平和を守るために大事なこととして、「日本の国内経済を強化すること」(31.6%)が最も多く、「日本の政治・外交を強化すること」(29.0%)、「日本の防衛を強化すること」(28.3%)、「国内の食料自給率を上げること」(27.2%)と続いている。
- 「日本人が国際情勢（例：ウクライナ危機、台湾有事）を学ぶこと」（海外経験あり 30.3%、海外経験なし 19.3%）については、海外経験の有無の差が大きく、海外経験のない若者に比べて、海外経験のある若者の回答率が高い。

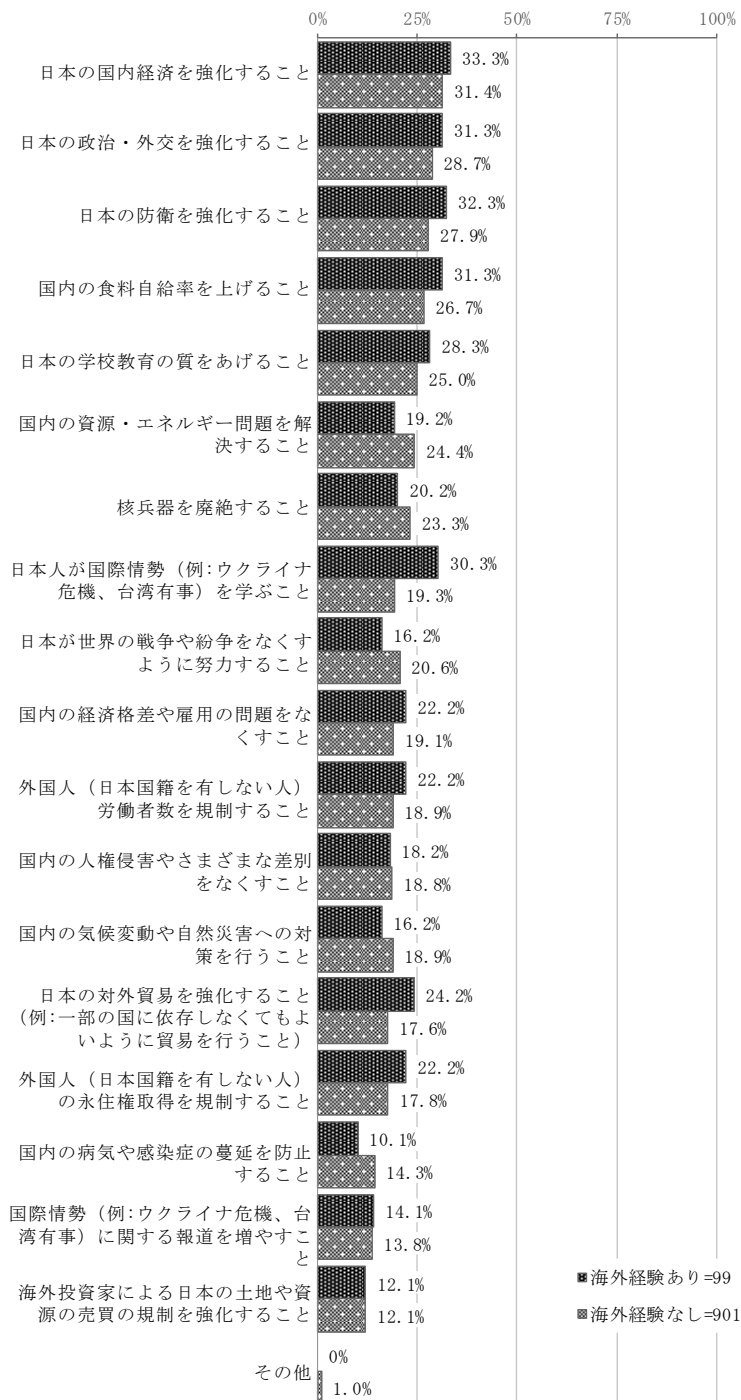
図表 4.2. 日本の平和を守るために大事なこと（複数選択）



注 「その他」には、「税金を減らすこと」「労働のための外国人の存在は日本に不要だと思う」「アサーティブを強制」「消費者教育を強化すること」「わからない」があった。

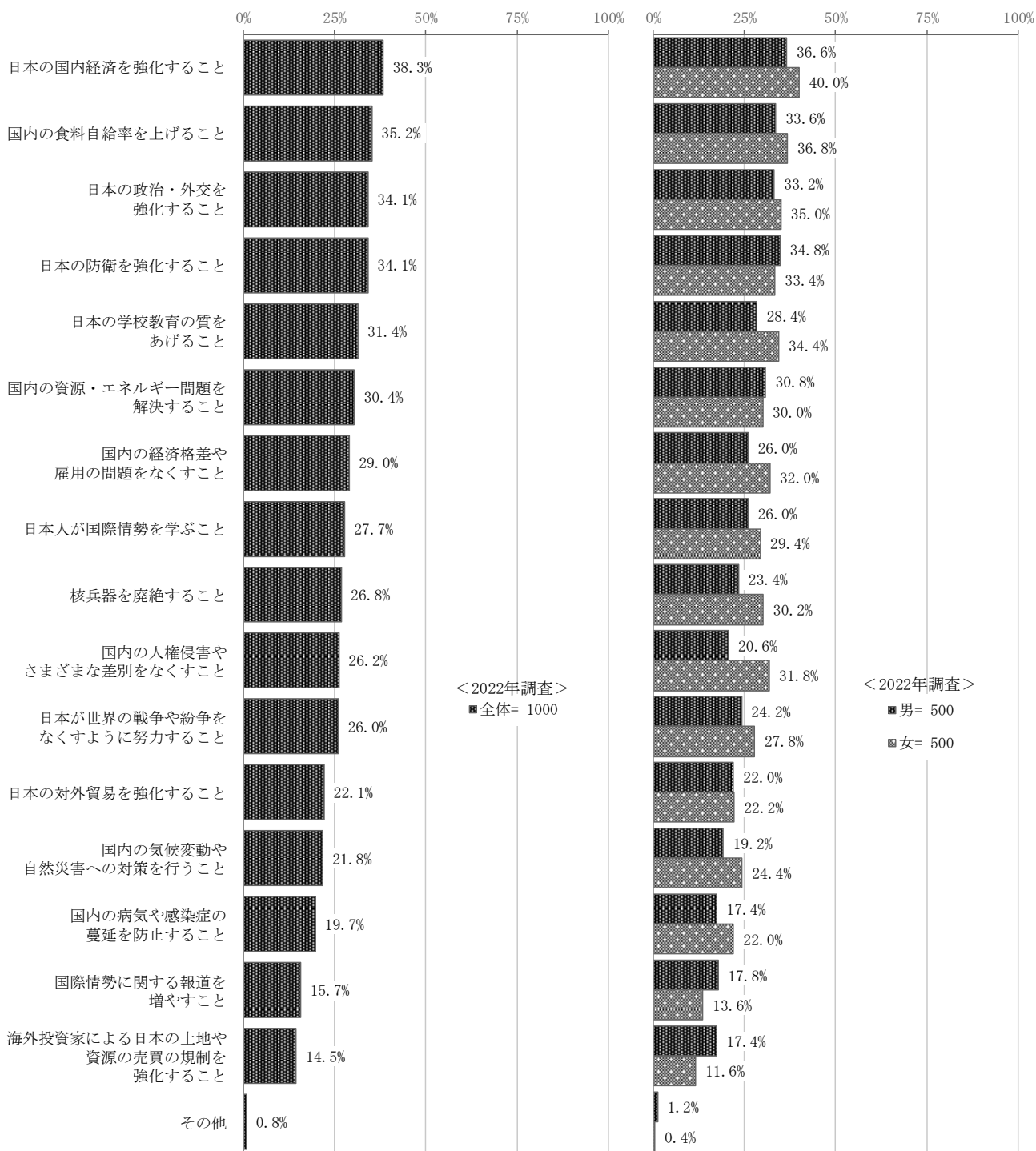


注 「その他」には、「税金を減らすこと」「労働のための外国人の存在は日本に不要だと思う」「アサーティブを強制」「消費者教育を強化すること」「わからない」があった。

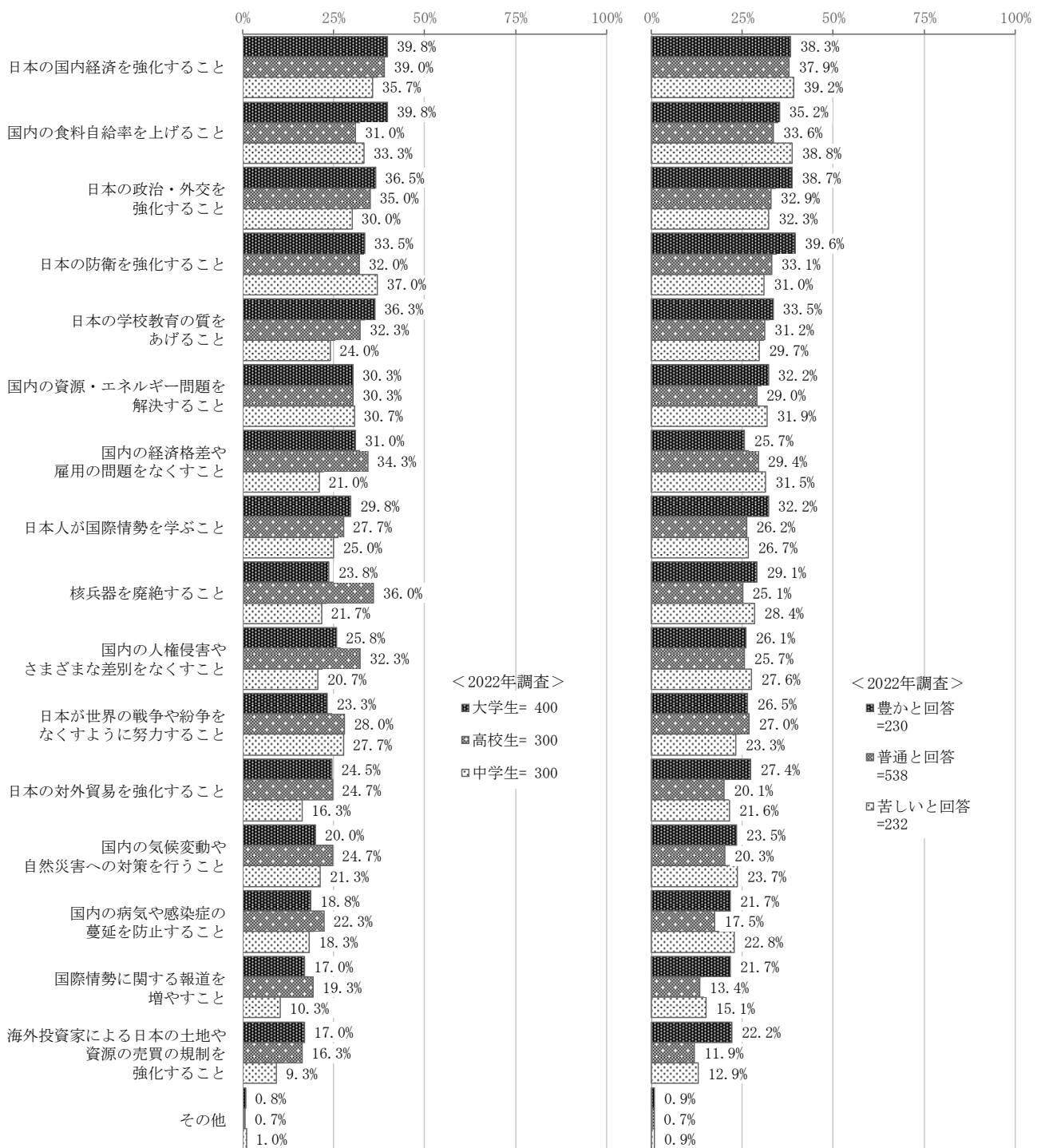


注 「その他」には、「税金を減らすこと」「労働のための外国人の存在は日本に不要だと思う」「アサーティブを強制」「消費者教育を強化すること」「わからない」があった。

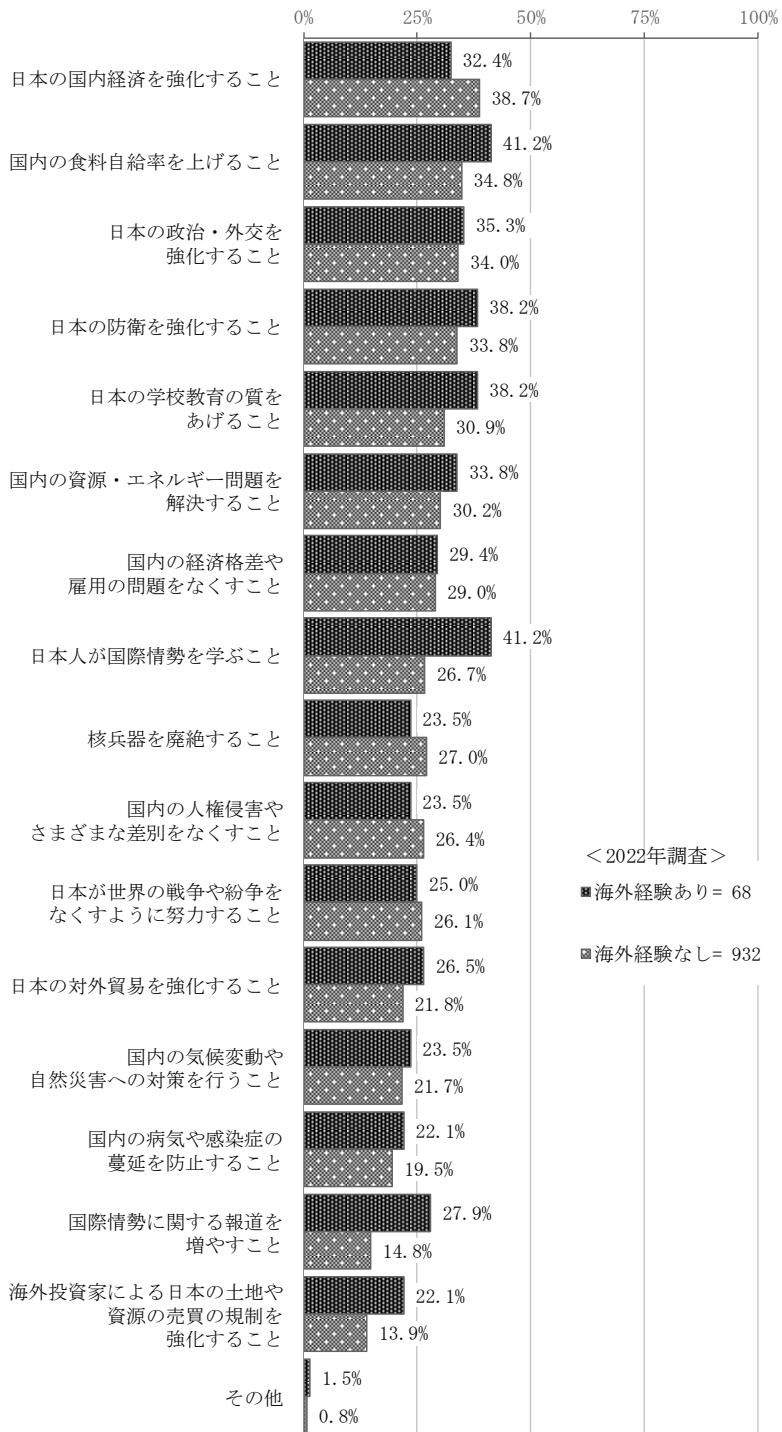
(参考) 図表 4.2.1. 日本の平和を守るために大事なこと (複数選択) 前回調査



注 「その他」には、「政治家やマスコミが真面目になること」「日本人の洗脳を解くこと」「核兵器を持つことを考える」「防災」「国の債務を減らす」「給料を上げる」「政治家を変える」「日本人がどうしたらより良い生活ができるか考えること」があった。



注 「その他」には、「政治家やマスコミが真面目になること」「日本人の洗脳を解くこと」「核兵器を持つことを考える」「防災」「国の債務を減らす」「給料を上げる」「政治家を変える」「日本人がどうしたらより良い生活ができるか考えること」があった。



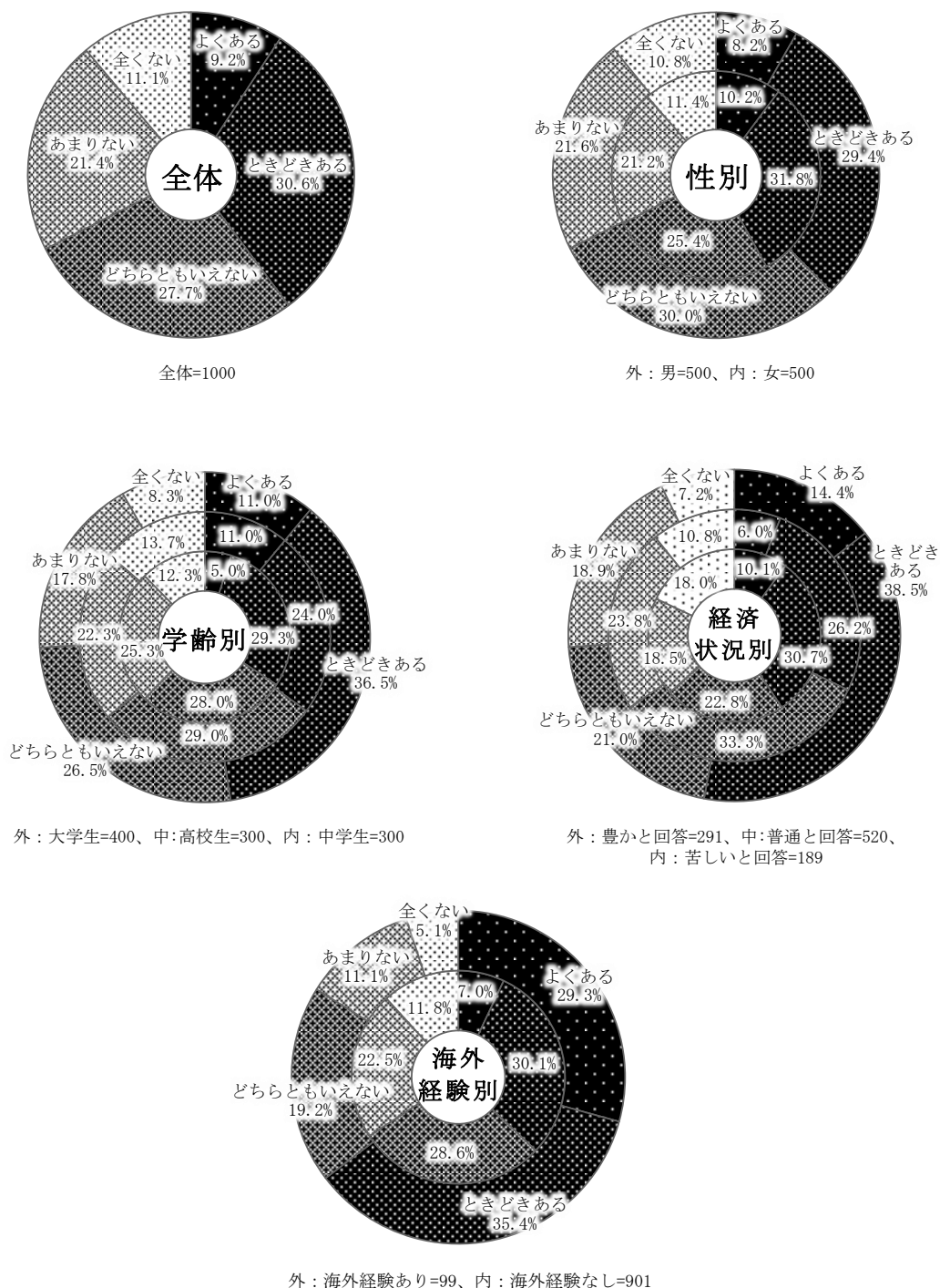
注 「その他」には、「政治家やマスコミが真面目になること」「日本人の洗脳を解くこと」「核兵器を持つことを考える」「防災」「国の債務を減らす」「給料を上げる」「政治家を変える」「日本人がどうしたらより良い生活ができるか考えること」があった。

5. 多様性について

5.1. 多様な背景を持つ人と接する機会

- 多様な背景（国籍・文化・性別・障害など）を持つ人と接する機会があると答えた若者（「よくある」「ときどきある」）は全体の39.8%である。
- 経済状態別でみると、普通と回答（32.2%）、苦しいと回答（40.8%）した若者と比べて、豊かと回答した若者（52.9%）は、多様な背景を持つ人と接する機会が多い。
- 海外経験の有無別でみると、海外経験なしと回答した若者（37.1%）と比べて、海外経験ありと回答した若者（64.7%）は、多様な背景を持つ人と接する機会が多い。

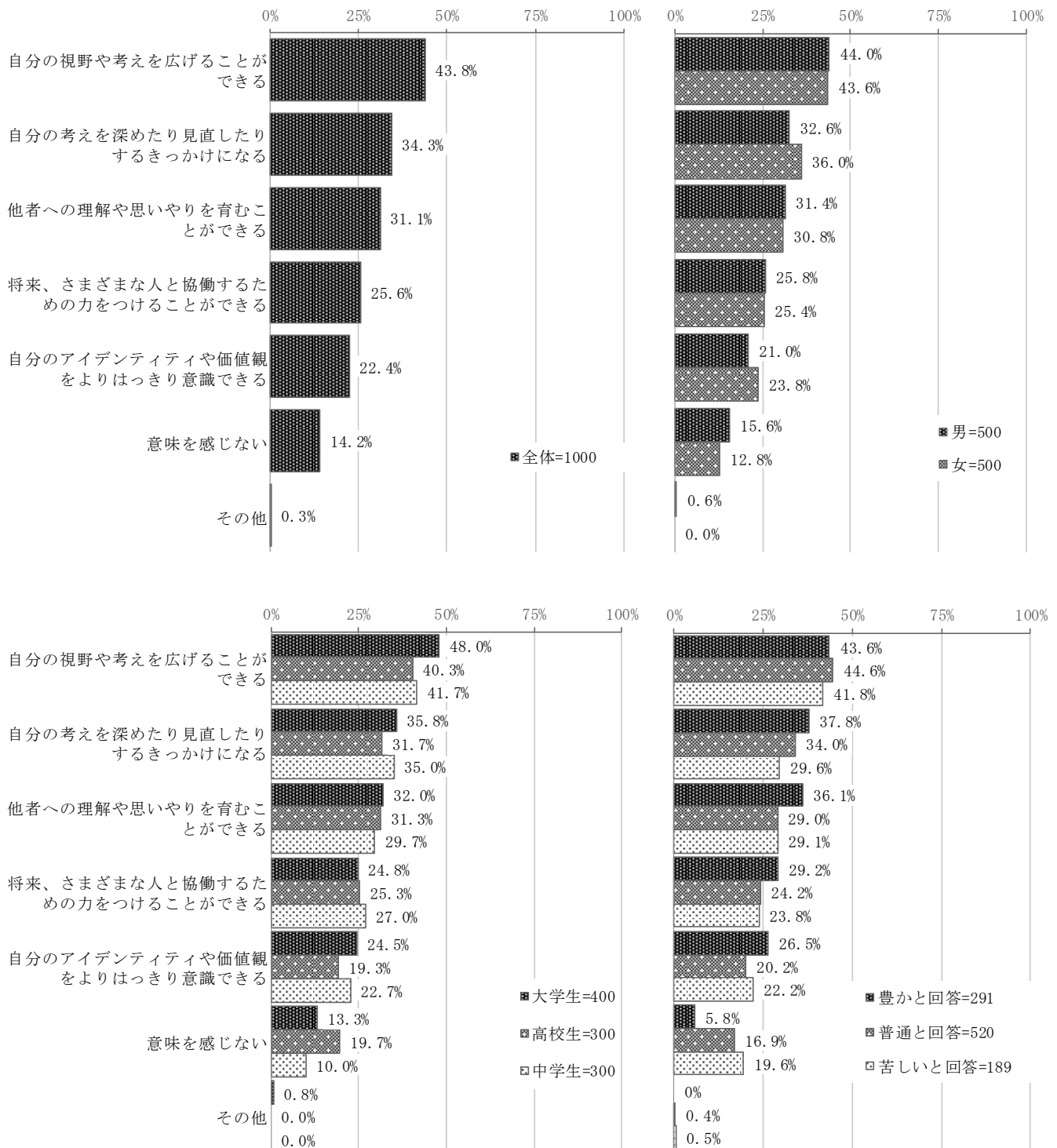
図表 5.1. 多様な背景を持つ人と接する機会（単一選択）



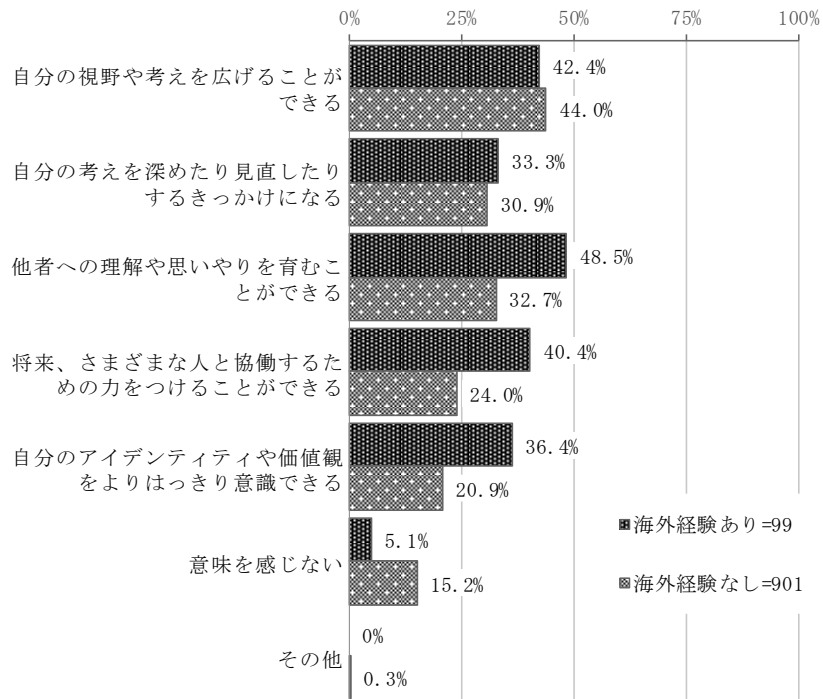
5.2. 異なる価値観や文化に触れることの意味

- 異なる価値観や文化に触れることは、どのような意味があると思うか尋ねたところ、最も回答が多いのが「自分の視野や考えを広げることができる」(43.8%)であり、次に「自分の考えを深めたり見直したりするきっかけになる」(34.3%)である。
- 海外経験別では「他者への理解や思いやりを育むことができる」(海外経験あり：48.5%、海外経験なし：32.7%)、「将来、さまざまな人と協働するための力をつけることができる」(海外経験あり：40.4%、海外経験なし：24.0%)、「自分のアイデンティティや価値観をよりはっきり意識できる」(海外経験あり：36.4%、海外経験なし：20.9%)と回答率に差が大きい。

図表 5.2. 異なる価値観や文化に触れることの意味（複数選択）



注 「その他」には、「わからない」があった。

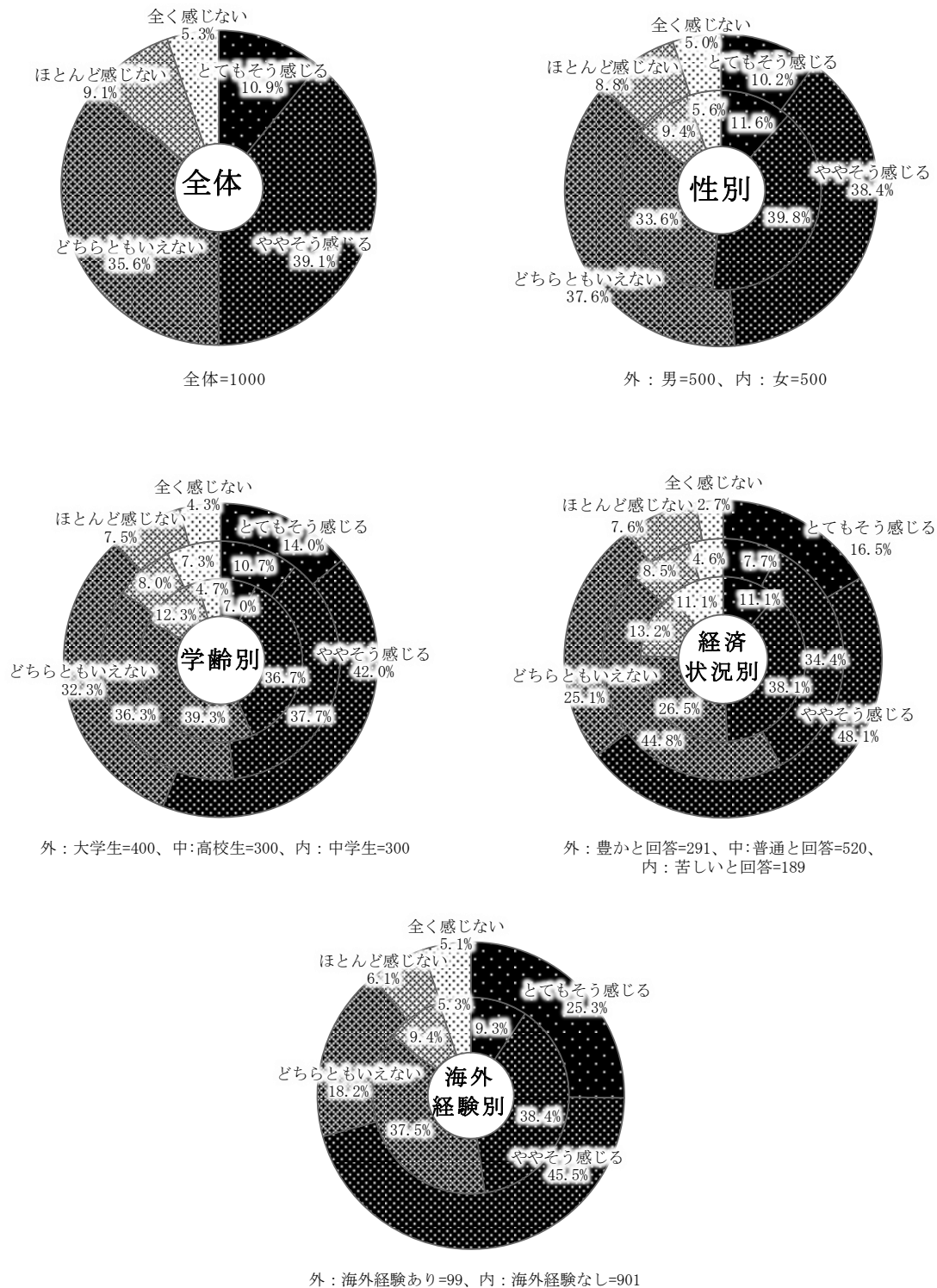


注 「その他」には、「わからない」があった。

5.3. 身近な環境が、さまざまな違いを尊重していると感じるか

- 身近な環境が、さまざまな違いを尊重していると感じると答えた若者は、全体の半分(50.0%)である。
- 性別ごとでは、男子は48.6%、女子は51.4%であり、女子の方がやや高い。
- 肯定的な回答を海外経験の有無別でみると、海外経験ありと回答した若者(70.8%)は、海外経験なしと回答した若者(47.7%)を大きく上回っている。

図表 5.3. 身近な環境が、さまざまな違いを尊重していると感じるか（単一選択）

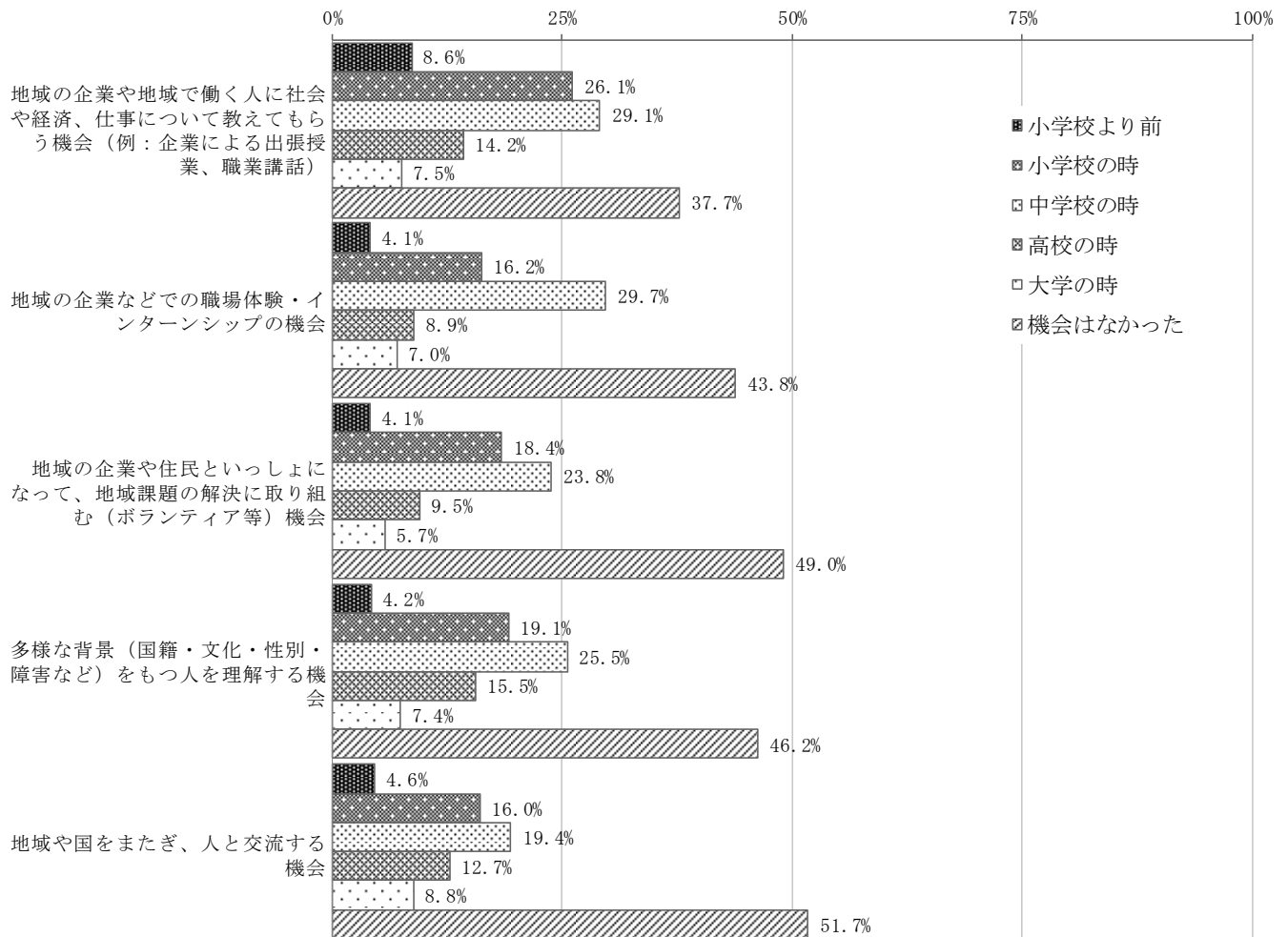


6. 社会参加について

6.1. 在学中の社会参加の機会

- これまで、学校の授業のなかで各項目に参加する機会について尋ねたところ、学齢別ではどの項目も「中学校の時」、「小学校の時」の順で高くなっている。
- 一方、どの項目でも「機会はなかった」と回答した若者が4～5割であり、社会参加の機会に格差があることがうかがえる。

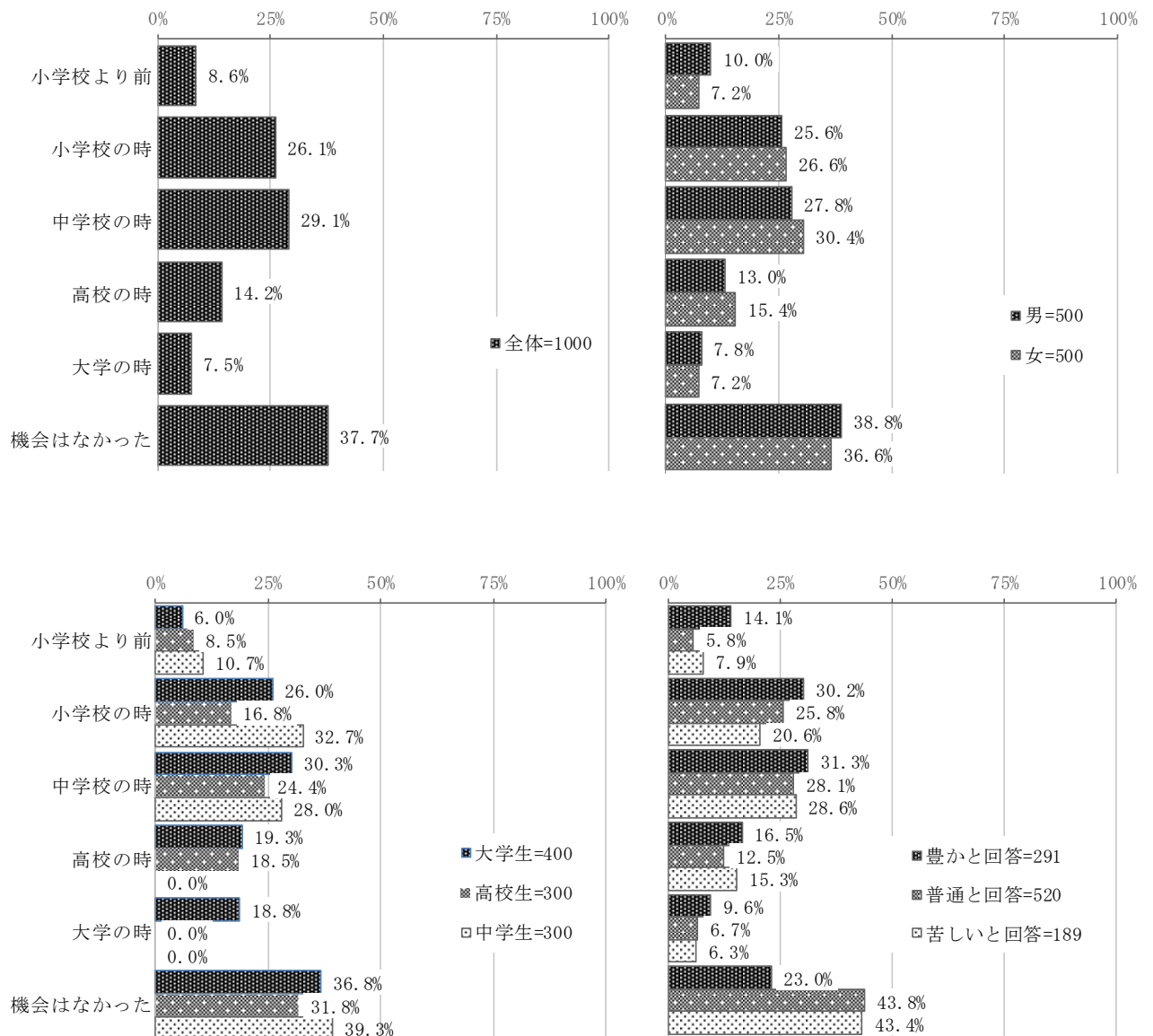
図表 6.1. 在学中の社会参加の機会（複数選択）

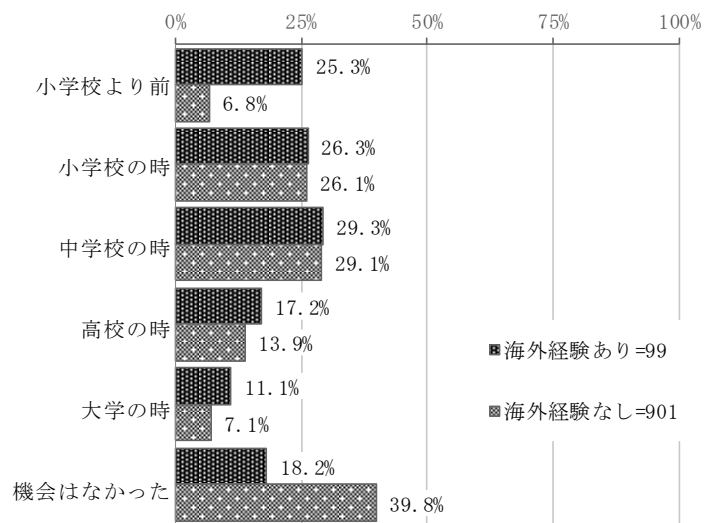


6.1.1. 地域の企業や地域で働く人に社会や経済、仕事について教えてもらう機会

- 地域の企業や地域で働く人に社会や経済、仕事について教えてもらう機会（例：企業による出張授業、職業講話）について尋ねたところ、「機会はなかった」（37.7%）が最も多く、次いで「中学生の時」（29.1%）、「小学生の時」（26.1%）の順で続く。
- 経済状況別にみると、「機会はなかった」の選択率は普通・苦しいと回答した若者（普通：43.8%、苦しい：43.4%）が、豊かと回答した若者（23.0%）に比べて20pt以上高い。
- 海外経験別にみると、「機会はなかった」の選択率は海外経験なしと回答した若者（39.8%）が、海外経験ありと回答した若者（18.2%）に比べて20pt以上高かった。

図表 6.1.1. 地域の企業や地域で働く人に社会や経済、仕事について教えてもらう機会（複数選択）

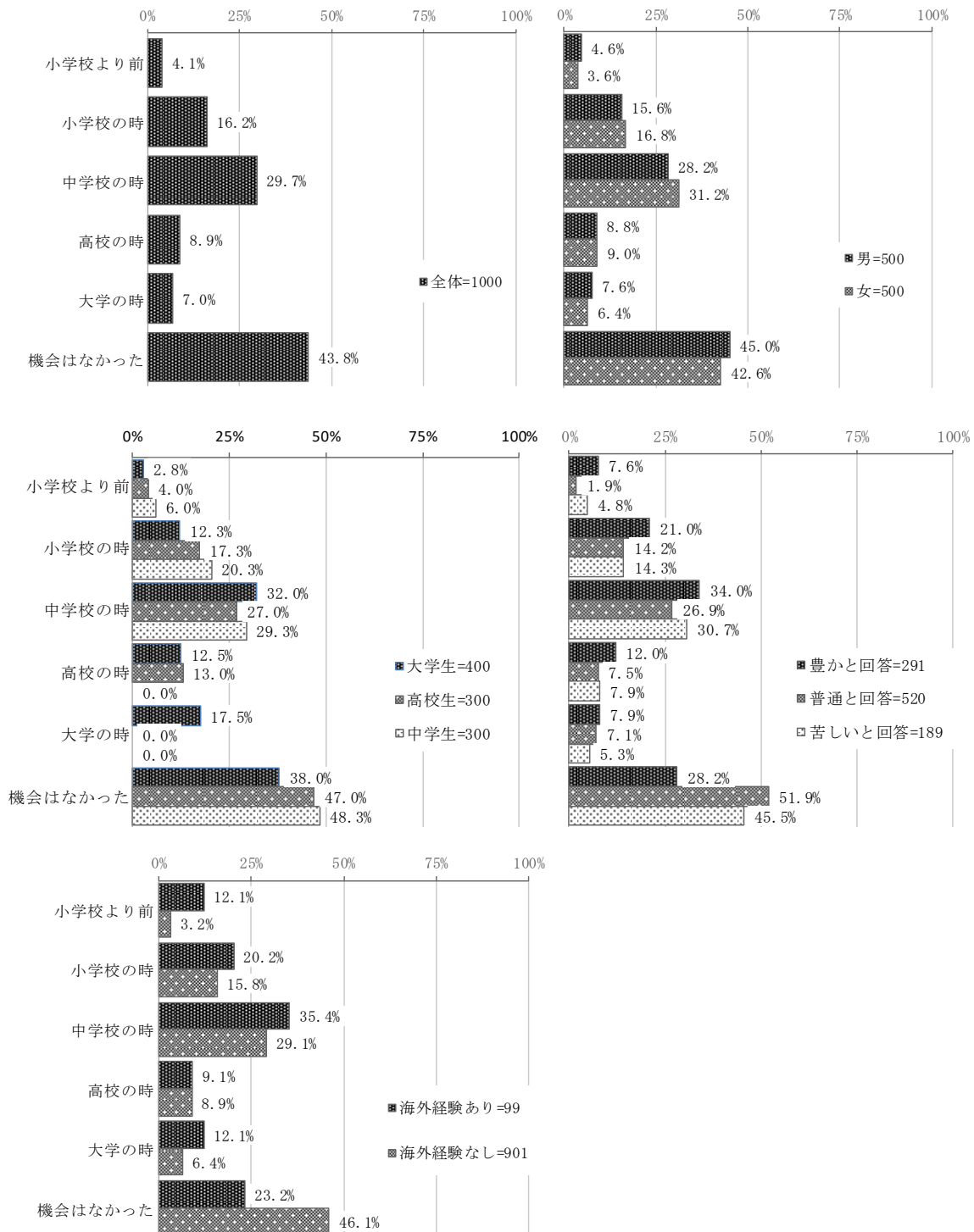




6.1.2. 地域の企業などでの職場体験・インターンシップの機会

- 地域の企業などでの職場体験・インターンシップの機会について尋ねたところ、「機会はなかった」(43.8%) が最も多く、次いで「中学生の時」(29.7%)、「小学生の時」(16.2%) の順で続く。
- 経済状況別にみると、「機会はなかった」の選択率は普通・苦しいと回答した若者(普通：51.9%、苦しい：45.5%)が、豊かと回答した若者(28.2%)に比べて15pt 以上高い。
- 海外経験別でみると、「機会はなかった」の選択率は海外経験なしと回答した若者(46.1%)が、海外経験ありと回答した若者(23.2%)に比べて20pt 以上高い。

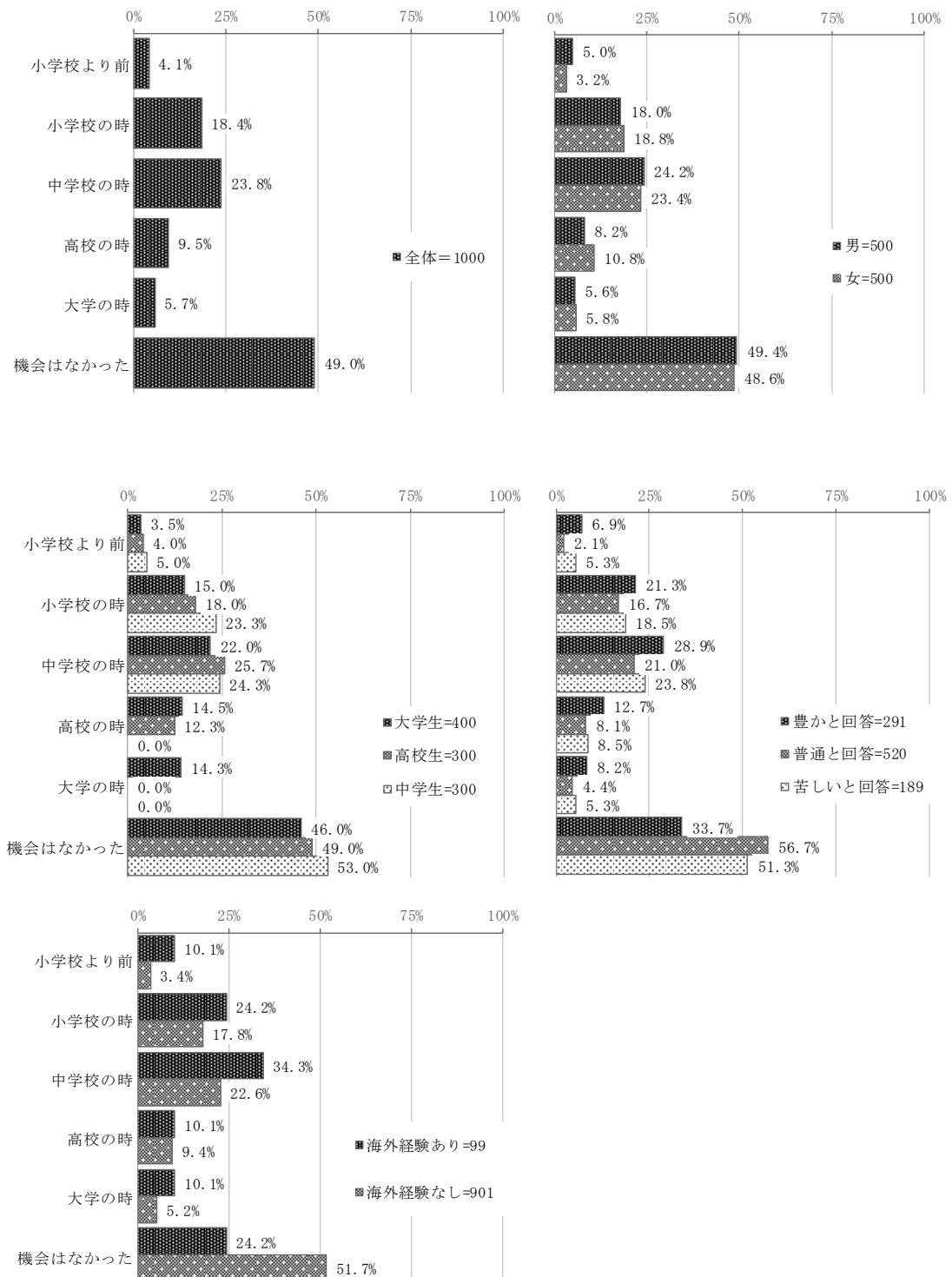
図表 6.1.2. 地域の企業などでの職場体験・インターンシップの機会（複数選択）



6.1.3. 地域の企業や住民といっしょになって、地域課題の解決に取り組む機会

- 地域の企業や住民といっしょになって、地域課題の解決に取り組む（ボランティア等）機会について尋ねたところ、「機会はなかった」（49.0%）が最も多く、次いで「中学生の時」（23.8%）、「小学生の時」（18.4%）の順で続く。
- 経済状況別にみると、「機会はなかった」の選択率は普通・苦しいと回答した若者（普通：56.7%、苦しい：51.3%）が、豊かと回答した若者（33.7%）に比べて15pt 以上高い。
- 海外経験別でみると、「機会はなかった」の選択率は海外経験なしと回答した若者（51.7%）が、海外経験ありと回答した若者（24.2%）に比べて20pt 以上高い。

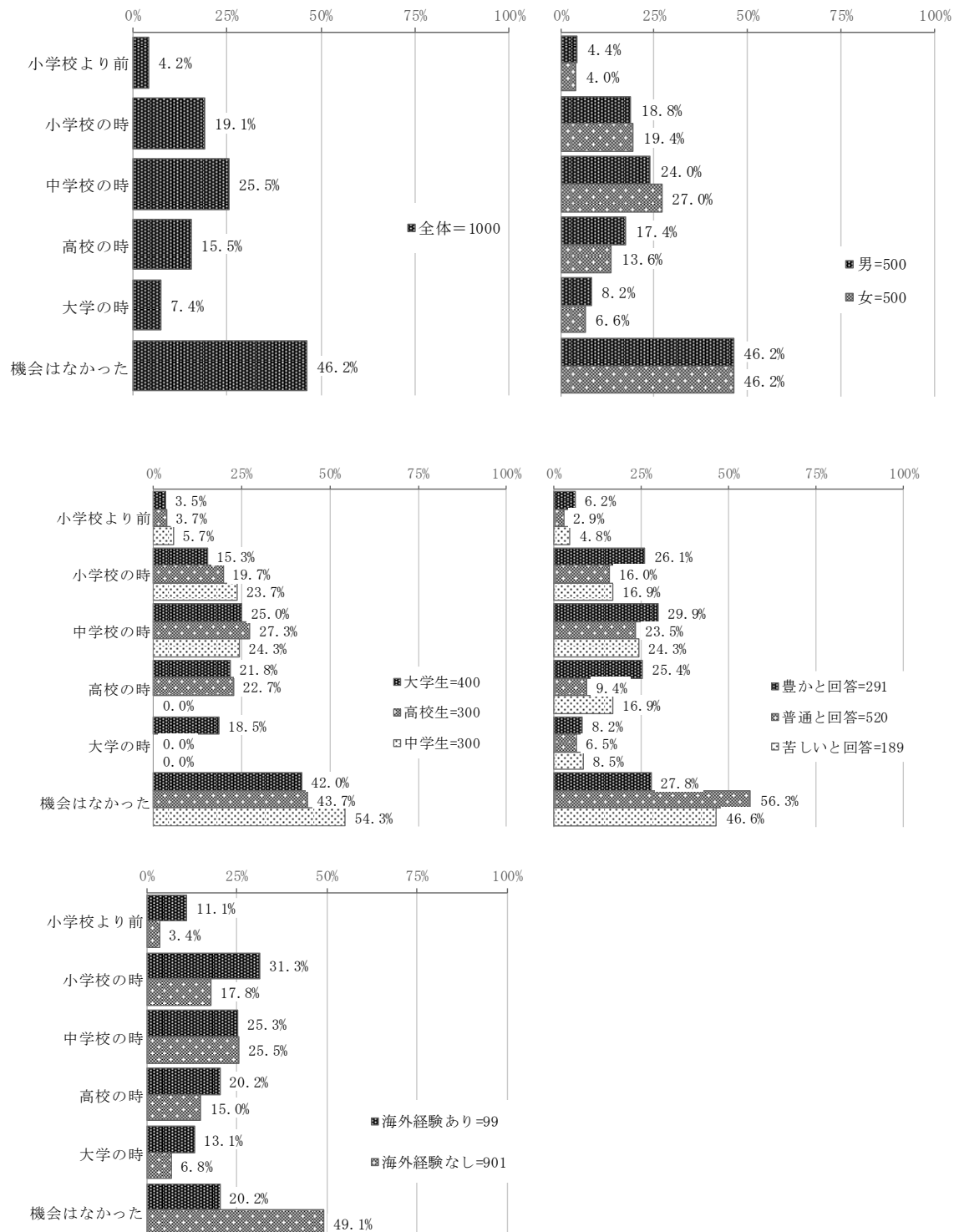
図表 6.1.3. 地域の企業や住民といっしょになって、地域課題の解決に取り組む機会（複数選択）



6.1.4. 多様な背景（国籍・文化・性別・障害など）をもつ人を理解する機会

- 多様な背景（国籍・文化・性別・障害など）をもつ人を理解する機会について尋ねたところ、「機会はない」（46.2%）が最も多く、次いで「中学生の時」（25.5%）、「小学生の時」（19.1%）の順で続く。
- 経済状況別にみると、「機会はない」の選択率は普通・苦しいと回答した若者（普通：56.3%、苦しい：46.6%）が、豊かと回答した若者（27.8%）に比べて15pt以上高い。
- 海外経験別でみると、「機会はない」の選択率は海外経験なしと回答した若者（49.1%）が、海外経験ありと回答した若者（20.2%）に比べて20pt以上高い。

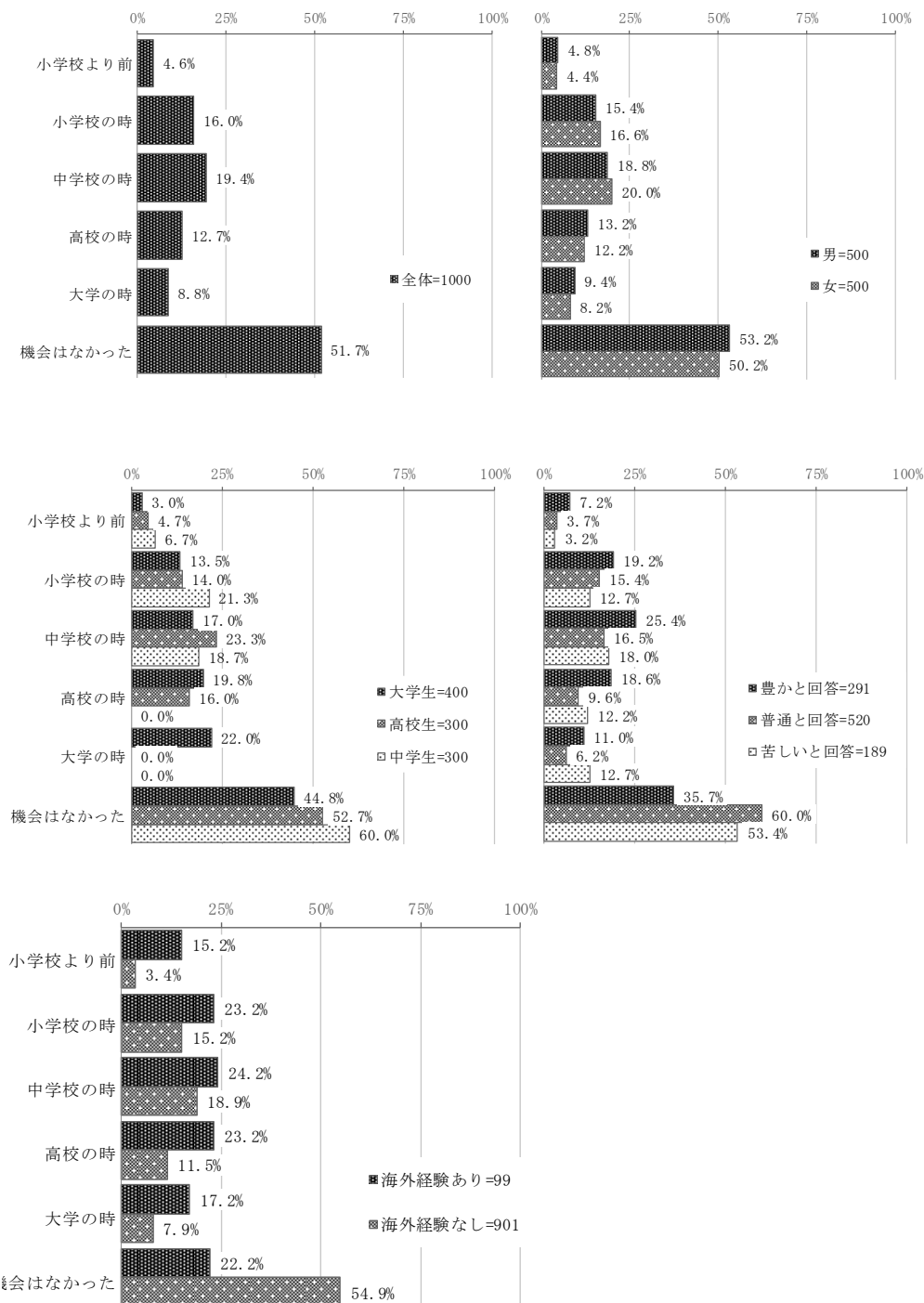
図表 6.1.4. 多様な背景（国籍・文化・性別・障害など）をもつ人を理解する機会（複数選択）



6.1.5. 地域や国をまたぎ、人と交流する機会

- 地域や国をまたぎ、人と交流する機会について尋ねたところ、「機会はなかった」(51.7%)が最も多く、次いで「中学生の時」(19.4%)、「小学生の時」(16.1%)の順で続く。
- 経済状況別にみると、「機会はなかった」の選択率は普通・苦しいと回答した若者（普通：60.0%、苦しい：53.4%）が、豊かと回答した若者（35.7%）に比べて15pt以上高い。
- 海外経験別でみると、「機会はなかった」の選択率は海外経験なしと回答した若者（54.9%）が、海外経験ありと回答した若者（22.2%）に比べて30pt以上高い。

図表 6.1.5. 地域や国をまたぎ、人と交流する機会（複数選択）



7. 次世代からのメッセージ

- 「次世代からのメッセージ」として企業に向けたもの（7.1）、大人に向けたもの（7.2）の2種類を自由記述で設定し、回答を得た。
- 企業に対しては、働く人を大切にする企業経営や社会課題への真摯な取り組みを求める声が多くみられた。一方、大人に対しては、子どもや若者の未来を見据えた行動や、教育・平和・社会のあり方について責任ある対応を求める意見が寄せられた。

（多かった声のハイライト）

企業に向けたメッセージ	大人に向けたメッセージ
・働く人を大切にしてほしい	・子どもや若者の未来を考えてほしい
・給料や待遇を改善してほしい	・次世代に負担を押し付けないでほしい
・安心して働ける職場を増やしてほしい	・子どもの声や意見をもっと社会に反映してほしい
・環境問題や社会課題に真剣に取り組んでほしい	・教育をより良くしてほしい
・社会に役立つ商品やサービスを提供してほしい	・将来を見据えた政策や社会づくりを進めてほしい
・日本の技術力や競争力を高めてほしい	・平和な社会を維持してほしい
・若者の挑戦を応援してほしい	・若者と一緒に社会課題に向き合ってほしい
・長期的な視点で経営してほしい	・自分たちの世代だけでなく次世代のことも考えてほしい
・次世代が希望を持てる社会をつくってほしい	・大人自身が手本となる行動をしてほしい
・日本の未来のために行動してほしい	・若者の可能性を信じてほしい

※自由記述回答を生成 AI により要約・分類し、主な意見を抜粋して掲載。

7.1 日本の企業に向けたメッセージ

日本の企業に対して日頃考えていること、感じていること、日本がより良い国として存続し続けるために伝えたいメッセージ等の記入を依頼したところ、以下の回答を得た。

社会課題・環境・SDGs に関すること（一部抜粋） 同様回答 162 件

- 環境を守りながら商品を作って欲しい。（中学生・女）
- 環境に優しいものを作り続けてください。（高校生・女）
- 再生エネルギーの取り組みを強化してほしい。（中学生・男）
- SDGs の取り組みをより強化すべき。（大学生・男）
- グリーンウォッシュしないでほしい。もっといろんなバックグラウンドの人たちが働きやすい環境にしてほしい。SDGs に真剣に取り組んでほしい。（大学生・女）
- 利益ばかりを追求していて、「SDGs」と言っているだけとか、男性育休取得率 100%と言っているだけで実態はどうなのかわからない。（大学生・女）
- パフォーマンスではなく実際の行動を見せてほしい。（大学生・男）
- 表面だけの社会問題対策をやめてほしい。（大学生・男）
- 企業アピールだけにしないで欲しい。（高校生・女）
- 利益を追うだけではなく日本人みんなが協力していける社会を作ってほしい。（中学生・男）
- 自分たちの利益だけでなく、街や地域全体への貢献を考えてほしい。（大学生・男）
- 次の世代のことを考えてほしい。（高校生・女）

企業姿勢に関すること（一部抜粋） 同様回答 136 件

- 若者向けの雇用をつくってほしい。（中学生・女）
- もっと若者の意見を聞いてほしい。（大学生・男）

- ➡ 利益にとらわれずに、若い世代の声を聞いて欲しい。(大学生・女)
- ➡ 若者を「未熟」と決めつけるのではなく、意見を聞き、失敗を許し、挑戦できる環境を本気でつくってほしい。(高校生・女)
- ➡ 学歴じゃない何かを見て人を集めて欲しい。(中学生・女)
- ➡ 世界に誇れる企業になってほしい。(高校生・女)
- ➡ 日本の企業が持っている独自技術や強みを生かして、日本の発展に貢献し安定的な雇用を確保して欲しい。(大学生・男)
- ➡ もっとがめつく世界に進出して Japanese ブランドを広めて欲しい。(大学生・男)
- ➡ 日本を支える企業として、若い世代への投資や教育にも力を入れてほしい。(大学生・女)

労働環境・雇用・賃金に関すること (一部抜粋) 同様回答 102 件

- ➡ 働く人を大切にしてほしい。(中学生・女)
- ➡ もっと従業員に対して給与を出してもらいたい。(中学生・男)
- ➡ もっと労働者に利益を還元してほしい。(中学生・男)
- ➡ 休みが少ない。就労時間が長い。人を人として扱っていない。(大学生・男)
- ➡ 完全週休 3 日制を基本にしてほしい。(高校生・女)
- ➡ 長時間労働、年功序列、私生活への無駄な介入などの昭和っぽい考え方をアップデートしていく必要があると思います。(大学生・女)
- ➡ 誰もが安心して働けるような環境を作って欲しい。(大学生・男)
- ➡ 若い世代が将来に希望を持てるような働き方を実現してほしい。(大学生・女)
- ➡ 日本の企業には、表向きの綺麗な言葉だけでなく、中で働く人が本音を持ち続け、実際に行動できる環境を大切にしてほしいです。(大学生・女)

激励や高評価 (一部抜粋) 同様回答 50 件

- ➡ 頑張ってください。(中学生・男)
- ➡ 今後も持続可能な日本社会と強い経済に取り組み、消費者のニーズを把握して柔軟に対応して欲しいです。(大学生・男)
- ➡ これからも積極的に社会貢献活動を取り組んで、企業の責任を果たして経済を円滑に進めて欲しいです。(大学生・男)

7.2 大人たちに向けたメッセージ

大人たち（政府、政治家、先生、家族、親戚など）に対して日頃考えていること、感じていること、日本がより良い国として存続し続けるために伝えたいメッセージ等の記入を依頼したところ、以下の回答を得た。

社会全体・将来世代への責任に関すること (一部抜粋) 同様回答 269 件

- ➡ 子供は日本の宝物。(大学生・女)
- ➡ 安心して暮らせるような環境を作って欲しい。(大学生・男)
- ➡ 次の世代が暮らしやすい国にしてほしい。(中学生・男)
- ➡ 若者のために何か残してほしいです。今の資産を食いつぶさないでほしい。(大学生・男)
- ➡ 将来世代への責任や結果の押しつけはするべきではない。(大学生・女)
- ➡ 我々次世代に責任を押し付けないでね。(高校生・男)
- ➡ 未来ある若者たちへ引き継ぐ、持続可能な日本社会への貢献に努めて下さい。(大学生・男)

子ども・若者の声を聞くことに関すること (一部抜粋) 同様回答 96 件

- ➡ 子供の意見きいて。(中学生・女)
- ➡ 子どもの意見も聞いてほしい。(中学生・女) ____
- ➡ 子供の考えも聞いて欲しい。(中学生・女) ____
- ➡ 若い世代の声をもっと聞き、失敗を恐れず挑戦できる社会をつくってほしい。(大学生・男) ____
- ➡ 私たちを見て欲しい。(大学生・女) ____

→ 最近の大人の中には、彼らより下の世代にものを教えることができるほど精神的に成熟したものは少ないと感じる。(大学生・男) ____

大人の姿勢・生き方に関すること（一部抜粋） 同様回答 124 件

- 子どもたちに誇れる大人であってほしい。(大学生・男) ____
 - 子供たちに対して恥じることのない大人でいてほしい。(中学生・男) ____
 - 手本になってほしい。(中学生・男) ____
 - 自分の言動に責任をもって、背中を追いたいと思える人になってほしい。(高校生・女) ____
 - 子どもたちのお手本になるように頑張ってください。(大学生・男) ____
 - 大人がやらなければ子供はやりません。(高校生・女) ____
-

夢や挑戦、働き方に関すること（一部抜粋） 同様回答 51 件

- 就職活動をしていて感じたのは、「大人になると夢を語らなくなる人が多い」ということです。(大学生・女)
 - 効率やお金だけでは測れない「やりがい」や「面白さ」についても語ってほしいと思っています。(大学生・女)
 - 大人になっても夢を見ていいんだと勇気をもらえる社会であってほしい。(大学生・女)
 - 深く考えないで楽に生きて。(高校生・女)
 - 働いて偉い。(高校生・女)
-

激励や高評価（一部抜粋） 同様回答 40 件

- 日本を良くしてください。(高校生・女)
- 明るい未来の日本を取り戻す活動に励んで下さい。(大学生・男)